Vol. 8, Suppl. April, 1959

JAPANESE JOURNAL OF PARASITOLOGY

寄生虫学雑誌

第8巻 昭和34年4月 附録

編集委員
小宮義孝・松林久吉・宮崎一郎
森下薫・佐々学・山下次郎

淺見敬三所藏

文献集線虫篇

2-d-5) 鞭虫

2-d-6) 桿線虫

2-e) 糸状虫

日本寄生虫学会

東京都品川区上大崎長者丸 国立予防衛生研究所内

まえがき

日本寄生虫学文献集の 2. 線虫篇のうちの 糸状虫の 部と鞭虫および桿線虫の部が出来上つたので，ここに文献集の第3冊を出版する。以前に同様の企てがなされたときは，吸虫篇だけしか出版されなかつたのが，今度はぞくぞくと出版されるので同慶のいたりである。それにしても編集の労をとつていただいた諸氏にたいしては，会員一同とともに厚く感謝のことばをささげたい。

なお，本冊の収めた部は，便宜上鞭虫と桿線虫とを 2. 線虫篇の d-4)，d-5) として，また糸状虫を同 e) として見出しをつけておいた。さきの第2冊にそのままつづくものである。

1959年3月16日

文献集編集主任　小宮義孝

凡例

1) 本文献集は 2. 線虫篇，d-4) 鞭虫，d-5) 桿線虫と e) 糸状虫とに関する1958年2月迄の日本における業績を含む。

2) 学会において発表されたものの抄録は，文献末尾に(会)をもつて示した。たゞし，日本寄生虫学会記事のみは全部この記号を省略した。

3) 採録した範囲は，原則として日本人により日本又は外国の学術雑誌に発表された業績に止めたが，外国人が日本で得た業績を外国雑誌に発表したものも含めた。このことは，すべて論文が発表された当時の国籍にもとづく。

4) その他の凡例，使用上の注意は略々既刊の文献集に従つたが採録雑誌略称は既刊の文献集所載以外の雑誌があり，また正式の略称のあるものはそれに従つた為に改めて記載し，且若干の変更を行つた。

1958年2月

編集者

東京大学伝染病研究所寄生虫研究部　佐々　学

東京農工大学家畜内科学教室　久米清治

岐阜県立医科大学寄生虫学教室　森下哲夫

文献集糸状虫篇に関しての注意事項

1. 本文献集の糸状虫と称するものは，今日の分類（Chitwood and Chitwood, 1950 に準拠）で糸状虫上科 Superfamily Filariodea（Weinland, 1958）Steiles, 1907 に属するものに限るものとする。
2. 集録したものは既刊各誌を渉猟した以外に，文部省総合研究費による糸状虫研究班員及び糸状虫研究者各位に連絡して直接それぞれの発表を知らせて頂き，遺漏なきを期した。
3. 掲載様式は人体並びに野生及び実験動物に寄生するもの（第 I 部： 佐々学編）と，家畜に寄生するもの（第 II 部： 久米清治編）とにわけ，後者は更に脳脊髄糸状虫症，涸晴虫症，皮膚糸状虫症を独立させ，各々を種類別に排列した。なお，脳脊髄糸状虫症及び皮膚糸状虫症については最近非糸状虫説も唱えられているので，これらの文献も包括することゝした。また，*Setaria cervi, S. digitata, S. labiato-papillosa* はシノニムとも云われるが，生物学的観点，特に非固有宿主に対する病原性からすれば必ずしも同一種と思われぬ点も多いので，一応原著者の選んだ種名通りに分類することとした。
4. 第 III 部は，内容の項目別索引としたが，人寄生，家畜寄生，諸種動物寄生の三部に分け，それぞれ種類別に細分して検索の便利に資した。各部，各項目及び各種類にまたがる業績は各々の部位に重複採録した。又，文献の特に少ないものについては省略した。
5. 編集に当つては北村精一教授を班長とする文部省科学研究費，糸状虫班の御援助を仰ぎ，第 I 部については押田圭子氏の長期に亘る協力を得たことを特記する。

佐 々 学
久 米 清 治

目　次

まえがき……1
凡　例……1
採録雑誌略称……4
d-4）鞭　虫……7
d-5）桿線虫……11
e）糸状虫……13
第Ｉ部　人寄生糸状虫著者別目録（家畜以外の諸動物の糸状虫を含む）……14
第II部　家畜寄生糸状虫著者別目録……35
A　*Dirofilaria immitis*……35
B　*Onchocerca cericalis*……41
C　*Onchocerca gibsoni*……42
D　*Onchocerca gutturosa*……42
E　*Onchocerca* spp.……42
F　*Parafilaria multipapillosa*……42
G　*Setaria bernardi*……42
H　*Setaria cervi*……43
I　*Setaria digitata*……43
J　*Setaria equina*……44
K　*Setaria labiato-papillosa*……45
L　*Setaria marshalli*……45
M　家禽の糸状虫……45
N　脳脊髄糸状虫症（非糸状虫説によるものを含む）……46
a　緬・山羊……46
b　馬……51
c　牛……52
O　涸睛虫症……52
a　馬……52
b　牛……52
c　緬・山羊……52
P　皮膚糸状虫症（非糸状虫説によるものを含む）……53
a　馬（夏瘡）……53
b　牛（わひ又はこせ）……55
Q　その他……56
第III部　項目別索引……57
I　人糸状虫……57
A　*Wuchereria bancrofti*……57
B　*Wuchereria malayi*……60
II　家畜糸状虫……60
A　*Dirofilaria immitis*……60
I　*Setaria digitata*……61
N　脳脊髄糸状虫症……62
a　緬・山羊……62
b　馬……63
P　皮膚糸状虫症……63
a　馬（夏瘡）……63
b　牛（わひ又はこせ）……64
III　諸種動物寄生糸状虫……64

採録雑誌略称

A
愛知医誌……愛知医学会雑誌
麻布獣研報…麻布獣医科大学研究報告

B
バ獣薬………バイエル獣医用薬品文献集
ベテマガ……ベテリナリーマガジン
病理紀………病理学紀要

C
鎮西医報……鎮西医報
治療…………治療
治療誌………治療学雑誌
治処…………治療及び処方
治薬報………治療薬報
畜研究………畜産の研究
畜友…………畜産の友
畜試彙報……畜産試験場彙報
畜獣月報……畜産獣医月報
朝博…………朝鮮博物学会雑誌
朝鮮医誌……朝鮮医学会雑誌
朝緬…………朝鮮緬羊協会緬羊腰麻痺調査会
朝獣畜誌……朝鮮獣医畜産学会誌
中外医報……中外医事新報
中獣医誌……中央獣医学雑誌
中獣医会誌…中央獣医会雑誌
中央医誌……中央医学雑誌

D
同仁会医誌…同仁会医学雑誌

E
衞動…………衞生動物
衞査…………衞生検査

G
学月…………学術月報別冊資料
眼臨医報……眼科臨床医報
学術風土研報‥学術会議風土病研究特別委員会報告
現代獣………現代の獣医界
軍医団誌……軍医団雑誌
軍医誌………軍医学会雑誌
グレンツ……グレンツゲビート
行刑衞生……行刑衞生
岐阜医紀……岐阜医科大学紀要

F
皮泌誌………皮膚科泌尿器科雑誌
皮紀要………皮膚科紀要
皮最進………皮膚科最近の進歩
皮性誌………皮膚科性病科雑誌
皮と泌………皮膚と泌尿
泌紀要………泌尿器科紀要

弘前医………弘前医学
福岡医誌……福岡医学雑誌
福岡医大誌…福岡医科大学雑誌
福岡衞生誌…福岡衞生学集談会誌

H
保安衞生……保安衞生
北越医誌……北越医学会雑誌
北獣…………北海道獣医界

I
医海事報……医海事報
医学研究……医学研究
医事公論……医事公論
医生…………医学と生物学
医学中央誌…医学中央雑誌
医展…………医界展望
医事新聞……医事新聞
医事月報……医事月報
岩手医専誌…岩手医学専門学校雑誌

K
鹿児島医誌…鹿児島医学雑誌
鹿児島医大紀‥鹿児島医科大学紀要
鹿児島大医誌‥鹿児島大学医学雑誌
鹿児島大医紀‥鹿児島県立大学医学部紀要
鹿児島医専報‥鹿児島医学専門学校学術報告
鹿児島農報…鹿児島大学農学部学術報告
海軍医誌……海軍軍医会雑誌
海医提………海軍医事提要
家畜衞生……家畜衞生
家畜衞報……家畜衞生協会報
家畜保衞報…家畜保健衞生技術研究会報
家衞試報……農林省家畜衞生試験場研究報告
家衞試抄……農林省家畜衞生試験場講演内容抄録
家畜衞統……家畜保健衞生統計
家診…………家畜診療
慶応…………慶応医学
研瑤誌………研瑤会雑誌
寄生虫誌……寄生虫学雑誌
小林祝記……小林晴治郎博士古稀祝賀記念誌（衞生動物 4 巻特別号，
高知同窓……高知医学士同窓会業報
公衞…………公衆衞生
公衞誌………公衆衞生学雑誌
久留米医誌…久留米医学会雑誌

採録雑誌略称

熊本医誌……熊本医学会雑誌
京都医誌……京都医学会雑誌
共済医報……共済医報
近畿婦………近畿婦人会誌
九大医報……九大医報
九沖医会誌…九州沖縄医学会会誌
九州医誌……九州医学会雑誌
M 満生報………満洲生物学会会報
満鮮医界……満鮮医界
満獣畜………満洲獣医畜産学会誌
緬羊…………緬羊
緬羊資料……緬羊資料
N 長野畜研……長野県畜産技術研究報告
長崎医誌……長崎医学会雑誌
長崎風研……長崎大学風土病研究所業績
長崎公衛誌…長崎綜合公衆衛生学雑誌
熱帯医学……熱帯医学
児科誌………児科雑誌
日病理誌……日本病理学会会誌
日微病誌……日本微生物病理学雑誌
日伝染誌……日本伝染病学会雑誌
日本医学……日本医学
日大医誌……日本医学雑誌
日衛生誌……日本衛生学雑誌
日学衛………日本学校衛生
日外宝………日本外科宝函
日外科誌……日本外科学会雑誌
日泌誌………日本泌尿器科学会雑誌
日医事報……日本医事新報
日医師誌……日本医師会雑誌
日公衛誌……日本公衆衛生学雑誌
日血液誌……日本血液学会雑誌
日稀…………日稀科学会熊本地方部会会報
日寄記………日本寄生虫学会記事
日寄記東……日本寄生虫学会東日本支部大会記事
日寄近畿……日本寄生虫学会近畿支部例会記事
日寄記南……日本寄生虫学会南日本支部大会講演要旨
日寄記西……日本寄生虫学会西日本支部大会記事
日寄九州……日本寄生虫学会九州地方部会記事
日内科誌……日本内科学会雑誌
日臨…………日本臨床
日臨外誌……日本臨床外科医会雑誌
日山羊協報…日本山羊協会報
日新医学……日新医学
日消化誌……日本消化器病学会雑誌
日獣誌………日本獣医学雑誌
日獣医誌……日本獣医学会雑誌
日獣協誌……日本獣医協会雑誌
日獣会誌……日本獣医師会雑誌
日獣大紀……日本獣医畜産大学紀要
日婦熊本報…日本婦人科学会熊本地方支部会会報
日薬理誌……日本薬理学会誌
農牛疫血報…農商務省牛疫血清製造所年報
O 帯広畜大報…帯広畜産大学学術研究報告
大阪衛研報…大阪府立衛生研究所報告
大阪医誌……大阪医学会雑誌
大医事誌……大阪医事新誌
大阪獣師報…大阪府獣医師会報
大阪日赤……大阪日赤医学
岡山医誌……岡山医学会雑誌
応動誌………応用動物学雑誌
応獣誌………応用獣医学雑誌
琉球衛研年報.琉球衛生研究所年報
R 陸医団誌……陸軍軍医団誌
陸獣団報……陸軍獣医団報
臨獣医報……臨床獣医学新報
臨講…………臨講
臨画…………臨床画報
臨研…………臨床と研究
臨床…………臨床
臨床医………臨床医学
臨内児………臨床内科小児科
臨日医………臨床日本医学
臨皮泌………臨床の皮膚泌尿とその領域
S 細菌…………細菌学雑誌
最近獣………最近の獣医学
産と婦………産科と婦人科
四国医誌……四国医学雑誌
新薬臨………新薬と臨床
新治療………新しい治療
診療室………診療室
診治…………診断と治療
綜眼誌………綜合眼科雑誌
綜医…………綜合医学
総研医薬……総合研究報告集録医学及び薬学編
総研生農……総合研究報告集録生物及び農学編
綜合獣医……綜合獣医学雑誌

採録雑誌略称

水曜会………水曜会記事
静岡医会報…．静岡県医学会会報
信州医誌……信州医学雑誌
T 台湾医誌……台湾医学会雑誌
台畜報………台湾畜産会会報
太平…………太平ニュース
体性…………体性
東医事誌……東京医事新誌
東京医誌……東京医学会雑誌
東女医誌……東京女医会雑誌
東農工年報…．東京農工大学年報
東農工学術…．東京農工大学農学部学術報告
東獣畜報……東京獣医畜産学会報
東芝理化研…．東芝理化学研究所報告
Y 米子医誌……米子医学雑誌
Z 実医…………実験医報
実験医誌……実験医学雑誌
実臨…………実地医家と臨床
十全医誌……十全医学会雑誌
獣調報………獣疫調査所研究報告
獣医界………獣医界
獣畜新報……獣医畜産新報

Abst. Proc. Suiyokai	Abstracts from the Proceedings of Suiyokai
Am. J. Vet. Res.	American Journal of Veterinary Research
Act. Jap. Med. Trop.	Acta Japonica Medicinae Tropicale
Arch. Schiff. Trop. Hyg.	Archiv für Schiffs und Tropen Hygiene
Brit. Med. J.	British Medical Journal
Brit. Vet. J.	The British Veterinary Journal
Bull. Fac. Agric. Tokyo Univ. Agric. Tech.	Bulletin of the Faculty of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology
Cey. Vet. J.	Ceylon Veterinary Journal
Cent. f. Bakt.	Centralblat für Bakteriologie
Deu. Tier. Woch.	Deutsche Tierärztliche Wochenschrift
Exp. Rep. Gov. Exp. Sta. Anim. Hyg.	Experimental Report of Government Experimental Station for Animal Hygiene
Jap. J. Exp. Med.	The Japanese Journal of Experimental Medicine
Jap. J. Med. Sci. Path.	Japanese Journal of Medical Sciences and Pathology
J. A. V. M. A.	Journal of the American Veterinary Medical Association
Jap. J. Zool.	Japanese Journal of Zoology
Med. Bull. Kagoshima Univ.	Medical Bulletin of the Kagoshima University
Rep. Sec. F. T. Vet. Med.	Report of a Second Field Trial Veterinary Medicine
Sci. Rep. Gov. Inst. Inf. Dis.	The Science Reports of the Government Institute for Infectious Diseases
Sci. Rep. Tohoku Univ.	Science Report 4th Series (Biol), Tohoku University
Trans. Jap. Path. Soc.	Transactions of Japanese Pathological Society
Trans. Roy. Soc. Trop. Med. Hyg.	Transactions of the Royal Society of Tropical Medicine and Hygiene
U. S. Arm. Force. Med. J.	U. S. Armed Forces Medical Journal

文献集　2. 線虫篇

d-4) 鞭　虫

編集　森下哲夫

d-4) 鞭　虫

著者名別目録

浅田順一
1925 a—鞭虫の発育史に関する研究(附)人体内発育試験(会)　日伝染誌　20(6),
1925 b—鞭虫の発育に関する研究(第1報)特に鞭虫卵子に関する知見並びにその抵抗力について　岡山医誌　492

浅葉周夫・小林稔於
1956—犬鞭虫駆除(盲腸に直接 n-Butylchlorid 注入による)(会)　獣畜新報　176, 197

天沼言高
1957—豚の鞭虫症の1例　獣畜新報　211, 821

榎本久馬太
1934—鞭虫に依る虫様突起炎(会)　日外科誌　35(7), 980

柄沢正一
1934—鞭虫の寄生せる虫様突起(図説)　医展　210, 28

片田武揚
1928—鞭虫寄生に因る腸の病理組織学的研究　病理紀　5(1),

河合一郎
1927—鞭虫卵に及ぼすX線の作用　慶応　7(3), 567

川本脩二
1953—監察解剖屍の腸管における蛔虫, 蟯虫及び鞭虫の観察　京都医誌　4(1), 14
1955—Piperazin (錠剤)の蛔虫, 鞭虫, 鈎虫及び矮小条虫に対する効果試験　医生　36(6), 242

小泉丹
1943—蟯虫, 鞭虫, 蛔虫, 十二指腸虫等の感染に於ける所謂免疫の成立　児科誌　49(5), 431

小泉丹・小方則太郎・千葉隆・佐藤千代三郎
1938—鶏蛔虫及び鞭虫に於ける後感染抵抗性試験(腸寄生虫後感染抵抗性の研究)(1)　慶応　18(6), 807

福島文信・南寧文綱・武石博
1938—臓器内移行豚蛔虫仔虫の検査法と鞭虫, 蛔虫交叉感染　慶応　18(5), 675

古山利雄
1956—自然界に於ける蛔虫卵及び鞭虫卵の検査(会)　朝鮮医誌　20(11), 1743

古山幸男
1956—鈎虫の脱嚢機転に関する研究 付. 蛔, 鞭仔虫卵の脱殻機転　岐阜医紀　3(5), 309

長谷川徳三
1924—鞭虫の発育に関する実験的研究　福岡医大誌　17(8),

平沢一三
1929 a—鞭虫の感染経路及びその発育に関する実験的研究　熊本医誌　5,
1929 b—鞭虫の感染経路及びその発育に関する実験的研究　熊本医誌　5(12), 919

堀田善二郎・田中昌記
1935—鞭虫と蛔虫の交叉感染に関する研究　慶応　15(7), 1055

星川登
1957—犬鞭虫の経肛駆除法のレ線学的考察　日獣会誌　10(1), 20

井田正二
1931—鞭虫卵の卵殻構造について　慶応　11(3), 713

今川与曹
1934—甚だ饒多なる鞭虫を宿せる1剖検例　東医事誌　2865, 370

井上久男
1939—鞭虫と蟯虫との重複感染試験　慶応　19(1), 1

石川八郎
1940—Parabiotic Rats を以つてせる鞭虫後感染抵抗性実験　慶応　20(3), 361
1940—Parabiose ラッテを以つてせる鞭虫後感染抵抗性実験(会)　日寄記　12, 23

磯部美和
1930—鞭虫必ず駆除すべし　治療新報　29(7),
1931—鞭虫とその駆除　内外治療　6(2), 147
1936—蛔虫と鞭虫と蟯虫　臨床医　24(10), 1954

近藤登之助
1951—Hexylresorcin に依る豚鞭虫駆除試験(会)　日獣誌　13(5, 6), 348

功刀照夫
1957—犬鞭虫に Methylbenzene の薬効　獣畜新報　213, 944

松林久吉
1934—Orang-Utan に見出せる蛔虫及び鞭虫並びに鞭虫分類に関する1, 2の標徴　慶応　14(7), 965

松田鎮雄・前田義雄
1954—鞭虫症の研究(会)　広島医学　7(4), 74

松田鎮雄・前田義雄・今田親人
1955—鞭虫症の研究　鹿島医学原著号　3(5), 251

丸山貢
1927—諸種の病と誤診せられたる鞭虫による高熱患者の1治験例　日新治療　124,

宮本佐市
1950—犬の鞭虫の経肛的駆除　日獣協誌　3(5), 131

望月宏・石田葵一
1947—ジラフより得たる鞭虫(会)　日獣誌　9(3, 4), 116

森建樹・森建吉
1953—N-Butylchlorid に依る犬鞭虫駆除

獣畜新報 122, 1042

牟田口利幸

1956 a—鉤虫感染経路の疫学的研究 (4) 鉤虫，蛔虫及び鞭虫の家族内集積状況 医生 38(4), 106

1956 b—鉤虫感染経路の疫学的研究 (7) アメリカ鉤虫の主として分布する地帯に於ける蛔虫及び鞭虫の感染状態(2) 医生 41(6), 219

1957 a—鉤虫感染経路の疫学的研究 (8) 熊本県南部地方の農村に於ける鉤虫，蛔虫並びに鞭虫の感染状態 医生 42(4), 137

1957 b—鉤虫感染経路の疫学的研究 (9) 福岡中部地方の農村に於ける鉤虫，蛔虫及び鞭虫の感染状態 医生 42(6), 207

1957 c—鉤虫感染経路の疫学的研究 (10) アメリカ鉤虫の主として分布している地方の農村に於ける鉤虫，蛔虫及び鞭虫の感染状態 (3) 医生 43(2), 72

1957 d—鉤虫感染経路の疫学的研究 (11) 熊本県菊池川下流域の鉤虫，蛔虫及び鞭虫の感染状態(1) 医生

1957 e—鉤虫感染経路の疫学的研究 (12) 熊本県菊池川下流域の鉤虫，蛔虫及び鞭虫の感染状態(2) 医生 44(4), 150

武藤完雄・渡部達

1941—鞭虫迷入に依る廻腸末端限局性膿瘍(図説) 医界週報 335, 38

中村薫

1939—鞭虫と大腸炎 治処 227, 2457

鳴海尚彦

1940—犬鞭虫脱殻仔虫のマウス感染試験 日寄記 12, 33

1942—鞭虫仔虫卵の人工脱殻法該仔虫の動物体外飼育並びに其の二十日鼡感染試験 慶応 22(5), 613

西業求

1918—鞭虫の宿主体内に於ける発育について 東医事誌 2080,

野田亮二

1951—狸より得た鉤虫及び鞭虫(会) 日獣誌 13(5, 6), 347

1954—牛及び Giraff の鞭虫(会) 寄生虫誌 3(1), 61 日獣誌 16, 104

小方則太郎

1935 a—鞭虫寄生の存する腸壁の炎衝に因るイレウスの1例 慶応 15(12), 1787

1935 b—犬鞭虫の固有宿主の腸管内に於ける寄生態度 慶応

1937 a—鞭虫の重複感染知見補遺 慶応 17(11), 1695

1937 b—鞭虫虫体乳剤経口的投与の鞭虫感染及び仔虫発育に及ぼす影響 慶応 17(10), 1577

1937 c—鞭虫の後感染抵抗力の遺伝に就て 慶応 17(12), 1853

1938—犬の鞭虫自然感染に就て 慶応 18(1), 49

小県誠治

1926—温熱による鞭虫卵の撲滅について 中外医報 1115,

緒方芳郎

1952—鞭虫寄生に起因せる虫垂炎の1例 診治 40(1), 56

岡常晴

1956—駆虫剤 Nematolyt (1) 蛔虫，鉤虫及び鞭虫に対する駆虫効果 北関東医学 6(2), 138

沖波実

1937—鞭虫の発育(1)(会) 朝鮮医誌 27(11), 1586

佐々木哲丸

1936—鞭虫症 医学輯覧 130, 157

鈴木淳三

1935 a—鞭虫と十二指腸虫の交叉感染に関する研究 慶応 15(4), 671

1935 b—鞭虫と十二指腸虫の混合感染に関する研究 慶応 15(7), 1043

1934—鞭虫の重複感染に関する研究 慶応 14(8), 1079

鈴木寛之助

1916—虫様突起炎に於ける鞭虫の病理的意義に関する知見補遺 東京医誌 30(24),

高岡秀次

1956—犬鞭虫の駆除法 日獣会誌 9(12), 586

栃原勇

1924—鞭虫の発育について 細菌 327,

豊田一長

1932—寄生虫卵(特に鞭虫卵)の人工孵化に関する研究 大阪医誌 31(8), 3123

上野節

1938 a—牛肉エキス混合食餌飼育白鼡犬鞭虫感染試験 慶応 18(2), 195

1938 b—十二指腸虫重感染の鞭虫排卵に及ぼす影響 慶応 18(9), 1013

1939—鞭虫感染に於ける饑餓の影響について 慶応 19(1), 9

山元和一

1954—犬鞭虫症の治験例 日獣会誌 7(6), 280

余語宣夫

1938 a—粉乳混合食餌飼育白鼡犬鞭虫感染試験(会) 日寄記 10, 53

1938 b—粉乳混合食餌飼育白鼡の犬鞭虫感染試験 慶応 18(4), 527

渡部達

1942—鞭虫に依る廻腸末端部限局性膿瘍(会) 日外科誌 42(10), 1689

1942—鞭虫迷入による廻腸末端部限局性膿瘍 東北医誌 30(2), 238

[illegible]

文献集　2. 線虫篇

d-5) 桿線虫 (Rhabditis)

編集　森下哲夫

d-5) 桿 線 虫 (Rhabditis)

著者名別目録

赤木勝雄

1927—北海道アイヌに見られたラブヂチスの一新種に就いて　中外医報　1126, 151—156

岩田節夫

1957 a —Rhabditis の分泌, 排泄系について I. *Rhabditis ikedai* Tadano について　岐阜医紀　5(3), 77—87

1957 b —Rhabditis の分泌, 排泄系について II. 学童の糞便内より得た *Rhabditis* sp. に就いて　岐阜医紀　5(3), 248—255

石黒武三郎

1935—数日に亘り患者の尿中に検出したる線虫ならびにその感染経路　台湾医誌　14(12),

小林晴治郎

1912—人生寄生線虫の一新種　東医事誌　1899, 2571—2573

1915 a—人腸中に見出さるラブヂチスに就いて　細菌　232, 107—116

1915 b—人腸中に見出さるラブヂチスに就いて　動雑　27, 117—124

1920—On a new species of rhabditoid worms found in the human intestine　J. Parasitol　6, 148—151

森下哲夫・小林瑞穂・大橋政彦

1958—糞桿虫の発育, 内部構造, 感染経路と寄生　日医事報グラビヤ

元村勳

1948—線虫 *Rhabditis ikedai* Tadano の性について　生態学研究　11(34), 113—116

南崎雄七

1928—自然界に於ける十二指腸虫感染経路に関する研究(其の二)土壌中に於ける自由生活円虫並びに其等と十二指腸虫仔虫との鑑別について　慶応　8(8), 1379—1427

中田薫

1935—人体寄生虫としての Rhabiditis について　朝鮮医誌　25(3), 308—317

岡部直巳

1929—人類の糞便中に現われたるラブヂチスの一種に就いて　慶応　9(12), 2039—2050

岡部浩洋

1954—流産患者の胎盤より得た *Rhabditis* sp. について　衛動　IV(特別号) 75—78

大橋政彦

1957 a —*Rhabditis hominis* に関する研究 I 形態学的研究　岐阜医紀　5(4), 384—402

1957 b —*Rhabditis hominis* に関する研究 II 生物学的研究　岐阜医紀　5(4), 403—419

只野正志

1950—ナメクジ *Iucillaria confusa* Cockarell に寄生する線虫の一新種 *Rhabditis ikedai* n, sp. について　動雑　59(12), 289—291

1952—線虫 *Rhabditis ikedai* の正常発生について　動雑　61(344), 80

只野正志・只野柳

1955—線虫 *Rhabditis ikedai* Tadano の培養に就いて　岐大学芸学部研究報告(自然科学)　3, 271—279

只野柳

1952—位相差顕微鏡による線虫卵の観察　動雑　61(344), 80

1953—*Rhabditis* sp. の卵の初期卵割に及ぼす LiCl の作用　動雑　62(344), 110

Tadano Yanagi

1951—Studies of cleavage in the eggs of nematoda. I.　Sci. Rep. Tohoku Univ., XIX. 1, 100—113

只野柳・只野正志

1954 a —遠心分離した *Rhabditis* sp. 初期卵の卵割特に星状体と卵割面に関係深い顆粒について　動雑　63(344), 164

1954 b —線虫 *Rhabditis ikedai* TADANO の雌雄同体について　動雑　65(11), 393—395

Tadano Yanagi & Masashi Tadano

1955 a—On the elongation and the rotation of the spindle, and the different behavior in each of the amphiaster, in relation to the cleavage-plane　Sci. Rep. (Faculty of Libral Arts and Science) Gifu University 3, 281—287

1955 b—On the infinence of Lithium chloride upon the eggs of a nematoda, *Rhabditis* sp., at the one cell stage and the behavior of the suppressed blastomere　Sci. Rep. (Faculty of Liberal Arts and Science) Gifu University 3, 289—829,

渡辺弘

1920—虫卵培養試験中の患者の糞便に現れたるラブヂチスの一種に就いて　動雑　32, 389—395

1922—Rhabdietis 寄生の2例　日消化誌　21(2), 75—84

1927—人生に寄生せる Rhabditis 属の一新種に就いて　日病理誌　17, 215—216

横川定

1936—Diploscapter coronata (Cobb, 1893) Cobb. 1913 の人体寄生例　動雑　48(8, 9, 10), 507—512

山口弘孝・小泉美紗子

1954—ナメクヂ寄生線虫 *Rhabditis ikedai* n. sp. の二, 三薬物特に駆虫剤に対する感受性等について(予報)　日薬理誌　50, 149

文献集　2. 線虫篇

e) 糸状虫

第I部　人の糸状虫

（家畜以外の動物糸状虫を含む）

編　集　佐　々　学
協力者　林　滋　生
　　　　佐　藤　孝　慈

第II部　家畜の糸状虫

編　集　久　米　清　治
協力者　大　石　勇
　　　　小　林　茂　雄

e) 糸状虫

著者名別目録

I. 人の糸状虫

（家畜以外の動物糸状虫を含む）

阿部信一
1935—Bancroft 糸状虫の幼胚虫 *Microfilaria bancrofti* の体制に関する知見補遺
台湾医誌　34(8)，1048
1936 a—*Microfilaria, malayi* の本邦内存否に関する2，3の考察　台湾医誌　35(3)，689—697
1936 b—Bancrofti 糸状虫の発育史に関する研究
台湾医誌　35(12)，2833
1937—*Wuchereria bancrofti* の蚊体内に於ける発育について　日寄記　9，48
1938—Bancroft 糸状虫 *Wuchereria bancrofti* の感染経路に関する実験成績
東医事誌　3085，1486

阿部康男
1953 a—Filaria 糸状虫の疫学的研究　学月　41，32
1953 b—鹿児島県の所謂 Filaria 症（糸状虫症）の流行の疫学的瞥見(会)
鹿児島医誌　26(11，12)，295
1954 a—本邦に於ける糸状虫症浸淫状況調査成績(9)　鹿児島県内陸部(追加)
総研医薬　(28)，442
1954 b—糸状虫症の疫学的研究
総研医薬　(28)，442
1955—糸状虫症の疫学的研究，糸状虫症の流行要因特に主要伝播蚊の形態学的検討と其の糸状虫に対する感受性　総研医薬　(29)，522

阿部康男・堀栄太郎
1955—Filaria 症の疫学的研究 Filaria 伝播蚊の検討(会)　鹿児島医誌　28(1，2)，44

阿部康男・山下博
1954—鹿児島県下に於ける Filaria 糸状虫症の浸淫実態(2)(会)　寄生虫誌　3(1)，55

阿部康男・山下博・前原試
1953—鹿児島県に於ける Filaria 糸状虫症の浸淫実態(会)　寄生虫誌　2(1)，42

阿部康男・山下博・若松道範
1953—鹿児島県に於ける Filaria 症の疫学的考察(会)
日衛生誌　8(1)，34

阿部康男・米沢隆士・指宿英造
1956—鹿児島に於ける糸状虫症の疫学的研究(3)(会)
寄生虫誌　5(2)，224

吾河史郎
1918—ふいらりあ仔虫の定期移動現象に関する疑義について　中外医報　(9,10)，196

秋山一雄
1939—乳糜尿の1例　皮紀要　34(2)，

秋山練造
1901—人血糸状虫に因する陰嚢水腫
軍医団誌　123，633

秋山静一
1934—地方病性象皮病の病理組織学的研究
日病理誌　34，

天野晴正・児玉伸二
1955—乳糜尿症に就ての小検索(会)
日泌誌　46(9)，661

青木圭三・坂井章
1952—Filaria 精系淋巴腺炎の1例
日泌誌　43(1)，37

青木竜身・剣崎直祐
1953—Microfialria に対する Dabiol の使用成績
大阪衛研報　1，155

青木成喜
1955—Penicillin に由り治療せる乳糜尿の1例(会)
日泌誌　46(9)，659

青柳安城
1928—象皮病の治療方針　日外宝　5(4)，

荒川忠夏・油谷友三・森川義金・金子保夫・宮本睦夫・河内憲一・宮川三男・中瀬勝・山口富雄
1955—愛媛県三崎半島に於ける糸状虫症の調査
四国医誌　6(1)，20

荒川忠夏・油谷友三・森川義金・金子保夫・宮川三男・山口富雄
1955—本邦に於ける糸状虫浸淫状況調査共同研究(4)　四国地方　総研医薬　(29)，519

有里実行
1954—糸状虫症の血液学的研究
長崎医誌　29(9)，712

有馬陽一・桝屋富一
1956—Filaria 症の自律神経機能(会)
寄生虫誌　5(2)，247

浅田徹雄
1931—原発性乳糜尿患児の一症例　児科誌　368，

厚見領一
1940—Filaria 症症例　児科誌　46(11)，1451

河世知節夫・亀甲大
1953—乳糜尿に関する小統計
鹿児島医紀　4(1)，32

馬場貞次
1912—人血糸状虫供覧　皮泌誌　12(6)，

文仁桂
1921—朝鮮に於ける地方性象皮病の研究
朝鮮医誌　29(8)，1426—1442

帖佐彦四郎
1912—象皮病の原因及びその予防接種成績に就いて

中央医誌　10(7), 1—11

1913—象皮病の予防接種報告
日内科誌　1(4), 241—242

江原猪知郎

1927—フィラリア性陰嚢水腫　日泌誌　16(4),

江本侃一・坂本公孝

1953—乳糜尿患者の腎周囲剥離術前後の Pyelogram (会)　皮と泌　15(2), 202

藤林繁・桝屋富一

1956—Filaria 症の臨床生化学的研究　血糖並びに白血球像の変動(会)　寄生虫誌　5(2), 247

藤井信雄

1938—象皮病　海軍医誌　32(1), 79

藤井静英

1915—沖縄県下に於ける小児糸状虫病・統計的並びに臨床的観察(附象皮病)
児科誌　187, 1017—1074, 188, 9—46

1922—小児に於けるフィラリア病　官報　3009,

藤井静英・比嘉賀善

1916—沖縄県下に於ける象皮病最小部落に於ける小児糸状虫病　児科誌　196, 747—757

藤巻博教

1955 a—糸状虫症の化学療法に関する研究　第一報 Dieteylarbomazine の体液中濃度の測定法について　長崎医誌　30(11), 1956—1958

1955 b—Piperazin 剤投与に由り発生した精系淋巴管腫(会)　寄生虫誌　4(2), 163

1956 a—糸状虫症の化学療法に関する研究　第二報 Diethylcarbamazine の血中濃度と尿中排泄量について　長崎医誌　31(11), 930—947

1956 b—糸状虫症の化学療法に関する研究(2) Dieteylcarbamazine の吸収と排泄(会)
寄生虫誌　5(2), 250

深井東天

1935—象皮病の一例　日泌誌　21(11),

福田千代太

1944—アンチモンコロイド剤 AMC に依るバンクロフト糸状虫仔虫の昼間末梢血液内誘致
臨研　21(12), 944—945

福元務

1955—Filaria 症の赤血球像(2)(会)
鹿児島医誌　28(1, 2), 44

1956—Filaria 症の血液学的研究(2)赤血球系(2)(会)
鹿児島大医誌　8(5), 補冊, 858
日血液誌　19(3), 305

福本務・春田豊作・津崎文雄・中野一

1956—日蝕時に於ける Filaria 患者並びに健康人の末梢血液像の変動(会)
鹿児島医誌　29(7, 10), 286

福本務・桝屋富一

1955—Filaria 症の血液学的研究(2) 赤血球系(会)
日血液誌　18(4), 328

福島英雄

1954—糸状虫症の肝機能及び血清蛋白(会)
鹿児島医誌　27(3, 4) 74

1955—糸状虫症の肝機能(会)　日消化誌　52(4), 180

藤崎俊蔵

1928—フィラリア病の一異型例
台湾医誌　283, 1188

二神義清・堀口勇蔵

1940—Filaria 精系淋巴管炎症例追加
皮と泌　8(2), 114

二神義清・堀口勇蔵・西本勝之輔・一ノ瀬健吾・片峰大助

1940—乳糜尿 368 例の統計的観察　日泌誌　29(2),

古川正道

1911—エールリッヒ・秦氏駆黴新剤とフィラリア
東医事誌　1705,

不破格

1914—石川県に於ける象皮病調査報告
中外医報　809, 1604—1605

Galliard, H.

1943—東亜に於けるフィラリア病
日医事報　1102, 2009—2011

呉世南

1930—朝鮮に於ける地方病性象皮病に就て　満鮮医界

花城清剛・城間盛吉・永山修・上原直三

1953—国頭村に於けるフイラリア症について
琉球衛研年報　1953(1), 13—16

1954—沖縄, 国頭村に於ける Filaria 症
衛査　3(5), 210

花城清剛・城間盛吉・上原直三・氷山修

1954—国頭村に於ける Filaria 症
獣畜新報　146, 1145

原英道

1940—Filaria 病乳糜尿症に Naphthalin 療法を行いたる２治験例　海軍医誌　29(2), 141

花園美知雄

1934—乳糜尿に於ける腎盂薬液注入の治癒機転
朝鮮医誌　24(12),

春田豊作

1959—Filaria の症の栓球系(3)(会)
鹿児島医誌　29(1, 2), 37

春田豊作・桝屋富一

1955 a—Filaria 症の血液学的研究　殊に栓球系(会)
寄生虫誌　4(2), 164

1955 b—Filaria 症の血液学的研究(3) 栓球系(会)
日血液誌　18(4), 328

1956—Filaria 症の血液学的研究(3) 栓球系(2)(会)
日血液誌　19(3), 216

長谷川恒夫

1943—血液フィラリアの手術的療法
大阪医誌　42(5), 788

日外科誌　43(7), 876

八田千代・横井正幸・梅本元彦・猪口清一郎・松田晴
1952—天草地方に於ける陰嚢水腫調査報告(1)
熊本医誌　26(10, 12), 349

播磨休吉・井上景介
1943—Filaria 性疾患に対する Formol-gel 反応実験
鹿児島医誌　20(3), 65

波多野克巳
1941—興味ある Filaria 症の1例（附）海軍兵学校生徒の Filaria 症4例　海軍医誌　30(10), 707

林郁彦
1907—フィラリア・ザングイヌス・ホミニスの人体内分布並びにフィラリア症の病理解剖
中外医報　658,
1919 a—フィラリア症に就て　日病理誌　9, 206—210
1919 b—フィラリア性乳糜尿及び血乳糜症の病理解剖学的観察　中外医報　950,
1925—Bancroft 氏フィラリア仔虫（*Filaria sanguinus hominis* Lewis）の人体内分布並びにフィラリア性血乳糜尿症の病理解剖知見補遺
長崎医誌　3(3), 269—316

林滋生
1951 a—マレー糸状虫の新媒介蚊について
衛動　2(2, 3), 75—76
1951 b—フィラリア症について
公衛　10(2), 12—14
1953—八丈地方の Filaria 症(4) マレー糸状虫媒介蚊の実験的研究予報(会)　臨床　6(1), 70
1954—日本に於けるマレー糸状虫症とバンクロフト糸状虫の比較研究　小林祝記　41—53
1955 a—人畜フィラリア症の病原虫と其の疫学(会)
日新医学　1, 1～12
1955 b—フィラリア　日本の風土病 (4)
自然　10(4), 32—39

林滋生・小嶋績・石井省吾・佐々学
1952 a—マレー糸状虫症及び二三のバンクロフト糸状虫症例に於けるスパトニンの応用
新治療　2,
1952 b—フィラリア症の新しい治療，第三編マレー糸状虫症及び2，3のバンクロフト糸状虫例におけるスパトニンの応用
獣畜新報　114, 647—650

林滋生・佐々学
1953—八丈地方の Filaria 症(5)(会)
寄生虫誌　2(1), 43

林滋生・佐々学・加納六郎・佐藤孝慈
1951—八丈小島のフィラリア病の研究（第二報）マレイ糸状虫の発見，疫学的並びにヘトラザン製剤による治療　日新医学　38(1), 19—22

林滋生・佐藤孝慈・田中寛
1957—人におけるフィラリア感染の家族集積性について(会)　寄生虫誌　6(3, 4), 352—353

林滋生・佐藤孝慈・若杉幹太郎
1956—野鳥に寄生する糸状虫に関する研究，ホホジロに見出された一糸状虫(会)
寄生虫誌　5(2), 275

林滋生・佐々学・田中寛・石井省吾
1954—新潟県に於ける Filaria 症の調査研究
日医師誌　31(9), 485

林田和治・山本一夫
1954—フィラリア患者に見られた Leukosarkomatosis の一例　長崎医誌　29(11), 821—824

肥田七郎
1904—フィラリア成虫（本邦未発見の雄虫）に就て
東医事誌　1343,

比嘉賀善
1915—沖縄県下に於ける小児フィラリア虫伝播状況に就て（第1回）　児科誌　178, 275—278

平野重蔵
1932—象皮病の1例　日外科誌　35(5),

平田嗣純
1936—フィラリア病に関する治験補遺
東医事誌　2969,
1939 a—横川定氏のバンクロフト糸状虫症の感染経路，免疫，Turnus を読みて
東医事誌　3135,
1939 b—象皮病及びフィラリア虫病に関する知見補遺
東医事誌　3137, 1489—1509
1939 c—Turnus 現象と南洋諸島に於ける Turnus 欠除せるバンクロフト仔虫の存在せる理由に関する知見補遺　東医事誌　3138,
1940—象皮病患者に於けるフィラリア帯虫数健康者より少き理由に関する考察
東医事誌　3178, 653—654

樋渡長博
1954—フィラリア症の生化学的研究(会)
鹿児島医誌　27(3, 4), 74

北条円了
1937—薬物注射による「バンクロフト・フィラリア」仔虫の昼間証明法　実験医誌　21(5),

本多忠夫
1900—日本九州に於ける地方病性象皮病の原因に関する概報　東京医誌　14, 563

堀口勇蔵・一ノ瀬健吾
1941—長崎県五島住民のフィラリア感染状況調査
長崎医誌　19(4), 924—936

堀尾伝・安田利顕・辻一郎
1944—フィラリアによる精系結節
日泌誌　36(2), 118

星子未知男
1950—陰嚢象皮病の1手術例　医療　4(7), 395

指宿美造
1955 a—フィラリア性陰嚢水腫の臨床的観察(会)
鹿児島医誌 23(1, 2), 45
1955 b—フィラリア症に関する研究(第9報)奄美大島のフィラリア症に就て
鹿児島大医誌 7(2), 269—279
1956 a—フィラリア症の身体内淋巴腺の臨床的観察(会)
寄生虫誌 5(2), 273
1956 b—奄美大島のフィラリア症(会)
鹿児島医誌 29(1,2), 38
1956 c—フィラリア症に関する研究(第14報)奄美大島のフィラリア症について(II)
鹿児島大医誌 8(1), 99—107
1957 a—フィラリア症に関する研究(第19報)奄美大島に於ける末梢血内「ミクロフィラリア」の動態に関する研究
鹿児島大医誌 8(5), 959—964
1957 b—フィラリア症淋巴系の臨床並びに病理組織学的研究 鹿児島大医誌 9(5),

一ノ瀬健吾
1938—フィラリア症に関する2, 3の観察
日泌誌 31(1), 47
1942—フィラリア症に関するの観察 第2篇 フィラリア皮膚反応 長崎医誌 20(12), 2174
1943 a—バンクロフト糸状虫に関する研究 第1篇 長崎県五島住民のバンクロフト糸状虫感染状況調査 長崎医誌 21(9), 854
1943 b—バンクロフト糸状虫に関する研究 第3篇 バンクロフト糸状虫感染者に於ける血液学的研究 長崎医誌 21(11), 1019
1944 a—乳糜尿に於ける腎盂外逆流像の出現と腎盂注入療法の効果との関係 長崎医誌 22(6),

一ノ瀬健吾・赤松秀・中山善敏
1944—糸状虫性精糸淋巴管炎に於ける知見二,三
臨皮泌 10(4), 142—145

一ノ瀬健吾・片峰大助
1949—長崎県島原半島住民に於ける糸状虫感染状況に就て 学術風土研報

尹日善
1927—朝鮮に於ける「フィラリア」に因する象皮病
朝鮮医誌 76,

井尻辰之助
1914—象皮病性慢性外陰部潰瘍患者供覧(会)
皮泌誌 14(1),
1929—6年前に腎被膜剝離術を施せる乳糜尿症に就て(附)同症に対する蒼鉛剤療法 治処 108,
1943—乳糜尿症に対するアンチモン療法
皮と泌 11(2), 65

伊集院武文
1956 a—自衛隊に於ける糸状虫症(2)(会)
寄生虫誌 5(2), 225
1956 b—針尾駐屯部隊に於ける糸状虫の感染状況
保安衛生 1(9), 271

池田圭助
1929—フィラリア精系淋巴管炎症例追加及び本症と陰嚢水腫との比率 皮泌誌
1935—「フィラリア」症の診断特に補体結合反応
日泌誌 24(6), 489
1936—フィラリア性疾患補体結合反応に関する研究
長崎医誌 14(7), 1035—1059
1941—フィラリア病 日医事報 967, 1097

今永一
1929—下肢部象皮病の一治療法としての腰腹部交感神経幹節切除術の効果 福岡医大誌 28(7),

今薗竜吉
1928—鹿児島県下に於ける人血糸状虫病分布の状態並びに症状の概要と虫体検索に就て
軍医団誌 185,

井上昇
1933—腎盂内薬液注入による治療経過について(1)尿中脂肪量の移動より見たる本症の治癒経過
長崎医誌 11(9),
1934—腎盂内薬液注入による治療経過について(2)尿中蛋白量と脂肪量の相互関係
長崎医誌 12(5),
1935 a—腎盂内薬液注入による治療経過について(3)腎盂外逆流像特に所謂腎盂淋巴管逆流像より見たる本症の治癒経過について
長崎医誌 13(5), 580—604
1935 b—腎盂内薬液注入による治療経過について(4)治癒成績の統計的観察並びに本療法の奏効機転に就て 長崎医誌 13(5), 605—624
1935 c—腎盂内薬液注入に依る乳糜尿閉止機転に関する実験的研究
長崎医誌 13(10), 1367—1397

井上昇・森武
1935—我が教室に於ける過去20年間の乳糜及び血性乳糜尿症の統計的観察
長崎医誌 13(5), 548—579

入沢達吉
1918—乳糜血尿症 実医 4(46),

石橋卯吉
1932—腫瘍を思わせる乳糜尿症の排泄物
日泌誌 21(194),

石田堅三郎
1937—鹿児島県のフィラリア病について
鹿児島医誌 16(10), 303—304
1943—フィラリア性腸管象皮病様肥厚症と Crohn 病との関係 鹿児島医誌 20(5), 107

石黒春秋
1905—乳糜血尿に肺二口虫病を兼ね喀血中に糸状虫幼虫を証明せし1例 医学中央誌 3(31),

石井信太郎

1932—厦門に於けるクーレックス族 (*Triebe culicini*) 並びに之と関係ある疾病について
実験医誌 16(5), 461—468
1936—沖縄県下のフィラリア病について
日寄記 20(11), 1942

石井省吾
1954—青森県に於けるフィラリア症の臨床所見
臨内児 9(4), 221,

石井泰蔵・中塩一
1954—フィラリア症に於ける臨床的観察(会)
日内科誌 43(7), 554

石渡忠太郎
1933—乳糜血尿症の稀有例　日泌誌 22(4),
1934—乳糜血尿症の一治験例　皮泌誌 35(1),
1935—乳糜尿症の追加　皮泌誌 38(2),
1936—乳糜尿症に於ける所謂腎盂淋巴管逆流現象の病理解剖学的研究　日泌誌 29(5), 416

岩動隆一
1935—乳糜血尿症の一治験例　皮泌誌 37(5),

伊藤隼三
1915—象皮病に淋巴管成形術を施せる1例
東医事誌 1902,

伊藤正義
1930—忠南に於ける象皮様地方病の臨床像並びに標本供覧(会)　朝鮮医誌 20(11),

伊藤斯郎
1933—乳糜尿症の治療　大医事誌 4(5),

岩永義雄・宮原道也
1936—稀有なる巨大外陰部象皮病の1例　日稀 3,

鹽島坂造
1915—軍艦笠置に於て施行せるミクロフィラリア保有者の検索　海医提 63,

門田光三郎・喜屋武朝章・桝屋富一
1956—フィラリア症の血液学的研究 (4) 二, 三の生化学的所見(会)　日血液誌 18(4), 328

門田光三郎・桝屋富一
1956—フィラリア症の臨床生化学的研究 血清蛋白鉄銅等の変動(会)　寄生虫誌 5(2), 249

蝋原勇
1921—フィラリア病研究の現状及び其の症状, 診断, 療法について　日医事報 25,

金沢信太郎
1935—「フィラリア」性乳糜尿症に対するレ線療法の著効　治処 183,

神田虎治
1907—「フィラリア」の種類乳糜尿及び其の療法に就て　軍医会誌 160,
1917—フィラリア治験　静岡医会報 47,

金原庄治郎
1917—軍隊より観たる静岡県下フィラリア病流行状況
静岡医会報 47,

金子保夫・伊川裕・山本勤也・石本悦夫・武田克之・宮本睦夫・村口郁夫・多田弘・佐々豊・山口富雄
1956—徳島県のフィラリア症　四国医誌 7(2), 65

加納六郎
1950—鳥マラリアの研究(5) 日本産野鳥の血液内寄生虫の形態とくに未記録種について
細菌 5(3), 107—111

笠松二三夫
1954—福井県勝山地方のフィラリア　治薬報 521, 9

片峰大助
1952 a—フィラリア性乳糜尿の発生病理に関する研究補遺(1) 乳糜尿排出の源泉に就て
長崎医誌 27(4), 195—200
1952 b—フィラリア性乳糜尿の発生病理に関する研究補遺(2) フィラリア症患者血液の二三の物理化学的性状　長崎医誌 27(4), 201—212
1952 c—フィラリア性乳糜尿の発生病理に関する研究補遺(3) 乳糜尿発生機序に関する考察
長崎医誌 27(4), 213—218
1952 d—Supatonin に依るフィラリア症の治療
長崎医誌 27(4), 219—225
1954—バンクロフト糸状虫症の病態
臨研 31(5), 36—42

片峰大助・有里実行
1954—糸状虫症の血清学的研究　総研医薬 (28), 448
1955 a—乳糜尿中蛋白電気泳動像(会)
皮と泌 17(2), 576
1955 b—糸状虫症の血液学的研究(2)
総研医薬 (29), 525

片峰大助・藤巻博教
1955—Hetrazan の血中濃度(会)
寄生虫誌 4(2), 150

片峰大助・藤巻博教・伊集院武文
1954—多数の成虫を発見した糸状虫症の1例
長崎風研 29(12), 917—920

片峰大助・北村精一・田村祐治
1953—Malayi 糸状虫症の臨床的研究(1)(会)
鹿児島医誌 26(4, 5), 146

片峰大助・田村祐治
1952—「バンクロフト」仔虫の末梢血内出現機序に関する研究　総研医薬 (26), 323
1954—バンクロフト仔虫の末梢血内出現機序に関する研究(4)　総研医薬 28,
1955—バンクロフト仔虫の末梢血内出現機序に関する研究(5)　総研医薬 (29), 522

片峰大助・田村祐治・森口義孝
1952—二三の薬剤に依るバンクロフト仔虫昼間末梢血内誘出(予報)　長崎医誌 27(4), 232—234

片峰大助・田村祐治・北村精一・森口義孝
1452—Supatonin のバンクロフト仔虫, 昼間末梢血内誘出作用　日泌誌 43(5), 206

片峰大助・田村祐治・藤巻博教・山崎豊彦・有里実行
1954―長崎県に於ける糸状虫浸淫状況調査報告 (2), 長崎風研 29(12), 887

片峰大助・田辺紀夫・藤巻博教
1955―糸状虫症の免疫血清学的研究(1) 総研医薬 (29), 524

片峰大助・山崎豊彦
1953―フィラリア症と拡散因子 学月 41, 342

片峰大助・山崎豊彦・吉田卯太郎
1952―長崎県下離島に於けるフィラリア浸淫状況と其臨床的観察 長崎医誌 27(4), 185―194
1953―長崎県下離島に於けるフィラリア浸淫状況とその臨床的観察 学月 32, 317

片峰大助・吉田卯太郎
1952―フィラリアの抗原性の研究(1) 皮膚反応 長崎医誌 27(4), 226―231
1952―フィラリア蔓延の疫学的考察(会) 日泌誌 43(5), 206

川路清高
1953―フィラリア症並びに象皮症の血管系の病理学的研究 学月 41, 322
1955―糸状虫症の実験的研究 総研医薬 (29), 523

川路清高・岡元健一郎
1954―糸状虫症に於ける乳糜尿腎の組織学的所見 総研医薬 (28), 445

川路清高・橋口俊照・八反丸哲夫
1955―フィラリア症の研究 (2) 血管系の変化(会) 日病理誌 44(1), 188,

川路清高・橋口俊照・八反丸哲夫・松本光幸・松本譲
1955―フィラリア症研究(1) 乳血尿(会) 日病理誌 43(地方会), 143

川上漸
1919―統計学上より見たる草ふるい及び其の象皮病との関係に就いて 日病理誌 9,
1922―糸状虫病 慶応 2(9), 1155―1219

河北靖夫
1953―フィラリア症の血液学的研究 学月 41, 323
1954―糸状虫症の臨床特に血清学的研究 総研医薬 (28), 447
1955―糸状虫症の臨床特に血液学的研究 総研医薬 (29), 524

河北靖夫・松原高賢・山本重光・橋本薫明・平井俊明・野津原敏雄・清田浩・渡辺作吾・山淵秀夫・由宮章一
1956―フィラリア症の臨床特に血液学的研究 熊本医誌 30(補冊 2), 498

川村錦也
1923―新潟県下に於けるフィラリア病発生に就て 東医事誌 2323,

川村六郎
1914―象皮病の原因について 細菌 212, 423―443

萱田静海・山根真平
1951―フィラリア糸状虫に因る顔面淋巴腫瘤の1例 診治 39(10), 679

慶大外科教室
1940―フィラリア虫による淋巴腺腫 臨画 11(6),

木原卓三郎
1954 a―淋巴管系, 脈管外通液路系及び之とフィラリア症との関係(綜説) 鹿児島医誌 27(7, 8), 139
1954 b―淋巴管系脈管外通液路及び之とフィラリア症との関係 鹿児島医誌 27(9, 10), 185

木村伝
1920 a―フィラリア母虫に就ての知見(会) 日外科誌 21(2),
1920 b―フィラリア症に関する二,三の知見補遺 日外科誌 21,

木村哲二
1919―フィラリア症の一剖検例 医事新聞 1023, 661―680 1025, 793―802

北島栄太郎
1954―本邦に於ける糸状虫症浸淫状況調査成績(2) 青森県津軽地方 総研医薬 (28), 441
1955―本邦に於ける糸状虫浸淫状況調査共同研究(1) 青森県津軽地方 総研医薬 (29), 518

北島栄太郎・水谷昇・横内幸造
1954―津軽地方に於けるフィラリア症調査 (2), 伝播蚊の季節的消長(会) 弘前医 5(3), 19

北島栄太郎・高松功
1954―津軽地方に於ける フィラリア 症 (1) 南郡野沢村及び山形村に於ける調査(会) 弘前医 5(3), 7
1957―青森県に於けるフィラリア症の疫学的調査(会) 東医事誌 74(1), 42,

北河清
1942―陰嚢乳糜腫の1例 皮紀要 40(1), 65

北川正惇
1934―沃度「ナトリウム」腎盂内注入に依て全治せる乳糜尿症治験例並びに其の「ピエログラム」 日泌誌 23(4),

北川正惇・大森周三郎
1935 a―乳糜尿症の臨床的観察特にヨードナトリウム腎盂内注入による治療成績 日泌誌 24(2),
1935 b―乳糜尿症の腎盂外溢流像 日泌誌 24(5),
1936―乳糜性腹水を併発せる乳糜血尿症の1例 日泌誌 25(3),

北川正惇・渡辺鷲爾
1935―副睾丸頭部に接在せし「フィラリア」母虫結節

の1例　日泌誌　24(5),
1936—「フィラリア」性精系硬結の1例
日泌誌　25(4),

北川正惇・山崖真治
1932—乳糜尿症の統計的観察　日泌誌　21(3),

北原経太
1953—鹿児島県黒島及び宮崎県西諸県郡小林市，都城市附近のフィラリア症　学月　41, 319
1954 a—Microfilaria 保有者調査法
鹿児島大医紀　6(3), 232
1954 b—フィラリア仔虫保有者調査の方法論
総研医薬　(28), 442
1954 c—フィラリア仔虫保有者調査法(会)
日衛生誌　9(2), 127
1954 d—鹿児島県下数部落に於けるフィラリア調査(会)　寄生虫誌　3(1), 54

北原経太・土井彰
1953—黒島に於ける恙虫刺螫症とフィラリア症(会)
鹿児島医誌　26(8, 10), 252

北村包彦
1934—乳糜尿例の経静脈「ピエログラフイー」
皮泌誌　35(5),
1939 a—乳糜尿　九州医誌　40,
1939 b—乳糜尿に於ける腎盂外逆流像
医展　234,
1939 c—乳糜尿症の予後に就て及び腎盂内注入療法の遠隔成績に就て　日医事報　885,
1940 a—腎盂外逆流像の臨床的観察
日泌誌　29(1), 1—12
1940 b—乳糜尿の臨床的観察　日寄記　12, 38

北村包彦・高田之
1930—巨大なる陰嚢象皮病の一手術例
皮泌誌　30(10),

北村精一
1951—(1)駆黴療法の最近の動向 (2) 臓器移植並びに冷蔵皮膚移植 (3) フィラリア症に就ての二三の新知見　鹿児島医誌　24(8), 13
1954 a—地方病としてのフィラリア症(会)
日衛生誌　9(2), 62
1954 b—本邦に於ける糸状虫症浸淫状況調査成績(5)西日本の糸状虫症(続報)
総研医薬　(28), 441
1954 c—フィラリア症の研究　治療　510, 10

北村精一・片峰大助
1951—フィラリア症に於ける二，三の知見
東医事誌　69(1), 11—14
1952—バンクロフト糸状虫に於けるスパトニンの応用
新治療　2,
1953 a—糸状虫症(臨床篇)
最新寄生虫病学　7, 47—124
1953 b—Supatonin のバンクロフト仔虫昼間末梢血内誘出作用(会)　寄生虫誌　6(3, 4), 18
1953 c—糸状虫症の免疫血清学的研究
総研医薬　(28), 447
1953 d—バンクロフト糸状虫症について
日医師誌　30(3), 120—124
1954 a—糸状虫症(フィラリア症)
寄生虫誌　3(1), 13—20
1954 b—地方病としての糸状虫症
長崎公衛誌　3(2), 127—135
1955 a—バンクロフト糸状虫症
日医事報　1635, 56—57
1955 b—西日本の糸状虫症　総研医薬　(29), 519

北村精一・片峰大助・大原晨清・有里実行・上田穂
1953—高知県に於けるフィラリア症
日医事報　1505,

北村精一・片峰大助・田村祐治
1952—八丈小島に於けるマレイ糸状虫症の臨床
総研医薬　(26), 325
1953 a—八丈島の属島小島に於けるマレイ糸状虫症について　日医事報　1527,
1953 b—八丈島の属島小島に於けるマレイ糸状虫症(会)　寄生虫誌　2(1), 111
1953 c—マレイ糸状虫症の臨床的研究(会)(1)
学月　41, 325
1954—フィラリア(糸状虫)症の臨床
新薬臨　3(10), 9—18

北村精一・片峰大助・田村祐治・藤巻博教
1955—Piperazin 剤に由る駆虫効果の検討
総研医薬　(29), 525

北村精一・片峰大助・田村祐治・吉田卯太郎・森口義春・有里実行・大原晨清・藤巻博教
1952—フィラリア浸淫状況調査成績
総研医薬　(26), 318
1953—フィラリア浸淫状況調査成績　学月　41, 318

北村精一・片峰大助・佐々学・林滋生
1953—日本に於ける糸状虫症の文献
最新寄生虫病学　VII, 127—150

黄登雲
1943—台湾万丹床及び琉球嶼住民 5267 名の夜間検血によるミクロフィラリア，バンクロフトの検査成績　熱帯医学　1(34), 375

小林英一
1938—蚊体内に於ける「フィラリア」幼虫の発育変態に関する知見補遺　日寄記　11, 38
1939—ミクロフィラリア，バンクロフト体制に関する研究補遺(英文)
Act. Jap. Med. Trop., 2(1), 193
1940 a—ミクロフィラリア，バンクロフト体制に関する知見補遺　台湾医誌　39(10), 1651
1940 b—蚊体内に於けるミクロフィラリアバンクロフトの発育(英文)
Act. Jap. Med. Trop., 2(1), 63

1941—ミクロフィラリア・バンクロフトの蚊体内 (*Culex fatigans*) に於ける発育
台湾医誌　40(5), 891

小林長美
1933—2年間56例の乳糜尿症の統計的観察
皮泌誌　33(5), 825—826
1935—追加乳糜尿症について　皮泌誌　38(2), 321

小玉博
1938—女子外陰部象皮病の1例　皮紀要　31(1),

児玉伸二・甲斐裕文
1955—我が教室2年間の乳糜血尿症例
皮と泌　17(4), 326

小島浦三郎
1955—陰唇象皮腫の1例　中央医誌　69,

小泉丹
1927—寄生動物学 第1巻　人体寄生虫蠕虫篇

駒屋銀治
1928 a—フィラリア仔虫を証明せる膀胱腫瘍の1例, フィラリア母虫に因る精系淋巴管炎
皮泌誌　28, 226
1928 b—フィラリア母虫に因る精系淋巴管炎
実臨　5(3),
1929—陰茎陰嚢に孤立性に発生せる象皮病の1例
皮泌誌　29(4),
1934—乳糜尿の治療成績
実臨(最新特集号2集), 297

駒屋銀治・一ノ瀬忠行・神代元彦
1927—陰嚢象皮病の手術法に就て
皮泌誌　30(2), 162

駒屋銀治・井上昇
1935—乳糜尿症　皮泌誌　38(2),

小峰績・石井省吾・林滋生・佐藤孝慈・佐々学
1952—Supatonin に依るバンクロフト糸状虫症の治療に関する知見補遺　新治療　2, 294—304
1953—Hetrazan に依るバンクロフト糸状虫症の治療に関する知見補遺　獣畜新報　114, 640

近藤決
1930—癌腫の発生を伴える女子外陰部象皮腫に就て
近畿婦　13(1),

近藤哲造・熊田富貴子
1955—バンクロフト糸状虫症の治験例(会)
日内科誌　43, 1013

河内憲一・成田克元
1955—徳島県下の乳糜尿症　泌紀要　1(3), 207

河野隆
1938—下顎部象皮病患者上膊部腫瘤中にフィラリア母虫を見出せし1例　治処　225,

河野豊蔵
1899—股腺及び鼡蹊腺より獲たる2個のフィラリア母虫に就て　日外科誌　1,

熊野周治
1900—「ヒラリア」母虫に就て　九州医誌　9,

久米久之
1928—乳糜尿症の一剖検例に就て
長崎医誌　6(1), 89—103
1929—乳糜尿の実験的研究
長崎医誌　7(1), 116—141
1930 a—バンクロフト氏フィラリア仔虫の人体内分布に就て　長崎医誌　8(2),
1930 b—フィラリア病の病理解剖及び組織に就て
長崎医誌　8(2), 188—197

国吉真英
1953—宜野座村住民のフィラリア仔虫検査成績
獣畜新報　112, 524

町野碩夫
1953—産婦人科領域に於けるフィラリア症の実験的研究(1)　学月　41, 326
1955 a—Hetrazan に因る糸状虫症の治療成績
総研医薬　(29), 526
1955 b—本邦に於ける糸状虫浸淫状況調査鹿児島県
総研医薬　(29)　520

町野碩夫・大久保不二夫
1953—フィラリア症患者血液の生化学的研究
学月　41, 322

前田道明
1947—佐多町に於けるフィラリア症
鹿児島医専報　3,

前田末男
1951—所謂フィラリア(バンクロフト)症に関する綜説並びに知見補遺　鹿児島医誌　24(別冊), 2
1953 a—フィラリア症の治療と知見補遺(会)
鹿児島医誌　20(11, 12), 297
1953 b—血乳糜尿に対する薬物療法 (Mapharsen, Supatonin) 並びにフィラリア(バンクロフト)症に於ける腎剔出の効果(英文)
Med. Bull. Kagoshima Univ., 特別号, 19
1953 c—産婦人科に於けるフィラリア症 (バンクロフト) に就ての実験的研究
Med. Bull. Kagoshima Univ., 特別号　12
1953 d—フィラリア(バンクロフト)症殊に其の乳糜血尿に対する薬物 (Mapharsen, Supatonin) 療法と其の剔出腎所見　鹿児島医大紀　4(2), 155
1953 e—産婦人科学的領域に於けるフィラリア (バンクロフト) 症の実験的研究
鹿児島医大紀　4(2), 158

前畠真秀
1941 a—バンクロフト糸状虫並びに同虫病に関する文献, 前篇, バンクロフト糸状虫
長崎医誌　19(3), 491—508
1941 b—バンクロフト糸状虫並びに同虫病に関する文献, 後篇, バンクロフト糸状虫病
長崎医誌　19(4), 716—733
1941 c—鹿児島県奄美大島に於けるフィラリア症所見

特にその熱発作 長崎医誌 19(5), 984—1000
1941 d—フィラリア患者の血液凝固速度
長崎医誌 19(6), 1049
1941 e—フィラリア患者の血液像と血液凝固速度との関係 長崎医誌 19(7), 1379
1942—フィラリア患者血液沈降速度並びに血液所見と血液沈降速度との関係 長崎医誌 20(4), 493

増田圭喜
1953—精系フィラリア症 日泌誌 44(7), 374

曲田勝一
1914—象皮病治療法としての淋巴誘導法（ハンドルイ氏りんふきおふらすきー）について
鹿児島医誌 16,

増田睦郎
1954—兵庫県美方郡の一山村に発見されたフィラリア流行例 日新医学 41(12), 628

桝屋富一・春田豊作・柴田正行・上村達郎
1955—フィラリア症の血液凝固に関する研究(会)
鹿児島医誌 28(1, 2), 45

桝屋富一・福元務
1955—フィラリア症の血液学的研究，赤血球像(会)
寄生虫誌 4 (2), 148

桝屋富一・喜屋武朝章・門田光二郎
1955—フィラリア症の血液学的研究，二，三の生化学的所見(会) 寄生虫誌 4(2), 164
鹿児島医誌 27(9, 10), 239

桝屋富一・門田光二郎・有馬陽一
1956—フィラリア症の血液学的研究(1) 二，三の生化学的所見(2)(会) 日血液誌 19(3), 216

桝屋富一・鮫島実俊・福元務・春田豊作
1954—フィラリア症の血清学的研究(会)
鹿児島医誌 27(3, 4), 74

桝屋富一・鮫島実俊・福元務・春田豊作・肥後正典・津崎文雄・大園勝美
1954 a—フィラリア症の血液学的研究(1)(会)
日血液誌 17, (4, 5), 245
1954 b—フィラリア症の血液学的研究(1)(会)
寄生虫誌 3(1), 57
1954 c—フィラリア症の血液学的研究(2)(会)
日内科誌 43(7), 553

桝屋富一・鮫島実俊・福元務・春田豊作・門田光二郎・津崎文雄・有馬陽一・藤村繁・中野一・喜屋武朝章
1956—フィラリア症の病態生理に関する研究(2)
日内科誌 45(5),

桝屋富一・鮫島実俊・肥後正典
1954—フィラリア症の血液学的研究(1) 白血球系(会)
日血液誌 18(4), 327
1955—フィラリア症の血液学的研究，白血球像(会)
寄生虫誌 4(2), 148

桝屋富一・鮫島実俊・喜屋武朝章・福元務・春田豊作・門田光二郎・津崎文雄・大園勝美・肥後正典
1955—フィラリア症の病態生理に関する研究(1)(会)
日内科誌 44(5), 413

松見一男
1940—フィラリア性副睾丸炎 皮紀要 36(1), 25

松本岐・小林尚
1955—Filaria 症の Hetrazan 療法(会)
信州医誌 4(1), 59

松本操
1935—乳糜尿の治験 四国医誌 3,

松尾弘
1932 a—フィラリア性淋巴腺炎に就て 第1篇 淋巴腺に於ける Filaria 母虫に就て
長崎医誌 10(1), 63—79
1932 b—フィラリア性淋巴腺炎に就て 第2篇 Filaria 淋巴腺の組織学的変化に就て
長崎医誌 10(4), 507—520
1932 c—バンクロフト・フィラリア寄生について
日寄記 4, 19
1932 d—淋巴腺に於けるフィラリア母虫
東医事誌 2673,

松岡功
1937—沖縄に於ける地方性象皮病の臨床的研究並びに統計的観察 行刑衛生 11(12),
1939—地方性象皮病の予防 日微病誌 33(5), 593
1942—地方性象皮病の診断及び治療に於ける新方向（松岡反応） 診治 29(9), 955

松下真吉
1929—人糸状虫の検出法に就て
大阪医誌 28(5), 1610

松下禎二
1913—象皮病の原因及び「フィラリア」虫に関する討論追加 日内科誌 4, 596

松下禎二・帖佐彦四郎・竹内伊三・吉村真雄・不破格
1914—最新フィラリア虫病及び象皮病論，特に日本に於ける研究成績 日新医学 3(5,6), 633—692

松下禎二・吉永福太郎・帖佐彦四郎
1911—象皮病の原因及び予防法第1回報告，
第3回日本医学会誌

松谷義清
1914—寄生虫性精系炎の1例
高知医学士同窓会業報 4(11),

松浦元紓
1918—フィラリアに関する葡萄膜炎の1例
静岡医会報

馬詰嘉吉
1943—硝子体中のフィラリア摘出の失敗症例
綜眼誌 36(4), 673

三村六郎
1936—乳糜血尿を主訴とする「フィラリア」病に於ける各器官の病理組織学的変化
日泌誌 25(3), 206

南進・山本一夫
1936—北支に於て感染したる地方性象皮病の1例
テラピー 13(7),

皆見省吾・江原猪知郎
1928—乳糜尿，纖維素尿並びにフィラリア虫
皮泌誌 28(3), 283

皆見省吾・佐藤書
1929—乳糜尿の治験 日泌誌 29, 1172

峯直次郎
1911—沖縄兵に於けるフィラリア伝播の状況報告
軍医団誌 12, 253

Mine, N
1911—Über das endemische Vorkommen von *Mikrofilaria nocturna* in Japan
Arch. Schiffs. Trop. Hyg. 15(7), 5—28

光富慎吾・兵働貞夫・森博愛・岡崎通・尾上薫・有川武郎令
1951—鹿児島県東長島村に於けるフィラリア調査成績
臨研 28(7), 548

宮川米次
1921—最近に於ける二，三の治療実験
実験医誌 10(3), 290—299

Miyagawa, Y.
1953—Studies on powdery preparations of colloids and colloidal solutions
Jap. J. Fxp. Med., 23(1), 39—51

宮川米次・北村包彦・森下哲夫・一ノ瀬健吾・岩田芳郎・清水重矢・松本新
1943—人「フィラリア」（ウヘレリア・バンクロフティ）の一新殺虫療法 日寄記 15, 38

宮川米次・北村包彦・森下哲夫・一ノ瀬健吾・岩田芳郎・清水重矢・松本新・都築傑
1943—フィラリアの一新殺虫療法，血中の幼虫滅法，出血性乳糜尿症の治療 治処 24(7), 545

三宅速
1909—バンクロフト糸状虫の形態的並びに臨床的補遺
中外医報 662,

溝上定男
1913—フィラリア仔虫の検出法について
陸医団誌 41, 4

望月代次
1910—バンクロフト氏糸状虫の仔虫に就て
福岡医大誌 4(3), 111—162
1911—各種の蚊とバンクロフト氏糸状虫との関係に就て 福岡医大誌 4(3), 384—444
1912—再び象皮病の原因について
医学中央誌 10(1), 4—8
1913—バンクロフト糸状虫の構造に就て
福岡医大誌 6,
1914 a—象皮病の知究 官報 629,
1914 b—バンクロフト糸状虫について
細菌 223, 423—432

望月代次・井上三郎
1912—象皮病の原因について
医学中央誌 9(16), 1505—1513
医学中央誌 9(17), 1609—1617

望月代次・笠原精一
1913—鹿児島県種子島及び甑島並びに沖縄県に於ける象皮病患者調査報告
中外医報 808, 1513—1530
809, 1901—1612
日内科誌 4, 231—237

門馬健次
1942 a—浙江省に於ける *Microfilaria malayi* の新流行地域 同仁会医誌 16(4), 209
1942 b—浙江省，江蘇省にて検査せる Microfilaria の感染度並びにその種類 (1) 特に舟山島定海に於ける *Microfilaria malayi* の存在
同仁会医誌 16(6), 293
1942 c—浙江省舟山島に於けるミクロフィラリア，マレーの分布
同仁会医誌 16(8), 432
日寄記 14, 102
1942 d—浙江省，江蘇省にて検査せるミクロフィラリアの感染度並びにその種類(2) 特に銭塘江南岸地区に於けるミクロフィラリア，マレーの存在 同仁会医誌 16(6), 302
日寄記 14, 103
1943—浙贛地方に於けるミクロフィラリア，マレイの分布状態 同仁会 17(12),
日寄記 15, 37
1944—浙江省に於けるミクロフィラリア，マレイの分布状態 日本医学 3367, 273—277

森武美
1915—「フィラリア」に因する海綿様淋巴管腫に就て
台湾医誌 155, 855

森口喜春
1953—バンクロフト糸状虫症の臨床的研究補遺(1) 天草島大江村に於けるバンクロフト糸状虫症
長崎医誌 28(9), 964—971
1954—興味あるバンクロフト糸状虫症の二症例
長崎医誌 29(12), 913—915
1955—バンクロフト糸状虫症の臨床的研究補遺，其の二．所謂「くさふるい」の臨床像
長崎医誌 30(11), 1431—1458

森下薫
1951—日本の寄生虫 最新寄生虫病学 第1篇
1954—本邦に於ける糸状虫症浸淫状況調査成績(3) 中部地方(和歌山県) 綜研医薬 (28), 441
1955 a—糸状虫免疫に関する研究
綜研医薬 (29), 523
1955 b—本邦に於ける糸状虫浸淫状況報告共同研究(3) 和歌山県 綜研医薬 (29), 519

森下薫・中村敏夫・西村猛・森下智・坪坂勉

1956—福井県に於ける糸状虫症(会)
寄生虫誌　5(2), 245

森下薫・中村敏夫・西村猛・南風原助泰
1956—福井県に於ける糸状虫の調査成績(第2報)(会)
日寄記西　12, 61—63

森下薫・中村敏夫・西村猛・尾崎権一郎
1953—紀南地方の糸状虫症について(会)
日寄近畿　9, 5—6

森下哲夫
1956—東海地方のフィラリア，肺 Distoma 及び顎口虫症　治薬報　535, 19

盛彌寿男
1934—「フィラリア」による象皮病　臨講　51,

森安男
1955—隠岐島民に見られたフィラリアによる乳糜性陰嚢水腫の1例(会)　皮と泌　17(2), 176

宗菊次郎・中野巖
1941—精系より発見せるフィラリア母虫
日泌誌　30(2), 182
体性　28(3), 177

村上次一郎
1914—象皮病の一例　台湾医誌　113(2),

村田貢
1930—象皮病の一例　皮泌誌　30(4),

長花操
1944—県下のフィラリアは減少しつゝありや
鹿児島医誌　22(4), 8
1949—フィラリアの研究　公衛誌　6(8), 22—24
1951 a—鹿児島に於けるフィラリア伝播蚊の種類
衛動　2(1), 25
1951 b—鹿児島に於けるフィラリア伝播蚊の発生水域
衛動　2(1), 24—25
1951 c—鹿児島に於けるフィラリア伝播蚊の発生水域(2報)　公衛　9(5), 289
1954—本邦に於ける糸状虫症浸淫状況調査成績(4) 島根県隠岐島　総研医薬　(28), 441
1955—本邦に於ける糸状虫浸淫状況調査共同研究(5) 島根県隠岐島　総研医薬　(29), 519

長花操・石神兼英・岩重真子
1954—鹿児島に於けるフィラリア症の疫学的研究(3) 笠沙に於て自然界で糸状虫を伝播する蚊の種類と其の発生水域　鹿児島医誌　27(7, 8), 157

長花操・貴島亨・宮田典男・宮下秀隆・中塩一
1949—肝属郡新城村に於けるミクロフィラリアの調査
鹿児島医誌　22(4), 8

長花操・貴島亨・外山寛樹・宮田典男・児玉一幸・中塩一・桑畑紀也・村岡ゆきえ
1954—鹿児島に於けるフィラリア症の疫学的研究(5) 根占，大村，黒木及び菱刈に於ける糸状虫浸淫の現状と同地に於て自然界で糸状虫を伝播する蚊の種類と其の発生水域
鹿児島医誌　27(9, 10), 221

長花操・中塩一・貴島亨・村岡ゆきえ
1954—鹿児島県に於けるフィラリア症の疫学的研究(4) 新城に於て自然界で糸状虫を伝播する蚊の種類と其の発生水域
鹿児島医誌　27(7, 8), 162

長花操・宮田典男・貴島亨・中塩一
1954—鹿児島県に於けるフィラリア症の疫学的研究(1) 新城に於ける糸状虫浸淫の現状
鹿児島医誌　27(5, 6), 97

長花操・外山寛樹
1954 a—隠岐島に於けるフィラリア症
米子医誌　5(3), 194
1954 b—鹿児島及び隠岐島に於ける糸状虫の種類(会)
寄生虫誌　3(1), 54
1955—バンクロフト糸状虫幼虫の蚊体内に於ける発育条件　総研医薬　(29), 521

長花操・外山寛樹・西田弘・浅木快造・上平用
1955—隠岐島に於けるフィラリア症(2)
米子医誌　6(2), 122

長花操・山元典雄・橋口兼英・石上英昭・簡富雄・児玉一幸
1949—川辺郡笠知町に於けるミクロフィラリアの調査
鹿児島医誌　22(4), 8

長花操・山元典男・石神兼英・児玉一幸
1954—鹿児島県に於けるフィラリア症の疫学的研究(2) 笠沙に於ける糸状虫浸淫の現状
鹿児島医誌　27(5, 6), 101

長花操・山下博
1951—鹿児島県下に於ける「フィラリア」の浸淫状況(第3報)　日寄記　20,

長花操・山下博・石神兼英・堀栄太郎・貴島亨・桑畑紀也・村岡ゆきえ
1954—鹿児島県に於けるフィラリア症の疫学的研究(6) 海士泊，中河内，中原及び久保に於ける糸状虫浸淫の現状と同地に於て自然界で糸状虫を伝播する蚊の種類と其の発生水域
鹿児島医誌　27(11, 12), 272

長花操・山下博・宮田典男・中塩一・児玉一幸・外山寛樹・坂本明雄
1955—鹿児島県に於けるフィラリア症の疫学的研究(7) 船間，大牟礼及び神川上に於ける糸状虫浸淫の現状と同地に於て自然界で糸状虫を伝播する蚊の種類と其の発生水域
鹿児島医誌　28(1, 2), 15

長花操・山下博・外山寛樹・児玉一幸・貴島亨・堀栄太郎・幸泉光彌
1955—鹿児島県に於けるフィラリア症の疫学的研究(8) 塩追，瀬上，江石及び島間に於ける糸状虫浸淫の現状と同地に於て自然界で糸状虫を伝播する蚊の種類と其の発生水域
鹿児島医誌　28(3, 4) 79

長沢透

1928—糸状虫病例(人及び犬)心臓，病理組織学的研究
慶応 8(11),

永友勇夫
1955—糸状虫症の撲滅に関する実験的研究(会)
寄生虫誌 4(2), 163

永吉浩
1948 a—鹿児島県に於けるバンクロフト糸状虫症の現症状，熱発作症状と仔虫検索成績に関する考察　鹿児島医誌 21(5),
1948 b—バンクロフト糸状虫症に対する諸種薬剤の影響(第1篇)生体外仔虫に対する薬物の影響
鹿児島医専報 4,
1948 c—バンクロフト糸状虫症に対する諸種薬剤の影響(第2篇)所謂フィラリア熱発作に対する薬剤の影響　鹿児島医誌 21(11), 4,
1949 a—健康人のミクロフィラリアの検出
鹿児島医誌 22(3), 6
1949 b—乳糜尿診断補遺　鹿児島医誌 22(10), 12
1951 a—鹿児島県十島村(硫黄島竹島)に於けるバンクロフト糸状虫症の臨床的研究
皮と泌 13(2), 132—135
1951 b—乳糜尿検出法補遺
鹿児島医誌 24(6), 10—12
1952—フィラリア症の免疫学的研究補遺
医学研究 22(9), 1225

仲地紀晃
1929—フィラリア虫病に於ける血中仔虫の態度及び草ふるい発作の消長に就て　長崎医誌 7(5),

中川菅松
1914—雀の血液中のフィラリア仔虫に就て(会)
朝鮮医誌 4(13), 53

中浜東一郎
1896—八丈島所属小島に於ける「バク」病取調報告
東医事誌 954, 1271—1278

中村家政・市村平
1953—フィラリア性精系淋巴管炎の臨床的並びに病理学的研究特に結核性副睾丸炎との鑑別
皮と泌 15(3), 241

中村和雄
1936—乳糜尿に於ける肝臓及び腎臓機能
皮と泌 4(6),
1937—乳糜尿に於ける肝臓及び腎臓機能
皮泌誌 43(3),

中村敏夫
1954—糸状虫の免疫学的研究(第1報)
日寄記西 10, 19—20,

中野一・桝屋富一・川崎兼陽
1956—フィラリア症の血液学的研究(2) 白血球系(2)(会)　日血液誌 19(3), 216

中野巌
1939—血乳糜尿の1例　皮泌誌 45(3),

中野俊二
1917—フィラリア性陰嚢水腫について
軍医団誌 68,

中尾知足
1933—「ピェログラフィー」に依り治療せる乳血尿症の3例　皮紀要 21(2),
1936—高度の Frei 氏反応を示せる陰唇象皮病の1例
ルェス 12(2),

中曽根敬吉・高田全
1952—乳糜尿症の1例　日泌誌 43(7), 319

中沢威夫
1930—「ミクロフィラリア」を発見せる象皮病の一例
皮泌誌 30(1),

中島佐
1934—女子外陰部象皮病の二例　臨日医 3(3),

並木定吉
1955—フィラリアに因ると思われる症例6例の報告(会)　医療(9 増刊), 190

難波文夫
1937—象皮病の療法　熊本医誌 13(8),

楢原憲章
1931—乳糜尿の沃度「ナトリウム」腎盂内注入例による治験　九州医誌 34,
1945—腎盂注入に依り治験せしめ得たる乳糜尿1例
皮泌誌 38(9),
1953—乳糜尿症　学月 41, 324

楢原憲章・天野晴正・児玉伸二
1953—乳糜尿症に関する研究　総研医薬 (27),

楢原憲章・児玉伸二・甲斐祐文
1955—乳糜尿症に関する研究，特に腎盂薬液内注入が血中好酸球の消長に及ぼす影響
総研医薬 (29), 525

楢原憲章・中村家政
1953—フィラリア性精系淋巴管炎の臨床的並びに病理学的検索特に結核性副睾丸炎との鑑別
学月 41, 324

根井直
1937—フィラリア性精系淋巴管炎
臨床医 25(8),

二宮敬治
1943—乳糜尿　岩手医専誌 6(3, 4), 93

二宮茂彌
1943—乳糜尿　臨獣医報 19(1), 1
1945—出産後に発したる乳糜血尿症の1例
皮紀要 25(5),

西本勝之輔
1940—乳糜尿患側腎に現出せる顕著なる淋巴管逆流像
日泌誌 29(5), 416

西山伊織・王城文男・宮地殷三
1953—琉球に於けるフィラリア虫病及びトリパフラヴ

ィン療法に就きて　東医事誌　2393, 2317

新沢新

1934—腎盂内に硝酸銀注入法を以てせる「ヒルリー」の治験例　皮泌誌　35(5),

野木一雄・富家英子・坂本欽次郎

1951—フィラリア症の Hetrazan (邦製 Supatonin) 療法　治療　33(11), 1012

野口喜久彌

1935—乳糜症に対する腎盂注入療法の経験　日泌誌　24(5),

大保不二夫

1953—フィラリア症に関する生化学的研究　学月　41, 321

1954—糸状虫の代謝に関する研究　総研医薬　(28), 446

大浜信賢

1939—沖縄県八重山郡小平及び竹富尋常高等小学校児童のフィラリア調査成績　台湾医誌　38(11), 1625—1632

1940—学校児童のフィラリア調査成績　日学衛　28(7), 445

1941 a—フィラリア仔虫の昼間検出　台湾医誌　40(1), 147　40(5), 941

1941 b—沖縄県八重山郡白良尋常高等小学校児童のフィラリア調査成績　台湾医誌　40(6), 1164—1168

1943 a—沖縄県石垣島に於けるバンクロフト糸状虫病 *Wuchereria bancrofti* の自然感染状況と部落住民の衛生状態並びにフィラリア感染との関係　台湾医誌　42(3附), 1—41

1943 b—沖縄県宮古島に於けるバンクロフト糸状虫の疫学的調査成績　熱帯医学　1(5, 6), 569

大橋二郎

1956—最近経験したフィラリア症症例　京都医誌　6(9), 317

岡部浩洋

1955 a—糸状虫症の免疫血清学的研究　総研医薬　(29), 524

1955 b—本邦に於ける糸状虫浸淫状況調査, 鹿児島県喜界島　総研医薬　(29), 520

1956—糸状虫性 Allergy (会)　寄生虫誌　5(2), 299

岡部浩洋・松瀬幹也

1954 a—バンクロフト糸状虫症の免疫学的研究, 沈降反応(会)　寄生虫誌　3(1), 58

1954 b—鹿児島県喜界島の糸状虫症調査成績　久留米医誌　17(9, 10), 361—364

1956—バンクロフト糸状虫の免疫学的研究. 第2報沈降反応　久留米医誌, 19(10), 1619—1621

1957—バンクロフト糸状虫の免疫学的研究. 第3報犬糸状虫と馬糸状虫の糖劃分による沈降反応　久留米医誌　20(5), 562—566

岡部浩洋・松瀬幹也・山崎達雄

1957—バンクロフト糸状虫症の免疫学的研究. 第4報犬糸状虫と馬糸状虫の糖劃分による皮内反応　久留米医誌　20(5), 567—569

岡部浩洋・山口富雄・山下博

1953—糸状虫症の免疫学的研究(会)　日寄記　21, 20

1954—バンクロフト糸状虫症の免疫学的研究 第1報. 馬糸状虫抗原による皮内反応と補体結合反応　鹿児島医紀　6(1), 188—192

岡田実栄・浜野洪範

1936—胸管結紮に依る腎臓及び淋巴腺の変化に就て　長崎医誌　14(10), 1833—1845

岡田一郎・山田博・津田隆男

1941—乳糜尿症の治験例　治療誌　11(5), 386

岡田侃三

1942—血乳糜尿症の1例(ミクロフィラリアの誘出法)　皮紀要　39(5), 375

岡元健一郎

1953—フィラリア症の臨床的研究　学月　41, 326

1953—乳糜尿の腎周囲剝離術の1例. 嚢腫腎, 閉鎖性腎結核(不完全)の Pyelogram (会)　皮と泌　15(3), 326

1954—フィラリア熱発作の治験例(会)　皮と泌　16(5), 504

1955—フィラリア性皮膚疾患, 特にフィラリア熱発作　皮最進　1, 289

岡元健一郎・亀甲大・河世知節夫

1952—乳糜尿と Supatonin (会)　日泌誌　43(5), 206

岡元健一郎・亀甲大・川路清高・松本光幸

1954—乳糜尿腎の組織所見　皮と泌　16(6), 534

岡元健一郎・松山昌

1952—フィラリア症血清の拡散因子作用(会)　日泌誌　43(5), 206

1953—フィラリア熱発作に対する諸種薬剤の影響の遠隔成績　鹿児島医大紀　4(1), 30

岡元健一郎・永吉浩

1947—鹿児島県肝属郡佐多町に於ける糸状虫症分布並びに県下分布の概況　鹿児島医誌　20(10), 10

1948 a—鹿児島に於けるバンクロフト糸状虫症の分布の概況並びに佐多地方に於ける調査成績　鹿児島医誌　21(2), 6

1948 b—鹿児島県に於けるバンクロフト糸状虫症の現症状熱発作時症状と仔虫検索成績に関する観察　鹿児島医誌　21(5), 3

岡元健一郎・大保不二夫

1955—フィラリア症に於ける Hyaluronidase の研究

実験的研究 総研医薬 (29), 525

岡村一郎

1951—フィラリア症に関する研究 学月 (21), 25

1954—本邦に於ける糸状虫症浸淫状況調査成績(8) 鹿児島県十島村 総研医薬 (28), 442

岡村一郎・三浦守・松下文雄・菅原謙次

1955—鹿児島県十島村口之島に於けるフィラリア調査 熊本医誌 29(7), 876—878

岡村一郎・村上知充

1955—フィラリア症の病理組織学的知見補遺(会) 日病理誌 44(1), 189

岡村一郎・村上和充・梅本元彦

1954—糸状虫症の病理学的研究 総研医薬 (28), 444

岡村一郎・梅本元彦・村上和充

1953—フィラリア症に関する研究, 特にフィラリア症の発症に関する病理学的, 寄生虫病学的研究 学月 41, 322

奥島愛次郎

1914—フィラリア性精系炎について 九沖医会誌 19,

1942—フィラリア仔虫(ミクロフィラリア)の体制に関する知見補遺 (2) *Wuchereria bancrofti* の仔虫ミクロフィラリア, バンクロフトの微細構造 台湾医誌 41(2), 1466

1943—*Wuchereria bancrofti* の仔虫ミクロフィラリア, バンクロフトのネッタイイエカ *Culex quinquefasciatus* (*Culex fatigans*) の体内に於ける発育に関する研究補遺 熱帯医学 1(34), 375

大井実

1943—陰嚢水腫発生原因としてのフィラリア症の意義 実医 29(10), 201

大森南三郎

1953 a—蚊体内に於けるミクロフィラリアの発育生存に及ぼす温度の影響に関する研究 学月 41, 320

1953 b—蚊体内に於けるフィラリア仔虫及び幼虫の発育, 生存に及ぼす温度の影響に関する研究(会) 寄生虫誌 2(1), 45

1954—バンクロフト糸状虫症伝搬蚊の生態 臨研 31(5), 449

1954 a—(1) 赤家蚊の満腹時の摂取仔虫数(2) 赤家蚊体内に於けるフィラリア仔虫及び幼虫に及ぼす低温の影響 総研医薬 (28), 443

1954 b—蚊 (*Culex pipiens pallens*) の摂取するミクロフィラリア数(会) 衛動 5(1, 2), 73

1954 c—蚊体内に於けるフィラリア仔虫及び幼虫の生存発育に及ぼす低温の影響に関する研究(2)(会) 寄生虫誌 3(1), 56

1955 a—蚊体内に於けるフィラリア仔虫及び幼虫の発育, 生存に及ぼす低温の影響に関する研究(3), 13°C, 及び 13—27°C 交代温度の影響 総研医薬 (29), 521

1955 b—低温の影響に就ての研究(3) フィラリア仔虫に対する 13°C 及び 13—27°C 交代温度の影響 寄生虫誌 4(2), 147

1956 a—アカイエ蚊体内に於けるフィラリア幼虫の生存期間 動雑 65(3, 4), 107

1956 b—蚊体内に於けるフィラリア幼虫の発育生存に及ぼす温度の影響(4)(会) 寄生虫誌 5(2), 251

1957—バンクロフト糸状虫症の伝搬に関するアカイエカの役割に関する実験的研究. 第1報 27°C 及び 25°C で飼育した感染蚊の体内に於けるフィラリア幼虫の発育分布及び生存数について 長崎医誌 32(11), 1434—1445

大森南三郎・大島正治・永友勇夫

1954—フィラリア浸淫地に於ける蚊族の自然感染 長崎医誌 29(7), 584

大森清一

1934 a—フィラリア性精系淋巴管炎 皮泌誌 36(1),

1934 b—乳糜尿症の統計的観察 日泌誌 24(6), 487—488

1935—乳糜尿症に於ける統計的観察特にその Pyelogram 所見 皮泌誌 38(2), 331—342

大森周三郎

1938—剖検せる乳糜尿症の1例 日泌誌 27(1),

大沢

1927—象皮病の一新治療法 グレンツ 8,

大島正治

1953 a—フィラリアの自然感染 学月 41, 321

1953 b—九州西部の二三の部落に於けるフィラリアの疫学的調査(会) 衛動 4(1, 2), 12

1954 a—五島崎山村に於けるフィラリアの流行学的研究(会) 長崎医誌 29(1), 90

1954 b—本邦に於ける糸状虫症浸淫状況調査成績(6) 長崎県西彼杵郡 総研医薬 (28), 441

1955 a—本邦に於ける糸状虫浸淫状況調査, 長崎県西彼杵郡 総研医薬 (29), 520

1955 b—西九州に於けるバンクロフト糸状虫症の浸淫並びに蚊族の自然感染に関する研究, 第1編 糸状虫症の浸淫状況調査成績 長崎医誌 30(11), 1467—1477

1956—西九州に於けるバンクロフト糸状虫症の浸淫並びに蚊族の自然感染に関する研究(2) 蚊族の自然感染に関する研究 衛動 7(1), 9—18

大島正治・大森南三郎・永友勇夫

1955—糸状虫症の撲滅に関する実験的研究 総研医薬 (29), 526

大城満助

1931—巨大陰唇象皮病例 九州医誌 34,

大城幸雄

1937—東北地方に於けるフィラリア症に就て
グレンツ　4(7), 844—861

扇谷正彦・河西やう子・高島稔雄
1953—フィラリア症に対する Hetrazan 療法
日医師誌　29(12), 643

尾辻義人
1954—ミクロフィラリアの定期出現性に関する研究(会)　寄生虫誌　3(1), 57
1955 a—鹿児島坊之津村に於ける糸状虫症の調査並びに糸状虫症感染と Hyaluronidase との関係(会)　寄生虫誌　4(2), 161
1955 b—フィラリア症に関する研究(第11報)鹿児島県坊津村に於ける糸状虫症について
鹿児島医大誌　7(2), 283—289
1955 c—フィラリア症に於ける拡散因子(会)
日内科誌　44(6), 604
1955 d—坊之津村フィラリア調査(会)
鹿児島医誌　28(1, 2), 46
1955 e—フィラリア症に於ける拡散因子
寄生虫誌　5(2). 246
1956 a—フィラリア症と Hyaluronidase (会)
鹿児島医誌　29(1, 2), 39
1956 b—フィラリア症治療と Hyaluronidase (会)
鹿児島医誌　29(9, 10), 286
1957—フィラリア症に関する研究(第18報), フィラリア症に於ける拡散因子について(フィラリア性熱発作に対するスパトニンの作用機転について)　鹿児島大医誌　8(5), 951—958

尾辻義人・松山国隆
1953—諸種薬剤による昼間末梢血内仔虫, 誘発法並び Supatonin による集団治療成績(会)
鹿児島医誌　26(6, 7), 196
1954—ミクロフィラリアの定期出現性(会)
鹿児島医誌　27(3, 4), 74

尾辻義人・伊地知秀治
1954—フィラリア症に関する研究(第6報), 夜間及び昼間スパトニン誘発時における身体各所の仔虫出現状況　鹿児島医誌

小沢凱・長谷川恒夫
1942—Trendelenburg 法によるフィラリアの摘出
日外宝　19(5), 906

西郷親盛
1937—沖縄県下に於けるフィラリア病分布状態に就て
日寄記　9, 45
1939—沖縄県下に於けるフィラリア病に関する研究
熊本医誌　15(2), 173—193
1940 a—沖縄県下に於けるフィラリア病に関する研究(2) フィラリア仔虫の末梢血液中出現状況並びにフィラリア病とマラリア虫感染との関係
熊本医誌　16(1), 63—72
1940 b—沖縄県下に於けるフィラリア病に関する研究(3) 蚊族の分布状態及び其の幼虫の生育に及ぼす県産淡水魚の害敵作用
熊本医誌　16(2), 289—305
1940 c—沖縄県下に於けるフィラリア病に関する研究(4) バンクロフト糸状虫寄生の体格栄養状態に及ぼす影響　熊本医誌　16(2), 307—314

斎藤勝二
1942—「ヘルニア」嚢に於ける「フィラリア」母虫結節に就て　グレンツ　4, 844

斎藤健二・須藤長章
1938—フィラリア性乳糜尿の3例　皮泌誌　44(4),

斎藤弘作
1939—血性乳糜尿の治験例　皮泌誌　45(2),

斎藤貞一
1930—乳糜尿に対する「フィラリジン」注射の治験
治薬報　330,

鮫島実俊・肥後正典
1955—フィラリア症の血液学的研究, 特に白血球像(会)　鹿児島医誌　28(1, 2), 45

佐々学
1952—糸状虫症とその化学療法に於ける最近の進歩
新治療　(2)
1953 a—人体糸状虫症の予防並びに治療の研究
総研生農　(28), 159
1953 b—日本のフィラリア症, 特に其の疫学予防治療法の現状　獣畜新報　116, 763
日新医学　40(3), 129
1954 a—本邦に於ける糸状虫症浸淫状況調査成績(1)東日本の糸状虫　総研医薬　(28), 440
1954 b—糸状虫症の研究　総研医薬　(28), 440

佐々学・林滋生
1952 a—糸状虫症の化学療法
東獣畜報(フィラリア特集号), 4—12
1952 b—日本に於けるマレー糸状虫症及びバンクロフト糸状虫症の疫学　日寄記　21, 19—20
1953 a—八丈地方のフィラリア症　学月　41, 319
1953 b—糸状虫症　最新寄生虫病学　7, 1—46
1955—Cottonrat の糸状虫 *Litomosoides carinii* に関する研究　総研医薬　(29), 522

Sasa, M., S. Hayashi, R. Kano, K. Sato, I. Komine & S. Ishii
1952—Stuides on filariasis due to *Wuchereria malayi* (Brug, 1927) discovered from Hachijo-Koshima Island, Japan
Jap. J. Exp. Med., 22(4), 357—

佐々学・林滋生・佐藤孝慈・小峰績・石井省吾
1951—八丈島に於けるマレイ糸状虫症の研究(3)
日新医学　38(10), 575

佐々学・林滋生・佐藤孝慈・加納六郎・小峰績・石井省吾
1951—八丈小島のマレー糸状虫病の研究(第3報) 1. 疫学的所見, 2. 臨床的所見　臨床　4(3), 99

佐々学・林滋生・鈴木猛・三浦昭子・上野廣治・田中英文
1957—八丈小島に於けるマレー糸状虫症及びその媒介蚊の地域的駆除の試み—特にＤＤＴ粉剤のヘリコプター撒布について　衛動　8(1), 28—33

佐々学・林滋生・田中寛
1954—東日本及び北日本の人糸状虫症の疫学的研究(会)　寄生虫誌　3(1), 43
1955—本邦に於ける糸状虫浸淫状況調査共同研究(2). 茨城県　総研医薬　(29), 519

佐々学・加納六郎
1948—八丈島に於けるいわゆるバク病の本態について　科学　18(12), 537

佐々学・佐藤孝慈・加納六郎
1955—本邦に於ける糸状虫浸淫状況調査宮古島及び石垣島　総研医薬　(29), 521

佐々学・田中寛・佐藤孝慈・林滋生・石井省吾・小峰績・向後鉄太郎
1953—青森県下のフィラリア症について　日医師誌　30(12), 609—616

笹川正男
1919—淋巴陰囊皮中に発見せるフィラリア母虫標本供覧　皮泌誌　19, 227

笹岡芳名
1914—血乳糜尿の一治療法　皮泌誌　14, 516

佐藤八郎
1953 a—フィラリア症の治療並びに生物学的診断に関する研究　学月　41, 326
1953 b—フィラリア症の治療　診療室　5(8), 636
1954 a—ミクロフィラリアの定期出現性　総研医薬　(28),
1954 b—本邦に於ける糸状虫症浸淫状況調査成績(7) 鹿児島県　総研医薬　(28), 442
1954 c—奄美大島及び沖縄の糸状虫症調査(会)　鹿児島医誌　27(9, 10), 238
1954 d—糸状虫症の肝機能及び血清蛋白　総研医薬　(28), 448
1954 e—フィラリア症の治療について　診療室　5(8), 636—641
1955 a—南日本の糸状虫症　総研医薬　(29), 520
1955 b—糸状虫症の治療　総研医薬　(29), 526
1955 c—琉球のフィラリア　治薬報　526, 19

佐藤八郎・福島英雄・政真哉
1955—奄美大島群島のフィラリア症調査(会)　鹿児島医誌　28(1, 2), 46

佐藤八郎・橋本修治・福島英雄・黒肱敏郎・貴島亨・米沢藤士・植村六郎・片平勝郎・前田実光
1950—南九州沿岸離島のフィラリア症に就て(第２報)　鹿児島医大紀　2(2),

佐藤八郎・北原経太・米沢藤士・田畑響作
1952—種子島に於ける糸状虫症調査(会)　鹿児島医誌　27(4), 73

佐藤八郎・植村芳郎・福島英雄・政真哉・指宿英造
1955—奄美大島の糸状虫症査成績(会)　寄生虫誌　4(2), 161

佐藤八郎・米沢藤士
1954—糸状虫症　臨研　31(5), 440—448

佐藤八郎・米沢藤士・有馬俊典
1950—鹿児島県甑島のフィラリア調査成績(1報)　鹿児島医大紀　2(1), 25—28

佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・花城清高・政真哉
1954—南九州離島並びに沖縄の糸状虫症調査(会)　寄生虫誌　3(1), 127

佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人
1953—Supatonin に依るフィラリア症の治療　日寄記　21, 17
1954—砒素剤 Mapharsol 及び抗生物質 Trichomycin に依る糸状虫症の治療(会)　日伝染誌　29(5), 253
1955—Trichomycinに依る糸状虫症の治療に関する研究(会)　鹿児島医誌　28(1, 2), 46
1955—マフアルプールによるフィラリア症の治療に就て　新薬臨　4(10), 655—668
1656—砒素剤 Mapharsol に由る糸状虫症の治療(会)　鹿児島医誌　29(1, 2), 38

佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人・花城清高・奥野馨・上堤辰男・要慎一朗
1956—フィラリア症の治療に関する研究(会)　寄生虫誌　5(2), 249

佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人・花城清高・奥野馨・上堤辰男・要慎一朗・永井一成・浜田己則
1957—フィラリア症に関する研究(第15報)鹿児島湾沿岸瀬々串地方に於ける糸状虫症について　鹿児島大医誌　8(5), 938—945

佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人・花城清高・奥野馨・要慎一朗・上堤辰男
1956 a—糸状虫症の治療に関する研究(会)　日伝染誌　30(4), 362
1956 b—鹿児島湾沿岸喜入村瀬々串の糸状虫症調査成績(会)　寄生虫誌　5(2), 272

佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人・松山国隆
1953—フィラリア症に関する研究(第４報), スパトニンによるフィラリア症の集団治療について　鹿児島医大紀　4(2), 180—184

佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人・松山国隆・貴島亨
1953—Supatonin に依るフィラリア症の集団治療成績(会)　寄生虫誌　2(1), 41

佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人・西田量作
1957—フィラリア症に関する研究(第17報) Mapharsol による糸状虫症の治療に関する研究　鹿児島大医誌　8(5), 946—950

佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人・指宿英造
1957—フィラリア症に関する研究(第16報)トリコマ

イシンによる糸状虫症特に乳糜(血)尿に対する治療効果に就て(その1)
鹿児島大医誌 8(5), 760—766

佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・指宿英造
1956—Trichomycin に関する Filaria 症の治療(会)
寄生虫誌 5(2), 274

佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・田畑晋作
1954—フィラリア症に関する研究(第7報). 甑島, 獅子島, 種子島の糸状虫症について
鹿児島大医紀 5(3, 4), 12—20

佐藤八郎・米沢藤士・橋本修治・福島英雄・片平勝郎・尾辻義人
1952—フィラリア症に関する研究(第3報)ピペラジン誘導体スパトニンによるフィラリア症の治療について(其の1)
鹿児島医大紀 3(2), 16—21

佐藤八郎・米沢藤士・橋本修治・福島英雄・片平勝郎・黒肱敏郎・尾辻義人
1953—Filariasis 研究
Med. Bull. Kagoshima Univ., (特別号) 1

佐藤八郎・米沢藤士・橋本修治・福島英雄・片平勝郎・尾辻義人
1952—スパトニンによるフィラリア病の治療
臨研 29(8), 703—710

佐藤八郎・米沢藤士・尾辻義人
1954—糸状虫症の治療(会)
鹿児島医誌 27(5, 6), 115

佐藤八郎・米沢藤士・尾辻義人・花城清高
1953—沖縄本島三和村喜屋武地区, 読谷村高志保区, 東村平良区に於ける糸状虫症調査報告書
琉衛研年報 1953(1), 17—22
1955 a—沖縄本島, 石垣島の糸状虫症調査(会)
寄生虫誌 4(2), 149
1955 b—フィラリア症に関する研究(第12報)沖縄の糸状虫症調査
鹿児島大医誌 7(2), 290—296
1955 c—沖縄のフィラリア症調査(会)
鹿児島医誌 28(1, 2), 46

佐藤八郎・米沢藤士・尾辻義人・貴島亨
1953—ミクロフィラリアの昼間誘出(会)
日内科誌 42(7), 483

佐藤八郎・米沢藤士・尾辻義人・貴島亨・伊地知季治
1954—Supatonin に依る Filaria 症の集団治療成績と投与量(会)　鹿児島医誌 27(3, 4), 75

佐藤八郎・米沢藤士・植村芳郎・福島英雄・政真哉・要慎一朗・橋本久・小倉広丸・佐多明・上妻昭夫・高森治生・田代正盛
1955—フィラリア症に関する研究(第8報)奄美大島群島の糸状虫症調査成績
鹿児島大医誌 7(2), 246—268

佐藤八郎・米沢藤士・植村芳郎・上村光夫・要慎一朗・指宿英造
1956—奄美大島群島の糸状虫症調査成績(会)
寄生虫誌 5(2), 246

佐藤八郎・米沢藤士・柚木一雄・尾辻義人・松山国隆・貴島亨
1953 a—フィラリア症に関する研究(第5報), 諸種薬剤による流血中仔虫誘発について
鹿児島大医紀 4(2), 185—189
1953 b—各種薬剤に依るフィラリア仔虫の昼間誘発(会)
寄生虫誌 2(1), 112

佐藤孝慈・林滋生
1956—八重山群島及び沖縄久米島に於ける人糸状虫症(会)
寄生虫誌 5(2), 272

佐藤万次郎
1919—フィラリア性精系炎並びに其の中に発生せる母虫の構造について　臨床医 8,

里見三男
1914—人体寄生フィラリアに就て　医月 8(5, 7),

沢田弘夫
1934—最近10年間に於ける血乳糜尿並びに乳糜尿
皮泌誌 37(4), 525—526

妹尾粲
1943—朝鮮に於ける *Microfilaria malayi* Burg の発見
日寄記 15, 36

妹尾粲・坪井正人・呉利錫
1943—Filaria 症に於ける *Dirofilaria immitis* 抽出液を以てする皮膚反応　日外科誌 44(2),

Senoo, T. & D. R. Lincicome
1951—The presence of malayan filariasis in Korea
Trans. Roy. Soc. Trop. Med. Hyg., 45(2), 269—273
1951—Malayan filariasis incidence and distribution in southern Korea.
U. S. Arm. Force. Med. J., 2(10), 1483—1489

瀬尾原始
1901—　北越医誌126, 1—4

瀬戸山宏邦
1939—バンクロフト糸状虫症の2例
台湾医誌 38(9), 1401

志田圭三・副田正次
1955—精索フィラリア症(会)　日泌誌 46(3), 226

志賀樹太郎・高月三郎
1907—「フィラリア」虫に就て(第一)
中外医報 647,

志賀亮・徳永真
1921—興味ある乳糜尿例　皮泌誌 21, 729

重松俊・尾形隆明・田中寓二・三原温・長崎光夫
1954—奄美大島本島北部3カ村(笠利, 竜郷, 三方)に於けるフィラリア仔虫保有率
久留米医誌 17(5, 6), 226

清水圭三
1937—乳糜尿症　皮泌誌 42(3),
1941—包皮下より発生せるフィラリア母虫の1例　皮泌誌 31(5), 38
臨皮泌 7(1), 7

清水圭三・今林琢三郎
1939—乳糜尿症　皮泌誌 45(2),

下村雲雄・渡辺直昭・槇本肇・江頭栄一
1957—乳腺腫瘍を疑つたフィラリア症の1例　長崎風研 32(11), 1430—1433

城間盛吉
1956—沖縄本島南部地区フィラリア症調査　衛査 5(5), 212

首藤
1936—「フィラリア」性血尿　日泌誌 25(5),

末広泰祐
1952—フィラリア(バンクロフト)症患者血液の生化学的研究　医学研究 22(11), 1471
1953—所謂フィラリア症(バンクロフト)患者血液の生学化的研究
Med. Bull. Kagoshima Univ., (特別号), 7

菅原重彦
1954—抗フィラリア剤の合成研究　総研医薬 (28), 450

菅間文六
1955—福島県のフィラリア　治薬報 530, 22

菅沼清次郎
1916—フィラリア病の新化学療法予報　医海事報 1317,
1919 a—フィラリア病の症候学的補遺　中外医報 932, 934, 935,
1919 b—末梢血液瓦斯含有量の変化とミクロフィラリアの定期出現性との関係について　九州医誌 24,
1420—バンクロフト, ミクロフィラリアの定期出現性及び之と血液瓦斯変化との関係に就て　日内科誌 8(2),
1921 a—人体内バンクロフトフィラリアの仔虫産出に関する臨床的観察　日内科誌 9(2),
1921 b—フィラリア・バンクロフチーの定期出現性問題に関する研究補遺　東京医誌 35(5), (6), (7),

杉野耕平
1933—「フィラリアバンクロフチー」に就ての観察　軍医団誌 245,

鈴木勝久
1943—繊維素尿　皮と泌 11(2), 184

鈴木正孝
1929—大腿部に於ける皮膚象皮病変化の1例に就て　東医事誌 2619,

鈴木滋
1934—陰嚢陰茎象皮病の1例　皮泌誌 36(2), 242

立川清
1930—「ピェログラフィー」に依る乳糜尿症治験追加例　日泌誌 19(10),

高木繁
1934 a—鞘帯象皮病　九大医報 8(4),
1934 b—陰嚢象皮病の手術例　皮と泌 2(4),

高橋明
1912—象皮病とフィラリアとの原因的関係並びに其の組織学的研究　皮泌誌 12(7),

高橋五郎
1937—象皮病の一治験例　日外科誌 38, 5

高橋信吉
1936—乳糜尿症の病理及び治療法　治処 198,

高橋信吉・池田圭助
1936—乳糜尿の治療　皮と泌 4(6),

高橋信吉・吉川喜久雄
1937—乳糜血尿の一異例　皮泌誌 41(2),

高尾克巳
1911—ふいらりあ, ざんぐいにす, ほみにすに対するさるばるさん療法の実験　研瑞誌 100,

高瀬七郎・守内正知・工藤昌司
1958—ミクロフイラリア寄生馬の一所見　獣畜新報 226, 259—260

高山与四郎
1942—フィラリア病に関する二, 三の検査成績　体性 29(1), 36

高安久雄
1950—フィラリア性精系結節　日泌誌 39(1), 12

武田光雪
1939-1940—生体肺臓内とフィラリア仔虫検出　医海事報 2345, 1912,
2351, 2081,
2344, 512,

竹之内辰四郎
1923—陰嚢水腫手術の際に偶然発見せる「フィラリア」母虫結節に就て　北越医誌 38(1),
1925—新潟県下に於ける「フィラリア」病の調査　北越医誌 40(5), 709

竹下尚治・奥田瑞穂
1925—*Filaria bancrofti* の定期出現性問題に関する研究補遺　東医事誌 35(5), (6), (7),

竹内伊三・吉村夏雄
1914—フィラリア虫及び之に因する疾病　日新医学 3(5),

武内成事
1917—フィラリア症の療法殊に血清療法の効果　研瑞誌 123,
1931—弁状象皮病に関する知見補遺　グレンツ 5(12),

武内成事・原口一億
1918—ふいらりあ, ざんぐいにす, ほみにすが皮膚表在性血管に夜間発見する原因について　研瑞誌 138,

玉木康允
1630—弁状象皮病の１例　日外科誌　31(3),

田宮貞仁
1940—「ミクロフィラリア」の周期出現の原因に就て　東女医誌　10(3), 221—238

田宮貞亮
1918—フィラリアザングイニスホミニスの生物学的性質に関する知見補遺　日病理誌　8,

田村一・渡辺譲一
1929—「ピエログラフィー」に依る乳糜尿治験例　日泌誌　18(10),

田村祐治
1953—バンクロフト糸状虫仔虫の定期出現性に関する研究，其の１，定期出現性の臨床的観察　長崎医誌　28(9), 972—977
1954 a—バンクロフト糸状虫仔虫の定期出現性に関する研究，其の二，数種の薬物の末梢血内仔虫出現に及ぼす影響　長崎風研　29(12), 890—898
1654 b—バンクロフト糸状虫仔虫の定期出現性に関する研究，其の三，仔虫出現と白血球像並びにその機能　長崎風研　29(12), 899—912
1955—バンクロフト仔虫の定期出現性の観察(会)　皮性誌　65(1), 43

田村祐治・片峰大助
1953—バンクロフト仔虫末梢血内出現に就ての観察(会)　寄生虫誌　2(1), 44
1956—糸状虫症と白血球機能(会)　長崎風研　31(3), 208

田辺紀夫
1957—バンクロフト糸状虫症の免疫血清学的研究補遺其の一．*D. immitis* の抗原性について　長崎風研　32(11), 1421—1429

田辺紀夫・有里実行・片峰大助
1956—Allergy の観点から見た糸状虫症(会)　長崎風研　31(3), 208

田中英香
1921—乳糜尿に就て　皮泌誌　21, 172

田中寛・渡辺昇・加納六郎・金子清俊
1954—新島に於けるフィラリア症の発見　日医師誌　31(9), 487

田中一雄
1933—乳糜尿治療成績　日泌誌　22(4),
1937—ミクロフィラリア，バンクロフト携帯者に関する軍隊的一，二の考察　東医事誌　3040, 1885—1887

田中一雄・谷野伝
1939—東大皮膚科泌尿器科に於ける乳糜尿症の統計的観察　日泌誌　24(6), 448—489

田中重雄
1937—台湾人に於けるミクロフィラリアの検索並びに臨床的観察　台湾医誌　36(8), 1824—1851
1938—ミクロフィラリア，バンクロフトに関する二三の観察　台湾医誌　37(3), 515

田中祐吉
1912—日本に於ける動物寄生体に基因する疾病の種類について　東医事誌　1713, 873—878

谷口長雄
1904—Über *Filaria bancrofti* Cobbold　Cent. f. Bakt., 1 Abt. 25
1905—「フィラリア，バンクロフト，コッボルト」の生物学的研究及び臨床的追加　鎮西医報　90, 1

田代布治左衛門
1936—フィラリア成虫による精系淋巴管結節　長崎医誌　15(3),

田沢多吉
1950—象皮病　弘前医　1(2), 67

寺田廉
1919—乳糜血尿症について　北越医誌　34(6),

鄭徳和
1931—厦門に於けるフイラリア症に就て　台湾医誌　30(7), 1—6

所輝夫
1939—フィラリアと尿閉　治療誌　9(4),

徳田安之助
1954—精系フィラリア症の１例(会)，　日大医　13(12別冊), 16

徳田安之助・足立一郎
1955—精系フィラリア症の１例　日大医誌　14(11), 1624

登倉登
1921—九州地方に於けるフィラリア症及び波佐見熱並びに発疹熱の疫理及び病機に関する調査研究　学月　21, 80

徳富光蕾
1941—Thionol-Calcium 内服のみにて全治せると思わるゝフィラリア疑似症の例　皮と泌　9(1), 34

戸村隆敏
1925—統計より見たる琉球の象皮病に就て　皮泌誌　25(6),

虎島敏治
1939—陰嚢水腫に対する Clauden 注入法　日臨外誌　3(2),

外山宜樹
1955—アカイエ蚊体内に於けるバンクロフト糸状虫幼虫の発育と温湿度との関係(会)　寄生虫誌　4(2), 146
1956—蚊の体内に於けるバンクロフト糸状虫幼虫の発育に及ぼす変温の影響並びに発育限界温度(会)　寄生虫誌　5(2), 251

遠山昇
1940—象皮病２例　日外科誌　31(3),

坪井賢次
1941—乳糜尿治験例　皮泌誌　50(4), 371

坪坂勉・竹田亮祐
1954—福井県に於けるフィラリア症(会)
日内科誌 43(5), 342

坪坂勉・竹田亮祐・織田邦夫
1954—福井県下に於けるフィラリア症
十全医誌 56(6), 380

土本重
1947—2種の糸状虫仔虫に於て 科学 17(10), 324

鶴見三三
1941—仏印に於けるフィラリア病
治処 22(8), 1152

鶴見三三・武田光雲
1941—人体肺臓内フィラリア仔虫の昼間検出の肺穿刺による一診断法 東医事誌 3178, 631

津崎文雄
1955—フィラリア症の末梢血淋巴球 Mitochondria (会) 鹿児島医誌 28(7, 8), 179
1956a—フィラリア症の血液学的研究(3) フィラリア症並びに二，三疾患の末梢血淋巴管(1) 健康成人の末梢血液淋巴球
鹿児島大医誌 8(5, 補冊), 870
1956b—フィラリア症の血液学的研究(7) フィラリア症の末梢血淋巴球
鹿児島大医誌 8(5, 補冊), 912
1957a—フィラリア症の血液学的研究(4) フィラリア症並びに二，三疾患の末梢血淋巴球(2) 鉤虫症，胃，十二指腸潰瘍に於ける末梢血淋巴球
鹿児島大医誌 8(5, 補冊), 886
1957b—フィラリア症の血液学的研究(5) フィラリア症並びに二，三疾患の末梢血淋巴球 (3)，癌及び白血病患者に於ける末梢血淋巴球
鹿児島大医誌 8(5, 補冊), 890
1957c—フィラリア症の血液学的研究(6) フィラリア症並びに二，三疾患の末梢血淋巴球(4) 肺結核症の末梢血淋巴球(会)
鹿児島大医誌 8(5, 補冊), 898
日血液誌 19(3), 217

筒井喜三・広瀬香
1937—妊娠に伴える外陰部象皮病の1例
日婦熊本報 5,

上田三郎・大池義勝・高師敏・滝一郎
1955—フィラリアに因る精系淋巴管腫の1例(会)
日内科誌 43(11), 912

植木弟三郎
1914—九州師団に於けるフィラリア虫保有者の統計
九沖医会誌 19(12),

植村芳郎・新門肇・橋本久
1955a—フィラリア症に関する研究 (第10報) 宮崎県下のフィラリア症に就て 第1報 南那珂郡福島町都井岬の調査成績
鹿児島大医誌 7(2), 280—281
1955b—宮崎県下のフィラリア症，川都井村福島町の調査成績(会) 鹿児島医誌 28(1, 2), 46

楳本元藤
1952—フィラリア性陰囊水腫の発生病理に関する一考察(会) 日外科誌 53(9), 698
1953—フィラリア症に関する研究 学月 32,129

和田平武
1930—乳糜尿の治療法 実医 187,

若松道範
1953—鹿児島県に於ける糸状虫病の流行実態(会)
鹿児島医誌 26(11, 12), 295

若杉幹太郎
1955—コトンラット糸状虫 *Litomosoides carinii* に関する研究 第1報 実験室内に於ける累代感染について 寄生虫誌 4(4), 57—61

若杉幹太郎・林滋生・田中寛
1955—コトンラットのフィラリア *Litomosoides carinii* の実験的感染に関する基礎的研究(会)
寄生虫誌 4(2), 146

渡部智倶人
1951—フィラリア母虫に因る副睾丸腫瘤の1例
共済医報 1(1), 90
1952—フィラリア母虫に因る副睾丸腫瘤の1例
皮と泌 14(6), 414

渡辺清
1929—「フィラリア」精系淋巴管炎鼠蹊淋巴腺腫の臨床的病理組織学的観察殊に「フィラリア」症に於ける淋巴反応及び第二次小結節の発生に就て 皮と泌 29(1),

渡辺達
1906—住血糸状虫に就て 岡山医誌 191,

和辻春次・山根大学
1894—隠岐島に於ける象皮病，陰囊水腫及び乳糜尿症に就て 東京医誌 8(15), 673
東医事誌 853, 1449—1452
854, 1489—1493
855, 1535—1537

山田蕃・山本達
1916—Firariaren (Bancroft, S.) が皮膚表在性血管に夜間現出する原因に就ての補遺
東京医誌 30(8),

Yamada, S.
1927—An experimental studies on twenty-four species of Japahese mosquitoes regarding their suitability as intermediate hosts for *Filaria bancrofti* Cobbold.
Sci. Rep. Gov. Inst. Inf. Dis., 6, 559—622

Yamada, S. & Komori K.
1926—From what point of the proboscis of the mosquito do developed larvae of *Filaria bancrofti* escape ?
Sci. Rep. Gov. Inst. Inf. Dis., 5, 647—651

山田進輔
1939—硝子体中のフィラリア屍
眼臨医報　34(11), 1158

山口保年
1933—「フィラリア」性乳糜尿症のレ線深部治療法
愛知医誌　40(7),

Yamaguti S.
1935 a—Studies on the helminth fauna of Japan. Part 12 *Diplotriaena bargusinica* Skrjabin, 1917　Jap. J. Zool., 6(2), 412—413
1935 b—Studies on the helminth fauna of Japan. Part 12. 11. *Diplotriaena manipoli* Chu, 1931.　Jap. J. Zool., 6(2), 413
1935 c—Studies on the helminth fauna of Japan. Part 12. 12. *Diplotriaena monticolae* n. sp.　Jap. J. Zool., 6(2), 413—414
1935 d—Studies on the helminth fauna of Japan. Part 12. 13. *Eufilara lari* n. sp.　Jap. J. Zool., 6(2), 415—516
1935 e—Studies on the helminth fauna of Japan. Part 12. 14. *Spirofilaria podicipitis* n. g. n. sp.　Jap. J. Zool., 6(2), 416—418
1941 a—Studies on the helminth fauna of Japan Part 35. 18. *Dirofilaria ursi* n. sp.　Jap. J. Zool., 9(3), 433—434
1941 b—Studies on the helminth fauna of Japan. Part 35. 19. *Pseudolitomosa musasabi* n. g., n. sp.　Jap. J. Zool., 9(3), 434—436
1941 c—Studies on the helminth fauna of Japan. Part 34. *Icosiella kobayasi* n. sp.　Jap. J. Zool., 9(3), 406—407
1941 d—Studies on the helminth fauna of Japan. Part 35. 20. *Cardionema ten* n. g., n. sp.　Jap. J. Zool. 9(3), 436—438
1941 e—Studies on the helminth fauna of Japan. Part 36. 33. *Hamatospiculum accipitris* n. sp.　Jap. J. Zool., 9(3), 474—475
1941 f—Studies on the helminth fauna of Japan. Part 36. 34. *Hamatospiculum* sp.　Jap. J. Zool., 9(3), 475—477
1941 g—Studies on the helminth fauna of Japan. Part 36. 35. *Serratospiculum tendo* (Nitzsch. 1857)　Jap. J. Zool., 9(3), 477
1941 h—Studies on the helminth fauna of Japan. Part 36. 36. *Diplotriaena nipponesis* n. sp.　Jap. J. Zool., 9(3), 477—478

山口富雄・金子保夫
1955—徳島県の糸状虫症(会)　四国医誌　6(4), 228

山村孝
1955—難治であつた乳糜尿症の1例(会)
日泌誌　46(9), 665

山之内秀三
1933—乳糜血尿症に於ける所謂腎盂静脈逆流の影像並びに其の影像より見たる薬液注入に依る本症の治療法　皮泌誌　33(1),

山之内棟
1930—「バンクロフトフィラリア」虫を宿せる人の腎臓に就て　医事公論　937,
日寄記　2, 1

山代義雄・増田陸郎
1955 a—兵庫県美方郡照来村に於けるフィラリアの流行調査(2)(会)　寄生虫誌　4(2), 162
1955 b—兵庫県美方郡温泉町照来地区に於けるフィラリア症の流行調査　日公衛誌　2(11), 943

山下博
1953 a—フィラリア幼虫の赤家蚊体内発育の実験的研究(会)　衛動　4(1, 2), 12
1953 b—赤家蚊体内に於けるフィラリア幼虫の発育に関する実験的研究
鹿児島医誌　26(11, 12), 295

山崎豊彦
1953—フィラリア症に於ける丹毒様熱発作に関する実験的研究(1) フィラリア症と拡散因子
長崎医誌　28(9), 978
1954—フィラリア症と拡散因子
長崎医誌　29(1), 90
1956—フィラリア症に於ける丹毒様熱発作に関する実験的研究　長崎医誌　31(11), 948

矢内原啓太郎
1935—女子外陰部象皮病3例　産と婦　3(1),

横川定
1938 a—バンクロフト糸状虫感染経路に関する研究
東医事誌　3104, 265
1938 b—*Wuchereria bancrofti* 糸状虫感染経路に関する研究
Jap. J. Med. Sci. Path., 3(32), 167
1939 a—糸状虫の生物学的特にバンクロフト糸状虫の感染経路, 免疫及びミクロフィラリアの定期出現性について　東医事誌　3133—3138
日寄記　11, 12
1939 b—平田膈純氏に答う　東医事誌　3188,
1939 c—Studies on the mode of transmission of *Wuchereria bancrofti*　Trans. Roy. Soc. Trop. Med. Hyg., 33, 653—668

横川定・小林英一・吉野高善
1939—象皮病患者血清のミクロフィラリア, バンクロフチーに対する Pandit 反応
Acta. Jap. Med. Trop., 1(2), 185

横川定・小林英一・湯本義秀・小坂清石・盧万徳・横川宗雄
1939—膨湖島に於けるバンクロフト糸状虫の疫学的調査　台湾医誌　38(10), 1452—1466

米山雅雄
1953—フィラリア症に対する化学療法剤の応用(会)

鹿児島医誌 26(11, 12), 296

米沢藤士
1955—糸状虫症の Supatonin 治療に関する研究
医学研究 25(2), 335

米沢藤士・福島英雄・田畑晋作
1954—甑島，獅子島の糸状虫症の調査成績(会)
鹿児島医誌 27(3, 4), 73

米沢藤士・尾辻養人・松山国隆
1953—フィラリア症(糸状虫症)治療に於ける Supatonin 投与量(会)
鹿児島医誌 26(11, 12), 296

米沢藤士・柚木一雄・尾辻養人・松山国隆・貴島亨
1953—ミクロフィラリアの昼間血誘出に関する研究(会) 鹿児島医誌 26(11, 12), 295

吉村欽次
1941—フィラリア性陰嚢水腫？の1例
九沖医会誌 42, 176

吉村真雄
1912 a—山梨県下に於けるフィラリア虫の蔓延に就きて 医学中央誌 10(2), 1—11
日内科誌 1(4), 230—231
1912 b—バンクロフト糸状虫の伝搬経路に就て
京都医誌 9(1), 115
1914—フィラリア虫の生物学 日新医学 3(5),

吉永福太郎
1912 a—象皮病の原因に就て
医学中央誌 9(21), 2009—2015
1912 b—熊本及び兵庫の二県下に於けるフィラリア虫及び象皮病の研究(会) 京都医誌 9, 35
1912 c—熊本県天草島に於けるフィラリア及び象皮病の研究 中外医報 774, 793—799
1912 d—三度び象皮病の原因について
京都医誌 9(1), 116—117
1913 a—鹿児島県下大島，種子島及び長島に於けるフィラリア虫帯者について
日内科誌 1(4),
1913 b—象皮病原因及び其の予防に就て
研瑤誌 109,
1914—象皮病に就て 研瑤誌 111,

吉永福太郎・帖佐彦四郎
1911 a—八丈島に於ける象皮病の原因について
京都医誌 8(1), 114—116
1911 b—象皮病予防接種法第2回報告
京都医誌 8(附), 34—36

吉野高善
1956—南部琉球八重山群島産蚊族のバンクロフト糸状虫自然感染に関する研究
鹿児島医誌 29(3, 4), 51～70

吉野高善・仲里朝真
1940—沖縄県八重垣島に於けるバンクロフト糸状虫の分布並びに浸淫 台湾医誌 40(4), 749—761

前大底歓
1933—血乳糜及び乳糜尿の治験例並びに「フィラリアバンクロフト」仔虫の薬物及び温熱に対する抵抗力に就いての小実験 台湾医誌 32(3),

II. 家畜の糸状虫

A. *Dirofilaria immitis*

犬糸状虫又心臓糸状虫（剛強糸状虫）

安達五郎
1934—犬の腹水ロイマミコール療法
応獣誌 7, 512—516

安達幸治郎
1950 a—犬糸状虫症に於ける心不全の臨床(上)
獣畜新報 32, 11—12
1950 b—犬糸状虫症に於ける心不全の臨床(下)
獣畜新報 33, 15—16
1956 a—フィラリアによる腹水治療の戦後の動向
獣医界 36, 15
1956 b—フィラリアによる腹水治療の戦後の動向
獣医界 37, 13

秋山静一・西川清勝
1944—Dirofilariae 病犬精液内仔虫の検索
日病理誌 33, 34

河久沢実・小山二三人・小栗幸夫
1958—犬フィラリア症の皮内反応について
日獣会誌 11(1), 32—35

青木竜身・劒崎直祐
1935—Microfilraria に対する Dabiol の使用成績
大阪衛研報 1, 155

Balch, R. K., James Fonseca, William, G. Rice, & Benjamin, F. Leach
1957—Canine filariasis in the Far East.
J. Amer. Vet. Med Ass., 131(6), 298—301

千葉胤孝
1950—ヂンゴ犬 (*Canis dingo* L.) の *Filaria immitis* 寄生例について 獣畜新報 50, 6—7

後藤寿作・星川登
1954—病理学的所見からみた犬フィラリア症の治療に関する研究 日獣会誌 7(9), 419—422

原晴
1932—犬糸状虫症とナトリウム吐酒石
応獣誌 5(9)
1934—犬フィラリア症のパンセカール療法
応獣誌 7(13), 830—835
1938—犬のフィラリア病に対するラカルノールの効果
応獣誌 11(5),
1939—犬糸状虫症に応用したるファヂンの臨床的効果
応獣誌 12(3), 214—219

原茂真
1938—犬に於ける *Dirofilaria immitis* の実験的移植(独文)

大阪日赤　2(3), 291—292

長谷川恒夫

1942—血液 Filaria の手術的療法
日外科誌　43(7), 896

本田郁也

1921—フィラリア・イムミチスによる犬腎臓の病理学的変化に就きて　京都医誌　18(4),

本間新一

1939—活動性「ミクロフィラリア」の犬体移行経路並びに「フィラリア」への発育過程に関する研究
陸獣団誌　354, 26—79

1941 a—犬糸状虫に関する研究(1)　犬糸状虫に関する生物学的研究　応獣誌　14(9), 567—593

1941 b—犬糸状虫に関する研究(2)—犬糸状虫病予防に関する研究　応獣誌　14(12), 783—801

1941 c—犬糸状虫に関する研究(3)—犬糸状虫の寄生と臨床に関する研究
応獣誌　14(12), 803—808

細川修治・内野文彌・神德甫

1955—肺血管系の形態学的研究(2)　犬糸状虫症に於ける肺血管系の形態学的変化
日病理誌　44(1), 180

細谷英夫

1956—糸状虫病の発症機転に関する研究
総研医薬　(31), 51—52

細谷英夫・玉井吉郎・高根沢幸雄・立山高則

1957—*Dirofilaria immitis* m. f. の定期出現性について(会)　日獣誌　19(附),

一の瀬幸三

1934—犬フィラリア病に対するトリパフラビンの応用　バ獣薬

飯田隆一

1924—フィラリア病犬の脳髄所見　日病理誌　14,

池田昌憲

1954—心臓糸状虫症の治療と肝障碍
獣畜新報　137, 17—18

今田忠信・青山弘・山崎博・伊藤一二三

1955—犬のミクロフィラリアの検出成績について
日獣会誌　8(3臨), 13

井上太郎

1935—*Dirofilaria immitis* 仔虫の定期出現性
慶応　15(10), 1423

1936 a—*Dirofilaria immitis* 仔虫の *Aedes togoi* の体内に於ける発育の研究
慶応　16(5), 753—773

1936 b—*Dirofilaria immitis* の寄生状態及び未成熟虫の季節的出現に就て
慶応　16(11), 1737—1754

1936 c—*Dirofilaria immitis* 仔虫の *Aedes togoi* の体内に於ける発育に就て
日寄記　8, 17—18

1937 a—*Dirofilaria immtis* 成虫の形態学的知見補遺
慶応　17(5), 903

1937 b—*Dirofilaria immits* 仔虫の数種の東京産蚊に於ける発育　慶応　17(6), 1097

1937 c—「ディロフィラリア・イムミティス」に関する二，，三の研究について
現代獣　32(7), 3—9
現代獣　32(8), 3—12

1937 d—*Dirofilaria immitis* の胚発育に就て
慶応　17,

1937 e—蚊体内にて発育完了せる *Dirofilaria immitis* 仔虫の外界に於ける抵抗性に関する研究
慶応　17,

1938—*Dirofilaria immitis* 経膚感染実験
慶応　18(1), 71—87

1939 a—ディロフィラリア経皮感染実験
現代獣　34(1), 18—23
現代獣　34(2), 13—19

1939 b—ディロフィラリア・インミティス経皮感染(三)　現代獣　34(3), 22—28

石原馨

1953—犬の心臓糸状虫のヘモグラムに就て
獣畜新報　120, 21—22

石川一

1932—犬のフィラリア症の予防　応獣誌　5,

一色於莵四郎

1932—蒙疆北支地方産家畜の内部寄生虫に関する研究(予報 1)　朝博　18, 20—38

板垣四郎

1928—心臓糸状虫症(フィラリア症)の実験的治療法
応獣誌　1 (1), 56
応獣誌　1 (2), 102

1939 a—糸状虫症のアンチモン療法
獣医界　3(1), 4

1939 b—犬のフィラリア症の近業
応獣誌　12(11), 785—789

板垣四郎・久米清治

1938—犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の研究
中獣誌　51(12), 1059—1263

1939 a—犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の研究(B)犬糸状虫の駆除及び予防　現代獣　34(5), 21—26

1939 b—犬糸状虫ディロフィラリア・イムミティスの研究 B. 犬糸状虫の駆除及び予防(二)
現代獣　34(6), 22—28

1943—犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の発育史に就て
日寄記　15, 45—46

板垣四郎・牧野六朗

1927—ナトリウム吐酒石静脈内注射による犬糸状虫仔虫 *Microfilaria immitis* 駆虫実験
日獣医誌　6(1), 1—23

板垣四郎・谷口守男

1948—熊の腹腔より検出された線虫について

日獣誌 10(3, 4), 129

泉大

1955—Dirofilaria 病犬の副腎並びに甲状腺に於ける病理組織学的研究 慶応 32(4), 169

片峰大助・江尻栄一

1957—*D. immitis* 成虫の移植実験(会) 日寄記南 10, 18—19

片峰大助・藤巻博教・釘田芳文・瀬井義澄

1955—長崎布に於ける犬の糸状虫 長崎医誌 30(11), 1459

川上漸

1919—フィラリア・イムミチスを宿せる犬の体内に於ける其の仔虫の分布に就て 日病理誌 9, 218

川上漸・北川正淳

1922—フィラリア病犬の象皮病様所見 慶応 1(6),

川上漸・長沢透

1926—フィラリア・イムミチスを宿せる犬の体内に於ける其の仔虫の分布に就て(2 報) 日病理誌 16, 304—306

北川正淳

1916—フィラリア病犬の呈する象皮病様皮膚所見 日病理誌 6(5),

Kosuge

1942—Beiträge zur Biologie der *Mikrofilaria immitis* (mit 1 Kurve) Arch. Schiff. Trop. Hyg., 28(8), 340—351

功刀照夫

1959—神経麻痺を伴う犬のフィラリア症3例 獣畜新報 174, 24—25

久保道夫

1938—*Microfilaria immitis* の末梢血管定期出現性及び其の季節的影響に就て 日寄記 10

1940—*Microfilaria immitis* の末梢血管内定期出現の本態 日寄記 12, 3

久保道夫・牧野正・清水太郎・山田肇

1939—ミクロフィラリア・イムミチスの末梢血管内季節的出現性と蚊の唾液腺との関係 日寄記 11,

久米清治

1949—犬糸状虫の研究 日獣協誌 2(6), 172—173

1950 a—糸状虫症の治療試験—アンチモン剤以外の薬品の仔虫駆除効果 日獣協誌 3(3). 72—73 日獣誌 12(1),

1950 b—アンチモン剤に依る犬糸状虫仔虫の駆除試験 日寄記 19, 37—38

1950 c—犬糸状虫症予防の新理論 獣畜新報 38, 4—6

1950 d—犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の経皮感染方法について 東農工学術 1(1), 11—19

1950e—ミクロフィラリアの検出法 日獣協誌 3(9), 291—292

1950 f—フィラリア症予防治療の躍進 獣畜新報 51, 8—9

1950 g—糸状虫の研究 学月 4, 218

1951 a—糸状虫及び糸状虫症 最近獣 186—195

1951 b—糸状虫症の治療試験——アンチモン剤の成虫殺滅試験—— 日獣会誌 4(7), 215—218

1951 c—蚊の吸血状態と吻鞘内フィラリア仔虫の残存数との関係について 応動 16(3, 4), 135—141

1952 a—犬のフィラリア症に就て 日獣会誌 5(1), 11—13

1952 b—糸状虫病の治療及び予防 日獣会誌 5(3), 71—74

1952 c—糸状虫症の化学療法に関する基礎的研究 学月 10, 464

1953 a—On the life-cycle of *Dirofilaria immitis* (Canine heart-worm) in the dog as the final host Bull. Fac. Agric. Tokyo Univ. Agric. Tech., 1(2), 11—27

1953 b—糸状虫症予防・治療の基礎試験成績 獣畜新報 116, 743—754

1953 c—犬糸状虫の研究 総研生農 (28), 159

1954 a—糸状虫症予防, 治療の基礎試験成績(会) 日獣誌 15, 220—222

1954 b—糸状虫症化学療法の基礎的研究 医学研究 24(8), 1759—1776

1956—犬糸状虫の研究 総研医薬 (31), 52

1957—Chemotherapy of canine filaliasis Am. J. Vet. Res., 18(69), 912—923

1958—Prophylactic therapy against the developing stages of *Dirofilaria immitis* before reaching the canine heart Am. J. Vet. Res., in press

久米清治・浅見久夫

1949—糸状虫症の新治療薬 獣畜新報 29, 302—303

久米清治・板垣四郎

1942—犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の研究 (III) 犬糸状虫の予防方策 応獣誌 15(6), 385—400

1943—犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の研究 (IV) 発育史に関する研究 応獣誌 16(2), 59—80

1947—犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の研究 I. 固有宿主(犬)の体内に於ける発育環について(1) 日獣誌 9(5, 6), 119—130

1948 a—犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の感染機転に就て 日獣誌 10(3, 4), 128—129

1948 b—犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の研究 (XI) 発育環に関する研究(IV)上 綜合獣医 5(3), 61—66

1948 c—犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の研究 (XI) 発

育環に関する研究(IV)下
綜合獣医　5(7)，189—195
1949 a —犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の研究 II. 固有宿主（犬）の体内に於ける発育環について(2)　日獣誌　11(1, 2)，13—22
1949 b —犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の研究 III. 其の予防法に就て　日獣誌　11(3, 4)，53—60

久米清洪・洪光輝・板垣四郎
1943—犬糸状虫 *Dirofilaria immits* の研究(VI)発育史に関する研究（II）応獣誌　16(11)，653—690
1944 a —犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の研究（IX）発育史に関する研究(III)(上)
綜合獣医　1(8)，342—350
1944 b —犬糸状虫 *Dirofilaria immaitis* の研究(IX)発育史に関する研究(III)(下)
綜合獣医　1(9)，379—389
1945 a —犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の予防方策（予報）　綜合獣医　2(6)，73—76
1945 b —犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の研究(X)成熟仔虫保有蚊の吸血状態と吸血後に於ける残存成熟仔虫数との関係
綜合獣医　2(9)，105—111

久米清治・古桑丈一・板垣四郎
1942—犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の研究(II)蚊体内にて発育を完了せる仔虫と血中 Microfilaria の諸種溶液中に於ける抵抗力比較試験
応獣誌　15(4)，239—263

久米清治・大石勇
1949—糸状虫の研究(1) アンチモン中毒の犬血液所見並びにアンチモン解毒剤としてのチオ硫酸ソーダハイポとの共用に関する試験(2) アンチモン剤のミクロフィラリア駆除効果に及ぼすサルファー剤の影響に就て(3) 新方法に因る脳脊髄糸状虫症の人工感染試験
東農工年報　(24)，6—7
1951—糸状虫症の治療試験——アンチモン剤の仔虫駆除効果——　日獣会誌　4(3). 76—80
1952 a —アンチモン剤，特にダピオールの犬糸状虫仔虫の駆除効果に就て　獣医界　28, 17—21
1952 b —犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* に対するスパトニンの作用
東獣畜報(フィラリア特集号)，36—42
1952 c —糸状虫症の治療試験——砒素剤（デクロールフェナルシン塩酸塩）の成虫殺滅効果について　日獣会誌　5(11)，358—361
1952 d —犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の化学療法
日寄記　21, 19
1953—フィラリア症化学療法に於けるアンチモン剤とサルファー剤との併用について(会)
寄生虫誌　2(1)，41
1954—フィラリア症の化学療法に於けるアンチモン剤とサルファー剤の併用(会)
日獣誌　16, 96—97
1956—カパルソラート・ソディュームによる犬糸状虫症の治療試験(会)　日寄記東　16, 37
1957—Observation on the chemotherapy of canine heartworm infection with arsenicals
J. Am. Vet. Med. Ass., 131(10)，476—480

久米清治・大石勇・久保道夫
1951—犬糸状虫の移行阻止に関する研究(会)
日獣誌　13(5, 6)，267

久米清治・大石勇・中沢浩三
1954 a —化学療法に耐過したるミクロフィラリアの蚊体内発育について　小林祝記　54—60
1954 b —各種ピペラジン誘導体の犬糸状虫仔虫 *Microfilaria immitis* に対する効力比較試験(会)
寄生虫誌　3(1)，60

久米清治・山口孝行・板垣四郎
1943—犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の研究（V）仔虫 *Microfilaria immits* の胎内感染に就て
応獣誌　16(8)，485—493

黒川和雄
1957—犬の心臓糸状虫症の外科手術的療法 8．外科手術的療法の概括ならびに結論
日獣大紀　6, 37—42

黒川和雄・原賀英幸・森脇弘・吉崎重悦・関本祥晃
1954 a —犬の心臓糸状虫症に対する外科手術的療法——特にその基礎試験成績について——
日獣会誌　7(1)，16—20
1954 b —犬の心臓糸状虫症の外科手術的療法に関する研究(1) 心臓手術による糸状虫の除去並びに手術実施成績(会)　日獣誌　15, 164—165

黒川和雄・磯田政恵・後藤慶隆
1957—犬の心臓糸状虫症の外科手術的療法 7.「肺・心二段虫体除去法」による手術犬の病理解剖ならびに病理組織学的検査　日獣大紀　6, 22—36

黒川和雄・磯田政恵・後藤慶隆・大平佐門
1956—犬の心臓糸状虫症に対する外科手術的療法 VI.「肺・心 2 段虫体除去法」による手術犬の病理解剖並びに組織学的所見(会)　日獣誌　18, 4

黒川和雄・森脇弘・大平佐門・後藤慶隆
1956—犬の心臓糸状虫症の外科手術的療法 4.「肺動脈式虫体除去法」の臨床的応用試験成績
日獣大紀　5, 23—36

黒川和雄・大平佐門・後藤慶隆
1957—犬の心臓糸状虫症の外科手術的療法 5.「右心室切開による虫体除去法」に関する基礎実験
日獣大紀　6. 6—17

黒川和雄・大平佐門・後藤慶隆・山下光介
1957—犬の心臓糸状虫症の外科手術的療法 6.「肺・二段虫体心除去法」について
日獣大紀　6, 18—25

黒川和雄・大平佐門・後藤慶隆・山下光介・吉崎重悦
1955—犬の心臓糸状虫症に対する外科手術的療法 V.

右心室切開による直視下虫体除去法について
(会)　日獣誌　17, 97

黒川和雄・大平佐門・原賀英幸・吉崎重悦・関本畔晃
1954 a—犬の心臓糸状虫症に対する外科手術的療法—肺動脈式虫体除去法とその治療効果について　日獣会誌　7(8), 359—367
1954 b—犬の心臓糸状虫症に対する外科手術的療法—1. 肺動脈式虫体除去法について　日獣大紀　3, 67—72
1954 c—犬の心臓糸状虫症の外科手術的療法に関する研究 II. 肺動脈式虫体除去法の治療経験(会)　日獣誌, 16, 168
1954 d—犬の心臓糸状虫症の外科手術的療法に関する研究 III. 糸状虫除去後に於ける血液学的観察並びにミクロフィラリアの消長に就て(会)　日獣誌　16, 169
1955 a—犬の心臓糸状虫症の外科手術的療法 2. 右心室虫体除去法について　日獣大紀　4, 38
1955 b—犬の心臓糸状虫症の外科手術的療法 3. 開胸時に於ける人工呼吸法について　日獣大紀　4, 41

黒川和雄・土屋好文・一木彦三
1957—犬のフィラリア症のレントゲン診断法に関する研究 I. 造影剤による心肺の血流の撮影(会)　日獣誌　19,

前島夏秀
1942 a—Filaria 犬の血液沈降速度　長崎医誌　20(3), 353
1942 b—*Dirofilaria immitis* 仔虫の定期出現　長崎医誌　20(3), 359
1942 c—Filaria 犬の血液凝固速度　長崎医誌　20(3), 368
1942 d—Filaria 犬の血液所見　長崎医誌　20(3), 377
1942 e—犬体内に於ける *Dirofilaria immitis* 仔虫の分布　長崎医誌　20(12), 2138

三村六郎
1935—犬の糸状虫病の研究(其の一) Filaria 病犬の器官特に脳髄の病理組織学的研究　慶応　15(3), 337—363

峰英重
1953—アンチモン剤特にエスボン「三和」による脳脊髄糸状虫症並びに犬心臓糸状虫症の臨床試験成績　獣畜新報　109, 361—366

宮井佳夫・堀正洋
1952—犬心臓糸状虫症の治療試験　日獣会誌　5(10), 337—338

宮本佐市・内田長平
1935—台湾に於ける犬糸状虫 *Filaria immitis* Leidy 1856 に就て　台湾医誌　34(4), 448—451
現代獣　32(12), 4—9

森建樹・森建吉
1951—フィラルゼンの使用成績　獣畜新報　68, 21—22
1952—犬のフィラリア症治療について　獣畜新報　95, 829

森下哲夫・加藤一夫
1927—犬糸状虫の分泌, 排泄系の発生学的研究(会)　日寄記南　19,

村田一
1938—*Microfilaria immitis* の定期出現性に及ぼす紫外線の影響に就て　日寄記　10,
1939 a—犬糸状虫仔虫の末梢血管内定期出現性に関する実験的研究　福岡医大誌　32(4), 690
1939 b—犬糸状虫仔虫の末梢血管内定期出現性に関する実験的研究(2)　医学研究　13(4),
1940 a—*Microfilaria immitis* の生物学的性状に関する二, 三の実験　福岡衛生誌　7, 25
1940 b—*Microfilaria immitis* の生物学的性状に関する二, 三の実験(2) 仔虫の体内分布　福岡衛生誌　7, 25
1940 c—犬糸状虫の免疫に関する研究　福岡衛生誌　7, 49

武藤養治
1952—犬の腰麻痺　獣畜新報　82, 17—18

長倉義夫
1935—フィラリア症に起因する腹水について　応獣誌　8(4), 245—251
1956—Fuadin による犬血中フィラリア仔虫の駆除　獣畜新報　191, 13—14

長沢透
1928—糸状虫病例(人及び犬)の心臓の病理組織学的研究　慶応　8(11),

永田正弘・西村專治郎・清水亮佑・山田一彦
1957—犬心臓糸状虫抗元による皮内反応陽性犬の成虫摘出手術について(会)　日獣誌　19,

永田正弘・山田一彦
1958—犬糸状虫症の診断に関する研究(1) 虫体抽出抗元による皮内反応に関する研究　大阪獣師報　4, 55—64

永田作弘
1954—捕獲野犬の心 Filaria の寄生率　長崎公衛誌　3(1), 16

中林敏夫・田島功
1955—*Dirofilaria immitis* のミクロフィラリアに対するスパトニンの作用について(会)　日寄記西　11, 90—92

中島三夫・谷口守男・佐々木原進
1956—寄生虫の病害に関する研究 III *Dirofilaria immitis* の病害と *Setaria digitata* 病害との関係について(会)　日獣誌　18, 67

西川清勝

1941—Dirofilaria 病犬の睾丸及び副睾丸の病理組織学的研究(1)(会) 日病理誌 31, 605

1942 a—Dirofilaria 病犬の雄性生殖器に於ける病理解剖学的並びに組織学的研究(1) 睾丸及び副睾丸に関する病理解剖学的並びに組織学的研究 大阪日赤 6(2), 121

1942 b—Dirofilaria 病犬の雄性生殖器に於ける病理組織学的研究(2) 輸精管及び精嚢に関する病理解剖学的並びに組織学的研究 大阪日赤 6(3), 287

1942 c—Dirofilaria 病犬の雄性生殖器に於ける病理組織学的研究(3) 摂護腺に関する病理解剖学的並びに組織学的研究 大阪日赤 6(4), 393

1943—Dirofilaria 病犬の雄性生殖器に於ける病理組織学的研究(4) 精液内仔虫の検索 大阪日赤 7(1), 1

野田亮二・野田周作

1951—犬糸状虫の殺滅試験 日獣会誌 4(12), 416—417

1952—犬糸状虫の駆除試験 第1報 砒素剤の成虫駆除効果について 獣畜新報 100, 1088—1092
ペテマガ 13, 51—52
ペテマガ 14, 55—56

野田亮二・岡武哲

1952—犬糸状虫の駆除試験 II. 供試犬の糸状虫の運命及び肺の変化について(会) 日獣誌 14(6), 350—351

翁嘉器

1941—*Microfilaria immitis* の蚊体内に於ける発育に関する研究(会) 台湾医誌 40(11), 2195

1942—フィラリア仔虫 Microfilaria の体制に関する知見補遺 第1編 *Dirofilaria immiiis* の仔虫 *Microfilaria immitis* の微細構造に就いて 台湾医誌 41(9), 1118—1126

1943—*Dirofilaria immitis* の仔虫 *Microfilaria immitis* のネッタイイヘカ *Culex quinquefasciatus* (*Culex fatigans*) の体内に於ける発育に関する研究 台湾医誌 42(2 附), 1—50

大越伸・谷口守男

1948—糸状虫症に対するアンチモン療法 1, 2 治験例に就て 日獣誌 10(3・4), 128

小国秀男・細谷英夫・呉守一・玉井吉郎・熊谷祐二・山田政治

1957—犬糸状虫と Sb^{124} について(会) 日獣誌 19.

小倉鉀太郎・青柳濵三

1900—「フィラリア・イムミチス」に起因する肺出血症実験 中獣会誌 13(10), 29—36

大橋元徳

1938—ちろふぃらりあ病犬の眼部の病理組織学的研究 大阪日赤 2(3), 1—86

大石勇・小林茂雄・久米清治

1958—犬糸状虫の寄生状態について 日獣会誌 11(1), 10—12

大石勇・久米清治

1954—糸状虫症の治療試験, 犬糸状虫仔虫に対する Supatonin の作用 日獣会誌 7(7), 318—322

1956 a—糸状虫症の治療試験——犬におけるヂクロールフェナルシン塩酸塩の注射反応——2. 血液, 尿, 肝臓機能検査所見について 日獣会誌 9(9), 422—426

1956 b—犬フィラリア仔虫に対するアンチモン剤およびサルファ剤併用時の検討について 日獣会誌 9(11), 518—521

1957 a—糸状虫仔虫の定期出現性と体内仔虫分布との関係について(会) 東日寄記 17, 15

1957 b—糸状虫仔虫の定期出現性と成虫との関係について(会) 寄生虫誌 6(3, 4), 264—265
日獣誌 19,

1957 c—犬糸状虫症の診断法に関する研究 I. Supatonin による仔虫誘出法について 日獣会誌 11(2), 69—72

大石勇・中沢浩三・久米清治

1954—再び Dichlorphenarsin hydyochloride による犬糸状虫の殺虫作用について 日獣会誌 7(3), 116—118

1955—糸状虫症の治療試験——犬糸状虫仔虫に対する Piperazin 系誘導体の作用に就て 獣畜新報 160, 609—614

1956—糸状虫症の治療試験——犬に於けるヂクロールフェナルシン塩酸塩の注射反応——1. 臨床所見について 日獣会誌 9(6), 267—271

岡部浩洋・松瀬幹也・下村実・田中隆文

1957—佐賀県の野犬に於ける日本住血吸虫, 肝吸虫, 顎口虫, 犬糸状虫の自然感染度について(会) 日寄記南 10, 22

斎藤悦朗

1930—糸状虫病犬の歯牙及其の支持組織に於ける病理組織学的変化の研究 医事新聞 1265,

松本勇

1936—眼房水中に於けるミクロフィラリアに就て 応獣誌 9(5), 302—304

1939—犬糸状虫症の予防並びに駆虫剤として応用せる新薬ダピオールに就て 応獣誌 12(5), 341—348

佐藤孝慈

1957—家畜の各種糸状虫ミクロフィラリアの比較研究(会) 日寄記東 17, 27
日獣誌 19,

妹尾紘・坪井正人・呉利錫

1943—Filaria 症に於ける *Dirofilaria immitis* 抽出液を抗元とする皮膚反応 日外科誌 44(2), 147

瀬崎貴三・佐藤久之
1951――ファヂンによる犬糸状虫症の治療 日獣会誌 4(4), 110—111

柴内大典・橋本魁・堀見利正
1953—犬の肝臓静脈に寄生せる犬糸状虫の1例報告について 日獣会誌 6(9), 320
1954—犬の肝静脈に寄生せる犬糸状虫の1例について 日獣会誌 7(8臨), 13

清水重矢
1943—犬 Filaria (*Dirofilaria immitis* Leidy, 1856) の一新治療法 日寄記 15, 43—45

真迎寺生
1940—犬のフィラリア漫評 現代獣 35(1), 23—46

菅原真一郎
1952—フィラルゼンの応用例 獣畜新報 89, 17—18

菅沼保治・石原勝也
1955—犬心臓糸状虫症における肝機能に関する研究(会) 日獣誌 17, 97
1956—犬の心臓糸状虫症における肝機能に関する研究 日獣会誌 9(5), 215—218

鈴木光之進
1953—ヂクロールフェナルシン(製品名フィラルゼン)応用成績に就て 獣畜新報 115, 17—19

田熊清一郎
1929—犬の心臓糸状虫症に就て 応獣誌 2(11),

高見敬夫
1936—犬の腹水の1例 応獣誌 9(5), 308—309

高岡秀次
1957—犬のフィラリア症治療法の一考察 大阪獣師報 3, 17

竹内方義
1931—心臓糸状虫の眼寄生の1例 応獣誌 4(1),
1953—犬糸状虫の眼寄生の臨床例 獣畜新報 109, 20—21

田辺紀夫
1957—犬糸状虫抗原による補体結合反応(会) 日寄記南 10, 19

田中操・清水重矢・東十一郎
1942—犬の心臓糸状虫の駆除に就て(予報) 陸獣団報 401, 1370—1371

谷口守男・板垣四郎
1944—犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の研究 (VIII) 糸状虫仔虫の形態学的研究 綜合獣医 1(5), 207—219

谷口守男・数野勇造
1954—アンチモン剤に関する実験――犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の治療試験 日獣会誌 7(5), 229—230

谷口守男・久米清治・洪光輝・板垣四郎
1944—犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の研究 (VII) 壁虱, 虱, 蚤は犬糸状虫 *Dirofilaria immitis* の中間宿主となり得るや否やに就ての研究 応獣誌 17(2), 85—112

谷口守男・佐藤敬
1952—犬の糸状虫症及び山羊の脳脊髄糸状虫症のネオ・スチナールに依る治療試験 獣畜新報 100, 1978—1079 ぺテマガ 12, 43—44

照井俶
1926—実験的に輸入せられたる「フィラリア・イムミチス」仔虫のマウス体内に於ける分布状態に就て 日病理誌 16,

土野清
1952—心臓糸状虫症とその療法 獣畜新報 84, 21—22

和田馨
1927—「アンチモン」剤 (ネオスチブナール) による犬「フィラリア」症治療実験 実験医誌 11(7),

若杉幹太郎
1957—ミクロフィラリアの集中診断法の研究(1) ミクロフィラリアの凍結集虫法について 寄生虫誌 6(2), 111

若杉幹夫郎・林滋生・佐々学
1956—流血中のミクロフィラリアの凍結集虫法(会) 日寄記東 16, 20

Yamanouchi
1927 a —On the distribution of the larvae of *Filaria immitis* in the kidneys of the infected-dogs Trans. Jap. Path. Soc., 17
1927 b —The distribution of experimentally, introduced larvae of *Dirofilaria immitis* in the kidney Trans. Jap. Path Soc., 18,

矢野中
1929—「フィラリア・イムミチス」を宿せる犬の腎臓所見並びに該成熟母虫, 仔虫及び卵の毒力に関する実験的研究 細菌 361, 101

米倉忠夫
1951—犬病の観察(8) 心臓糸状虫症(其の 1) 獣畜新報 66, 18—19
1955 a—犬病の観察(25) 心臓糸状虫症(2) 獣畜新報 135, 12—15
1955 b—糸病の観察(26) 心臓糸状虫症(3) 獣畜新報 161, 23—25

B. *Onchocerca cervicalis*
頸部糸状虫

出口平吉
1915 a —寄生性鬐甲腫に就て

陸獣団報　68, 203—212
1915 b—寄生性鬐甲腫に就て——補遺——
陸獣団報　72, 595—602

後沢正人
1921—寄生性鬐甲腫に就て
陸獣団報　146, 660—663

板垣四郎・一の瀬幸三
1930—馬の項靱帯に寄生する頸部オンコセルカ *Onchocerca cervicalis* Raillient et Henry, 1910 に就て　中獣誌　43(11), 893—907

市岡朝祐
1930—「オンコセルカ」寄生鬐甲の病理組織学的研究
中獣誌　43(4), 293—310

市岡朝祐・金田千秋・岸田進・中島正夫・渡辺英夫
1955—牛, 馬の血管内及び皮下組織内に出現する Microfilaria に関する研究(会)
帯広畜大報　2(1), 85
日獣誌　16, 146

市岡朝祐・三浦勇治・阿部正夫
1955—馬の鬐甲腫の成因に関する考察(会)
寄生虫誌　4(2), 207

角橋三郎
1956—き甲瘻を論じて夏瘡に及ぶ
獣畜新報　181, 427—428

柏五郎
1951—鬐甲腫の研究　陸獣団報　68, 195—202

西川春雄・村上大蔵・菅野弘・藤井義雄
1954—オンコセルカに起因する馬の鬐甲腫の1例に就いて　獣畜新報　135, 415—416

佐藤孝慈
1956—牛や馬に見出されるオンコセルカ属糸状虫について(会)　日獣誌　18, 129—132
1957—家畜の各種糸状虫ミクロフィラリアの比較研究(会)　日寄記東　17, 27
日獣誌　19,

佐藤孝慈・林滋生
1954—牛の *Onchocerca gutturosa* 及び馬の *Onchocerca cervicalis* について
寄生虫誌　3(1), 58—59

瀬崎貴三
1941—鬐甲腫, 特にオンコセルカとの関係に就いて
応獣誌　14(10), 693—698

山本乙松
1925—育成馬に多発する寄生性鬐甲腫に関する研究
陸獣団報　194, 724

C. *Onchocerca gibsoni*

一色於莵四郎
1956—朝鮮に於ける牛オンコセルカ症 (*Onchocerca gibsoni* Cleland & Johnston を病原虫とする)に関する観察(会)　寄生虫誌　5(2), 248
1957—朝鮮に於ける牛オンコセルカ症に関する研究特に病原虫 *Onchocerca gibsoni* について(会)
日獣誌　19,

D. *Onchocerca gutturosa*

佐藤孝慈
1956—牛や馬に見出されるオンコセルカ属糸状虫について(会)　日獣誌　18, 129—132
1957—家畜の各種糸状虫ミクロフィラリアの比較研究(会)　日寄記東　17, 27
日獣誌　19,

佐藤孝慈・林滋生
1954—牛の *Onchocerca gutturosa* 及び馬の *Onchocerca cervicalis* について(会)
寄生虫誌　3(1), 58—59

E. *Onchocerca* spp.

小林英一
1942—海南島産黄牛に認めたるオンコケルコーマに就て　熱帯医学　1(1), 447

杉本正篤
1944—台湾及び海南島に於ける Onchocerca に帰因する畜牛の皮下腫瘍に就て
綜合獣医　1(4), 173—177

F. *Parafilaria multipapillosa*
多乳嘴糸状虫

赤尾三郎
1928—所謂天馬の皮膚所見　慶応　8(2),

市岡朝祐・加藤多右衛門
1935—血汗症の病理に就て
日獣医誌　14(2), 194—219

加藤多右衛門
1928—血汗症に就て　応獣誌　8(8), 488—491

長沢透
1928—所謂天馬の病理組織学的研究　慶応　8(4),

佐野延太
1915—出血「フヒラリア」(*Filaria haemorrhagica*) に就て　陸獣団報　67, 48—55

G. *Setaria bernardi*

河野猪三郎・森園充

1956—わが国に始めて見られた *Setaria bernardi* について　鹿児島農報　5, 54—59

新美大四郎
1956—家畜糸状虫の研究 1. Microfilaria の凝集反応について 2. *Setaria bernardi* の日本における存在について　総研医薬　(31), 51

杉本正篤
1942—台湾産の珍らしき豚の線虫について　台畜報　5(9), 1074—1080

H. *Setaria cervi*

佐藤孝慈
1957—家畜の各種糸状虫ミクロフィラリアの比較研究(会)　日寄記東　17, 27
日獣誌　19,

佐藤孝慈・林滋生
1953 a —牛に寄生する糸状虫に関する研究(第2報)特に Setaria 属の生態学的研究　獣畜新報　116, 761—763
1953 b —牛に寄生する Setaria 属の生態学的研究　臨床　6(6), 572

佐藤孝慈・林滋生・玉井吉郎・小国秀男・細谷英夫・高根沢幸雄
1957—馬より見出される Setaria 属成虫について(会)　日獣誌　19,

林滋生・佐藤孝慈
1953—牛に寄生するセタリア属糸状虫に関する研究 第2報 分類学的考察(会)　寄生虫誌　2(1), 112

林滋生・佐藤孝慈・佐々学
1953—牛に寄生するセタリア属糸状虫の研究(第1報)形態学的及び分類学的の再検討　獣畜新報　116, 758—761

I. *Setaria digitata*
指状糸状虫

秋山定勝・塩入恒雄・川野照典
1952—長野県に於ける牛のミクロフィラリア保有状況について(会)　日獣誌　14(6), 457

福島英雄・野中俊明
1957—糸状虫症の免疫学的研究(第1報)(会)　日寄記南　10, 33

石原忠雄・橋口裕治
1952—スパトニン錠による牛のミクロフィラリア駆虫試験　東獣畜報(フィラリア特集号), 13—17
日寄記　21, 17

石原忠雄・尾形藤治
1952—犢に寄生せるセタリアに関する研究 第1報 腹腔内セタリアに就いて　水曜会　1(2), 3
1953 a —犢に寄生するセタリアに関する研究　水曜会　2(5), 6—7
1953 b —犢のセタリアに就て　獣畜新報　116, 754—758

石原忠雄・上野計・尾形藤治
1952—スパトニンによる牛セタリアの駆虫試験　水曜会　1(3), 2—3
1953—スパトニンによる牛セタリア駆虫試験(会)　寄生虫誌　2(1), 63

板垣四郎・谷口守男
1954—*Setaria digitata* (Linstow, 1906) Railliet & Henry, 1909 の発育史と家畜（緬羊, 山羊, 馬）に対する病原性について　小林祝記　89—100

河村了
1914—朝鮮牛に於ける住血糸状虫に関する調査　農牛疫血報　(2次),
1916—朝鮮牛に於ける住血フィラリアに就て（第3回報告）　農牛疫血報(4次附), 1—5

北岡茂男・石原忠雄・矢島朝彦・尾形藤治
1952—指状糸状虫の蚊に於ける分布型式　水曜会　1(2), 3—4

河野猪三郎
1957—牛の Microfilaria の寄生状況とその凝集反応について(会)　南日寄記　10, 18

小山満弘・楠治実・一色於莵四郎・冨村保・岡武哲・山本博之
1954—輸入動物の寄生虫検査成績, 特に奄美大島及び沖縄本島産牛について(会)　日獣誌　15, 33—34

町田時男・古越百
1952—牛を襲ったミクロフィラリア保有蚊について(会)　日獣誌　14(6), 352

中島三夫・谷口守男・佐々木原進
1956—寄生虫の病害に関する研究 III *Dirofilaria immitis* の病害と *Setaria digitata* 病害との関係について(会)　日獣誌　18, 67

新美大四郎
1956—家畜糸状虫の研究 1. Microfilaria の凝集反応について 2. *Setaria bernardi* の日本における存在について　総研医薬　(31), 51

新美大四郎・河野猪三郎
1957—Microfilaria の凝集反応について(会)　日獣誌　19,

小国秀男・大熊俊一・藤井節三
1948—牛糸状虫に対する各種薬品の殺虫力(会)　日獣誌　10(3, 4), 127
1949—牛糸状虫の試験管内に於ける各種薬剤に対する抵抗力に就て　東獣畜報　1, 57—65

小国秀男・大野敦生
1951—ミクロフィラリアの血液内出現に関する実験的研究(会)　日獣誌　13(5, 6), 266—267

岡部浩洋
1954—牛馬セタリア症の免疫学的研究(会)
日獣誌　15, 36

岡部浩洋・松瀬幹也・小野典雄・福山静男・杉野栄
1957—佐賀県三養基郡下の牛・馬の糸状虫と沈降反応, セタリア症の研究, 第5報
久留米医誌　20(12), 35—39

樋渡眞博
1953—*Setaria digitata* の糖及び無機燐代謝
鹿児島医誌　26(11, 1), 297
1954 a —Filaria 症の生化学的研究
鹿児島医誌　27(3, 4), 74
1954 b —Setaria の Amino 酸代謝
鹿児島医誌　29(11, 12), 291

大久保不二夫
1953—Filalia に関する生化学的研究
学月　41, 321

大久保不二夫・樋渡眞博・田島大五郎・佐藤朝一
1955—Setaria に関する生化学的研究
鹿児島医誌　29(1, 2), 44

小野典雄
1957—牛馬糸状虫の感染実験(会)
寄南日記　10, 18

尾辻義人
1957—牛セタリアの拡散因子について(会)
寄生虫誌　6(3, 4), 314

尾崎利次
1951—牛の陰嚢内糸状虫と鶏の蛔虫症
獣畜新報　62, 312

佐藤準慈・林滋生・飯田鈴吉
1953—牛に寄生せるセタリア属糸状虫に関する研究 第1報(会)　寄生虫誌　2(1), 44

鈴木兵一
1951—セタリア仔虫によるものと思われる牛の結膜炎について　日獣会誌　4(6), 186—187

谷口守男
1953—Setaria 属について
獣畜新報　116, 775—778
1954—*Setaria digitata* (Linstow, 1906) の発育史と病原性について(会)　日獣誌　15, 224—226

谷口守男・岩瀬準・中島三夫
1956—寄生虫の病害に関する研究 II *Setaria digitata* の病害について(会)　日獣誌　18, 66—67

上野計・石原忠雄・市川收・尾形藤治
1954 a—*Microfilaria digitata* と *M. marshalli* の組織化学的形態 第1報 母虫より摘出した Microfilariae の比較　水曜会　3(2), 2
1954 b—*Microfilaria digitata* の組織化学的形態(会)
日獣誌　16, 99

山田勝一・水木伍郎
1913—朝鮮牛に於ける「フィラリア」症
農牛疫血報　(1次), 141—145

米沢勝士
1952—寄生線虫（特にバンクロフト仔虫, 牛セタリア母虫並びに豚蛔虫）に於けるアセトイン代謝
医生　25(3), 149—152
1953 a —Setaria（牛糸状虫）成虫の Acetoin 代謝
鹿児島大紀　5(3, 4), 21
1953 b —牛 Filaria (Setaria) の Acetoin 代謝
日伝染誌　27(5, 6), 179

J. *Setaria equina*
馬糸状虫

赤尾藤吉
1940—フィラリア虫寄生に因る陰嚢水腫馬去勢例
応獣誌　13(2), 142

旭興正
1943—馬の腹腔内 Filaria に就て
家衛試報　11(1), 61

第7師団月報抜華
1935—馬の住血ミクロフィラリア症に就て
陸獣団報　314, 1343—1350
1936—馬の住血フィラリア症について
現代獣　31(7), 42—46

石井進
1941—馬のミクロフィラリアの一検出法
応獣誌　14(4), 205—206

市岡朝祐・金田千秋・岸田進・中島正夫・渡辺英夫
1955—牛・馬の血管内及び皮下組織内に出現する Microfilaria に関する研究(会)
帯広畜大報　2(1), 85
日獣誌　16, 146

三宅勝・高木秀雄・喜多貞雄・太田義夫
1954—北海道十勝地方に於ける馬流血中ミクロフィラリアの保有状況(会)　日獣誌　15, 35—36

三宅勝・高木秀雄・太田義夫・喜多貞雄
1953—十勝地方に於ける馬流血中の Microfilaria 保有状況　帯広畜大報　1(3), 101

溝辺満敬
1954—馬の血液中 Mikrofilaria 検査成績
家畜保衛報　2, 15

仁田原耕三・田中操・佐藤七三郎・宮崎博
1943—馬の流血中に於けるミクロフィラリアの駆除に関するアンチモンコロイドの效力について
陸獣団報　404, 293—295

大林正士
1953—セタリアの膀胱壁寄生について
日獣誌　15(2), 103—108

小国秀男・旭興正
1942—馬の糸状虫　日獣誌　4(3), 289

岡部浩洋
1954—牛・馬セタリア症の免疫学的研究(会)
日獣誌　15，36

岡部浩洋・松瀬幹也・小野典雄・福山静男・杉野栄
1957—佐賀県三養基郡下の牛・馬の糸状血と沈降反応　セタリア症の研究　第5報
久留米医誌　20(1)，35—39

岡部浩洋・小野典雄
1957—馬糸状虫移植家兎に於ける免疫学的研究，セタリア症の研究 第6報　久留米医誌　20(9)，

小野典雄
1957—牛馬糸状虫の感染実験(会)
日寄記南　10，18

佐藤七三郎
1950—アンチモンコロイドの臨床応用に就て
獣畜新報　34，14

佐藤孝慈・林滋生・玉井吉郎・小国秀男・細谷英夫・高根沢幸雄
1957—馬より見出される Setaria 属成虫について(会)
日獣誌　19，

添川正夫・新元栄一・宮手多助
1943—馬の住血ミクロフィラリアに就て
陸獣団報　408，763—773

谷口守男
1953—Setaria 属について
獣畜新報　116，775—778

上田晃
1949—北海道における馬のセタリア症
日獣協誌　2(9)，265

K. *Setaria labiato-papillosa*

一色於莵四郎
1933—南鮮産犢に於ける内部寄生虫類の寄生率に関する調査　中獣誌　46(4)，311—362

佐藤孝慈・林滋生・飯田銈吉
1953—牛に寄生するセタリア属糸状虫に関する研究 第1報(会)　寄生虫誌　2(1)，44

L. *Setaria marshalli*

林滋生・佐藤孝慈・佐々学
1953—牛に寄生するセタリア属糸状虫の研究　第1報　形態学的及び分類学的の再検討
獣畜新報　116，758—761

石原忠雄・尾形藤治
1952—犢に寄生せるセタリアに関する研究 第1報 腹腔内セタリアに就て　水曜会　1(2)，3
1953 a—犢に寄生するセタリアに関する研究
水曜会　2(5)，6—7
1953 b—犢のセタリアに就て
獣畜新報　116，754—758

一色於莵四郎・冨村保・楠治実・小山満弘
1954—奄美大島並びに沖縄本島産牛の内寄生虫相について(会)　日獣誌　15，34

佐藤孝慈
1957—家畜の各種糸状虫ミクロフィラリアの比較研究(会)　日寄記東　17，25
日獣誌　19，

佐藤孝慈・林滋生
1953 a—牛に寄生する糸状虫に関する研究(第2報)特に Setaria 属の生態学的研究
獣畜新報　116，761—763
1953 b—牛に寄生する Setaria 属の生態学的研究
臨床　6(6)，572

佐藤孝慈・林滋生・飯田銈吉
1953—牛に寄生するセタリア属糸状虫に関する研究 第1報(会)　寄生虫誌　2(1)，44

佐藤孝慈・林滋生・玉井吉郎・小国秀男・細谷英夫・高根沢幸雄
1957—馬より見出される Setaria 属成虫について(会)
日獣誌　19，

谷口守男
1953—Setaria 属について
獣畜新報　116，775—778

上野計・石原忠雄・市川牧・尾形藤治
1954—*Microfilaria digitata* と *M. marshalli* の組織化学的形態 第1報 母虫より摘出した Microfilariae の比較　水曜会　3(2)，2

M. 家禽の糸状虫

秋葉和温・石井進・川島秀雄
1956—我国の鶏の血液寄生原虫病について その 2. プラスモヂウム病の血液接種による感染試験について 附. トリパノゾーマ，ミクロフィラリア
水曜会　5(10)，67

堀内貞治・石谷類造
1957—日本国内各地に於ける鶏白血病群の分布について　日獣会誌　10(11)，535—538

佐藤孝慈
1957—家畜の各種糸状虫ミクロフィラリアの比較研究(会)　日寄記東　17，27
日獣誌　19，

杉本正篤
1935—台湾産家禽の糸状虫に就て
中獣誌　48(4)，277—289

N.　脳脊髄糸状虫症
(非糸状虫説によるものを含む)

a.　緬・山羊

秋山定勝

1952—緬羊の腰麻痺症の予防治療並びに牛のミクロフィラリア殺滅試験について　東獣畜報(フィラリア特集号), 43—55

1954—緬山羊に来襲する蚊族の観察と緬山羊脳脊髄糸状虫症の発生について　日獣会誌　7(8・臨), 24

安藤鉄一

1950—緬・山羊腰麻痺治療の体験　獣畜新報　50, 20—21

青木丈一

1944—山羊腰麻痺に関する研究(1) 薬剤による予防試験 第1報, ナトリウム吐酒石に就て　応獣誌　17(3), 130—133

1945—山羊腰麻痺に関する研究(2) 早期治療試験　綜合獣医　2(2), 4—7

江本修

1918—山羊の腰麻痺に就いて (第1回報告)　中獣誌　31(2),

1922—山羊腰麻痺の本性に就て　日獣医誌　1(1),

1924—山羊腰麻痺の本性に関する研究補遺　日獣医誌　3(1),

1930—山羊の腰麻痺の剖観　応獣誌　3(4), 256—261

橋爪敬三郎

1940—山羊腰麻痺症に関する研究　畜試彙報　38, 1—53

林滋生・佐藤孝慈・佐々学

1953—緬・山羊の腰麻痺を起す糸状虫 *Setaria digitata* (von Linstow, 1906)　臨床　6(6), 572

細谷英夫・神谷芳枝・谷口守男・佐藤孝慈・石関忠一・菅原直

1952 a—スパトニンに依る緬山羊腰麻痺の予防並びに治療試験について　東獣畜報(フィラリア特集号), 18—27

1952 b—脳脊髄糸状虫症の予防並びに治療試験について(会)　日獣誌　14(6), 356—357

古野春秋

1952—緬羊腰麻痺症状に対するネオエスピーチン応用に就て　獣畜新報　89, 16

五十嵐三五郎・五十嵐幸男

1948—緬羊腰麻痺症の治験　畜獣月報　10, 9

五十嵐幸男

1949—緬(山)羊腰麻予防注射に関する2, 3の手技(動脈注射の3例所見)　獣畜新報　25, 225

今井治郎・黒川和雄・栗原信夫・勝木辰男・神宮寿夫・加藤房男

1952—アンチモン剤「動物用ゼーゲン」の緬羊脳脊髄糸状虫症に対する予防並びに治療効果に就て　獣畜新報　79, 53—55

Innes, J. R. M., & C. Shoho

1952—Nematodes, nervous disese, & neurotropic virus infection　Brit. Med. J., 2, 366

Innes, J. R. M., C. Schoho, C. P. Pillai

1952—Epizootic cerebro-spinal nematodiasis or setariasis. Focal encephalomyelomalacia in animals in the orient caused caused by immature *Setaria digitata*; a disease which may occur in animals in other parts of the world　Brit. Vet. J., 108(3), 71—88

石原忠雄

1953 a—緬・山羊脳脊髄セタリア症の予防に就いて(会)　日獣誌　15, 222—224

1953 b—緬・山羊脳脊髄セタリア症の予防に就いて　家衛試抄　81—84

1956 a—スパトニンの吸収排泄とその使用法について　水曜会　5(7), 41—42

1956 b—スパトニンの吸収排泄と体内分布について(会)　東日寄記　(16), 38

石原忠雄・市川收・尾形藤治

1953—緬山羊腰麻痺症の免疫学的研究　第1報　皮内反応に就いて(会)　寄生虫誌　2(1), 113

石原忠雄・市川收・上野計・米村寿男・尾形藤治

1954—緬・山羊脳脊髄糸状虫病の免疫学的研究(3) 皮内反応の皮膚病理組織所見　水曜会　3(5), 5—6

石原忠雄・尾形藤治・市川收

1952—緬山羊腰麻痺の免疫学的研究　第1報 *Setaria digitata* 成虫浸出液による皮内反応について　水曜会　1(1), 2

石原忠雄・尾形藤治・川田史郎・二宮正明・三木茂

1954—牛体内セタリア駆虫による緬山羊脳脊髄糸状虫の予防に関する研究 I. ピペラヂン誘導体(1-ジェチルカルバミール-4-メチルピペラジンクエン酸塩)の駆虫効果(会)　日獣誌　16, 97—98

石原忠雄・尾形藤治・上野計・二宮正明・川田史郎・三木茂

1954 a—緬山羊の脳脊髄糸状虫病予防に関する研究, 特に牛体内セタリア駆虫による予防法について 第3報 予防効果について　水曜会　3(1), 7—8

1954 b—スパトニンによる牛のセタリアの駆虫成績 第3報　緬山羊脳脊髄糸状虫病の予防効果(会)　寄生虫誌　3(1), 59—60

1954 c—牛体内セタリア駆虫によるめん山羊脳脊髄糸状虫の予防法について II. 予防効果並びに本法の価値(会)　日獣誌　16, 98—99

1955—牛体内セタリア駆虫によるめん山羊脊髄糸状虫病の予防法について　日獣会誌　8(3), 113—117

石原忠雄・尾形藤治・矢島朝彦・上野計・北岡茂男・角田清

1952—緬山羊腰麻痺の予防治療に関する研究 第2報 昭和27年度に於ける予防試験成績 其の1 試験方法並びに臨床所見 水曜会 1(3), 3—4
1953—緬山羊腰麻痺の予防治療に関する研究 第2報 昭和27年度に於ける予防試験成績 其の2 薬剤の予防効果 水曜会 2(2), 6—7

石原忠雄・上野計・林和夫・堀井源・三橋一男
1957—グルコン酸アンチモン(V価)ソーダの毒性と緬山羊脳脊髄糸状虫病の予防試験成績 水曜会 6(2), 2—3

石原忠雄・上野計・尾形藤治・橋口祐治
1953 a —スパトニンによる緬山羊腰麻痺の治療試験 水曜会 2(1), 4—5
1953 b —スパトニンによる緬・山羊脳脊髄セタリア病(所謂腰麻痺)の治療試験 獣畜新報 114, 637—640
1953 c —緬・山羊脳脊髄セタリア症(腰麻痺)予防を目的としたスパトニンに依る牛のセタリア駆虫 寄生虫誌 2(2), 30—32

石原忠雄・米村寿男・市川牧・上野計・尾形藤治
1954—緬山羊の脳脊髄糸状虫病の免疫学的研究 第2報 皮内反応の診断的価値 水曜会 3(3), 1—2
1956—Immuniological studies on cerebro spinal filariasis in the sheep and goat. Part 2. On the diagnostic value of intradermal reaction Abst. Proc. Suiyokai

石井進・渡辺昇蔵
1942—緬山羊の腰麻痺に関する研究 (2) 血液の細胞学的所見に就て 獣調報 19, 61—87

石井進・矢島朝彦・石原忠雄・須川章夫・橋口祐治
1952—謂腰麻痺の寄生虫説の再確認について(会) 日獣誌 14(6), 354—355
1953 a —The experimetal reproduction of so-called lumbar paralysis epizootic cerebrospinal nematodiasis in goats in Japan Brit. Vet. J., 109(4), 160—167
1953 b —Experimental study of the infection of so-called lumbarparalysis of goats Exp. Rep. Gov. Exp. Sta. Anim. Hyg., 26, 1—12

板垣四郎
1930 a —山羊の腰麻痺 応獣誌 3(4), 251—255
1930 b —脳脊髄糸状虫症(いわゆる腰麻痺)の話 日山羊協報 2(1),

板垣四郎, 細谷英太, 谷口守男・根本吉徳・木村功・木村元吉・韮沢勉・井上忠真・玉井吉郎・山田政治・平川則満
1957—牛の流血内ミクロフィラリア駆除によるめん羊および山羊麻痺症の予防試験 第II報 日獣会誌 10(2), 79—81

板垣四郎・細谷英夫・谷口守男・根本吉徳・高橋芳衛・青田貞美・山田政治・玉井吉郎
1955—牛の流血内ミクロフィラリア駆除によるめん羊および山羊腰麻痺症の予防試験 (I) 日獣会誌 8(8), 380—382

板垣四郎・小国秀男・大熊俊一
1948—緬羊腰麻痺症予防試験 日獣誌 10(3, 3), 127

伊東鶴馬
1921—緬羊の腰麻痺の原因及び予防法に就いて 中獣会誌 34(3),

岩村一
1951—緬羊腰麻痺の治験例 日獣会誌 4(9), 304

蒲地五四郎
1955—緬山羊腰麻痺のアンチモン剤とチオ硫酸ソーダ 畜研究 9(10), 1022

川島秀雄・石井富士雄
1942—緬羊の腰麻痺に関する研究(3) 細菌学的所見に就て 獣調報 19, 88—99

鹿屋乳山羊愛好会
1951—ネオスチナールによる山羊脳脊髄糸状虫症の治療と予防試験 獣畜新報 54, 10

木村哲二・新美大四郎
1939—朝鮮に於ける羊の腰麻痺の中心神経系の組織学的変化 日病理誌 29, 466
30, 539
31, 609

木下浩治・大角博・浦島磐夫・林和夫・宮腰粟治・朝妻実・中村美登・早川鷹一・浦山啓長・与沢松作・石原忠雄
1956—緬山羊脳脊髄糸状虫病の予防試験(会) 日獣誌 18, 67—68

小堀進
1948—化学療法より見た脳脊髄糸状虫症 畜獣月報 1, 2

小松広
1943—全羅南道に於ける緬羊腰麻痺の予防対策実施状況に就て 応獣誌 16(10), 585—618

小杉光雄
1951—緬羊のチモナールによる腰麻痺治験 獣畜新報 74, 24—25

小山和雄
1948—緬羊・山羊腰麻痺の治験 畜獣月報 9, 9

久米清治
1949 a —糸状虫による腰麻痺は予防出来るか 日獣協誌 2(7), 193—195
1949 b —糸状虫症予防治療の学理的根拠に就て 緬羊資料 (4), 10—16
1949 c —脳脊髄糸状虫症(腰麻痺或は後軀麻痺症)予防・治療の理論とその現状 獣畜新報 (23), 2—3

桑原志都夫・細谷英夫

1949—山羊腰麻痺予防の実験
東獣畜報　1，106—107

町田時男・古越百
1951—長野市に於ける山羊来襲蚊の季節的消長(会)
日獣誌　13(5・6)，269
1953—長野県における緬山羊腰麻痺の中間宿主に関する研究　日獣会誌　6(7)，253—255

松井修
1951—緬羊の腰麻痺に対するロジノンカルシウムの試用
獣畜新報　55，24—25

松崎格
1956—腰マヒの予防と治療，わが国におけるめん羊の疾病の発生状況—その 2—　緬羊　(97)，

峰英重
1948—山羊腰麻痺症予防に関する試験成績
東芝理化研
1953—アンチモン剤特にエスボン「三和」による脳脊髄糸状虫症並びに犬心臓糸状虫症の臨床試験成績　獣畜新報　109，361—366

峰英重・和田市造
1948—山羊腰麻痺予防に関する研究(1) 昭和22年に於ける実施試験　日獣誌　10(3，4)，128

宮本佐市
1951—自然発生例を基礎とした脳脊髄糸状虫症の研究
日獣会誌　4(8)，261—263

森香中
1951—腰麻痺の生化学 I. 血液の理化学的性状について(会)　日獣誌　13(5，6)，342
1952—腰麻痺の生化学 II. 脳脈髄液の理化学的性状について(会)　日獣誌　14(6)，353

村上大蔵・宮崎格
1948—緬羊・山羊腰麻痺に対する Antimoncolloid と Stinal と stiual の治療及び予防試験
畜獣月報　(10)．1

長畑寿賀雄
1944—幼駒の後軀麻痺と緬羊の腰麻痺
綜合獣医　1(6)，248—251

中村亙一
1950 a—数種アンチモン剤を以てした緬羊山羊腰麻痺の予防試験　獣畜新報　41，369—371
1950 b—アンチモン剤 Neostinal による山羊・緬羊脳脊髄糸状虫症の所謂予防及び治療試験
獣畜新報　62，297—299

中村亙一・粟原美佐雄
1952 a—山羊・緬羊の所謂腰麻痺(脳脊髄糸状虫症の発病)の予防と治療 (1) 砒素剤とアンチモン剤の予防的効果の比較
畜研究　6(8)，554—556
1952 b—山羊・緬羊の所謂腰麻痺(脳脊髄糸状虫症)の発病予防と治療(2) 砒素剤とアンチモン剤による治療の比較　畜研究　6(10)，703—705
ベテマガ　16．63
ベテマガ　17，18，67—68

中村亙一・津村正喜・加藤昭男
1951—ソルミノールによる山羊脳脊髄糸状虫症の治療試験　日獣会誌　4(5)，141—143

新美大四郎
1954—薬物による腰麻痺予防試験並びにコセ病の原因学的研究(会)　日獣誌　15，218—220

新美大四郎・板垣四郎
1938—緬羊腰麻痺調査会第1回報告　朝緬
1940—緬羊腰麻痺調査会第2回報告　朝緬
1941—緬羊腰麻痺調査会第回3報告　朝緬
1942—緬羊腰麻痺調査会第4回報告　朝緬　1—137
1943—緬羊腰麻痺調査会第5回報告　朝緬　1—87
1944—緬羊腰麻痺調査会第6回報告　朝緬　1—76

新美大四郎・越智勇一・中村稼治・赤沢篠雄・長畑寿賀雄・福所金松・宮入一雄
1942—緬羊腰麻痺に関する研究(7) 寄生虫学的研究(会)　日獣誌　4(3)，290

二宮正明・川田史郎・堀家守彦・町田時男・三木茂・石原忠雄
1955 a—牛体内セタリア駆虫による緬山羊脳脊髄糸状虫症の予防　畜研究　9(8)，837—838
1955 b—牛体内セタリア駆虫による緬山羊の脳脊髄糸状虫症の予防に関する研究(会)
日獣誌　17，47—48

二宮正明・川田史郎・松川誠夫・北島千里・三木茂・東原太郎
1957—グルコン酸アンチモン5価ソーダによる緬・山羊脳脊髄糸状虫病の予防試験
獣畜新報　203，14—16

二宮正明・町田時男・岩沢英雄・三木茂
1955 a—スパトニンによる緬山羊脳脊髄糸状虫症の予防と治療　畜研究　9(10)，1050—1052
1955 b—1-Diethyl carbamyl-4-methyl piperazine citrate(Supatonin) に緬山羊脳脊髄糸状虫の予防並びに治療試験について(会)
日獣誌　17，48

農林相畜産局衛生課
1950—緬山羊の腰麻痺の浸潤状況調査
日獣会誌　3(11)，371—372

農林省畜産試験場
1941 a—山羊腰麻痺に関する研究(1)
現代獣　36(6)，21—35
1941 b—山羊腰麻痺に関する研究(2)
現代獣　36(7)，1—11
1941 c—山羊腰麻痺に関する研究(3)
現代獣　36(8)，3—11

大越伸
1949—腰麻痺治療剤と其の中毒に就て
家畜衛生　2(1)，8—10
1951—緬山羊の腰麻痺とその予防治療
畜研究　5(11)，137—140

大越伸・谷口守男

1948—糸状虫症に対するアンチモン療法の 1, 2 治験例に就て　日獣誌　10(3, 4), 128

岡部浩洋

1952 a —山羊腰麻痺の免疫学的研究セタリア症の研究　第1報(会)
東獣畜報(フィラリア特輯号), 28—33
九州日畜　14,

1952 b —山羊腰麻痺に対するスパトニンの予防効果(セタリア症の研究　第2報)
東獣畜報(フィラリア特輯号), 34—35

1952 c —山羊腰麻痺に対するスパトニンの予防効果　セタリア症の研究　日獣会誌　5(9), 292

1952 d —山羊腰麻痺の免疫学的研究(会)
日獣誌　14(6), 354

1954—スパトニンによる緬山羊腰麻痺の予防試験(会)
日獣誌　16, 122

岡部浩洋・石橋敬男

1953—スパトニンによる緬羊腰麻痺予防試験　セタリア症の研究　第3報
久留米医誌　16(9), 1021—1022

岡部浩洋・松瀬幹也

1956—緬羊腰麻痺に対するスパトニンの予防内服と沈降反応　セタリア症の研究　第4報
久留米医誌　19(3), 555—559

大久保義夫・米村寿男

1942—緬羊の腰麻痺に関する研究(I)臨床検査並びに生化学的所見に就て　獣調報　19, 43—60

斎藤修・鎌田政範

1941—緬羊腰麻痺予防試験成績
朝獣畜誌　9(11),
応獣畜誌　15(3), 135—144

斎藤修・須沢新一・鎌田政範

1943—緬羊腰麻痺予防試験 (第2報)
応獣誌　16(4), 209—214

斎藤新作

1952—砒素剤の経口投与による緬山羊の所謂腰麻痺予防並びに治療試験　日獣会誌　5(4), 114—117

1953—砒素剤による緬羊の所謂腰麻痺予防並びに砒素の生体内移行試験について(II)
日獣会誌　6(6), 202—205

坂巻海三郎

1938—所謂「腰麻痺」の観察　応獣誌　11(2), 73—85

佐藤七三郎

1950—アンチモンコロイドの臨床的応用に就て
獣畜新報　34, 14

佐藤達

1951—溷睛虫と腰麻痺　獣畜新報　57, 19—20

瀬島昇

1948—山羊腰麻痺の治験　綜合獣医　5(3), 83

篠原寿一・羽生田夏・宮沢文治・広瀬優

1956—山羊の脳脊髄糸状虫症の予防試験について
長野畜研　3, 102—108

塩川正

1947 a —山羊の脳脊髄糸状虫症(腰麻痺)に対するアンチモン製剤の卓効に就て　畜研究　1(9), 38

1947 b —山羊腰麻痺に関する研究 (アンチモン剤による治療試験)　綜合獣医　4(4), 80—87

1948—Antimon 剤による山羊及び緬羊の脳脊髄糸状虫症(所謂腰麻痺)の治療並びに予防試験(2)
畜獣月報　11, 1

1952—緬山羊の腰麻痺 (脳脊髄糸状虫症) の予防と治療　畜研究　6(7), 465—469

1955—緬山羊腰麻痺の吊起帯
畜研究　9(9), 951—952

塩川正・大井夏平・碓氷文夏・関口信雄

1957—緬・山羊の脳脊髄糸状虫症 (いわゆる腰麻痺) の予防並びに治療試験
長野畜研　4, 102—120

塩川正・六波羅悟・浦野由衛

1955—砒素剤ソルミノールによる緬山羊脳脊髄糸状虫症の予防並びに治療試験
畜研究　9(9), 947—948

荘保忠三郎

1951 a —緬羊セタリア症の研究続記 (I)
獣畜新報　69, 5—9

1951 b —緬羊セタリア症の研究続記 (II)
獣畜新報　72, 8—9

1951 c —The pathology of setariasis in Japan and it's significance in veterinary and medical science.　Jap. J. Exp. Med., 21, 449—462

1952—緬羊セタリア症の研究続記(III)
獣畜新報　82, 8—10

1953—家畜の脳脊髄「セタリヤ」症研究の広義医学上の意義　日臨　11(9),

1954 a —Epizootische cerebrospinale Nematodiasis (Setariasis) und ihre verzweigten Probleme.　Deu. Tier. Woch., 61 (3/4), 25—32

1954 b —Prophylaxis & therapy in epizootic cerebrospinal nematodiasis of animals by 1-diethylcarbamyl-4-methyl piperazine dihydrogen citrate.
Rep. Sec. F. T. Vet. Med., 49(11),

1955—Helminthic diseases of the central nervous system & intrauterine foetal infection by helminths.
Libro-Hemenaje al Prof. Lepez-Neyra De La Revista Ibérica de Parasitología.

1956—Cerebro-spinal nematodiasis (Setariasis) in abnormal or inadequate hosts.
Cey. Vet. J., 4(3),

荘保忠三郎・J. R. M. Innes

1952 a —セタリヤ症 (脳脊髄) 病理学の再確認及び同症の世界的分布の可能性について(会)
日獣誌　14(6), 355

1952 b —脳脊髄セタリヤ症の病理学及び同症の世界的分布並びに人間に於ける可能性
日病理誌 41(別),

荘保忠三郎・韮沢哲太郎・井上忠夏・韮沢勉・久保喜三郎
1952 a —1-Diethylcarbamyl-4-methylpiperazine citrate による脳脊髄「セタリア」症の予防及び治療 東獣畜報(フィラリア特輯号), 56—61
1952 b —1-Diethylcarbamyl-4-methylpiperazine citrate による緬羊, 山羊及び幼駒の中枢神経系セタリア症の予防及び治療試験(会)
日獣誌 14(6), 356

荘保忠三郎・韮沢哲太郎・井上忠夏・韮沢勉・久保喜三郎・佐藤栄治・田中利男
1954—1-Diethylcarbamyl-4-methylpiperazine dihydrogen citrate による家畜脳脊髄セタリア症の予防及び治療試験成績 獣畜新報 147, 8—11

Shoho, C., T. Tanaka
1955—Further observations on cerebrospinal nematodiasis in animals.
Brit. Vet. J., 111(3), 102—111

高島一雄
1950—腰麻痺潜伏期に関する考察
獣畜新報 41, 18—19
1951 a —緬山羊腰麻痺に対するカリウム吐酒石液の治験について 獣畜新報 55, 51
1951 b —糸状虫による緬羊・山羊腰麻痺の治験所見
日獣会誌 4(9), 307—308
1951 c —型のちがつた山羊腰麻痺3例
獣畜新報 74, 771—772

田中稔夫
1957—山羊の脳脊髄糸状虫症に対する衝撃療法について
家診 7,

谷口駒介
1939—緬羊の腰麻痺治療に就て 満獣畜 21(1), 43

鉄本昭吾・細谷英夫・紳谷芳枝
1953—再びスパトニンによる緬・山羊腰麻痺の治療に就て 獣畜新報 116, 772—775

千葉喜一郎・斎藤新作・吉田増一・綿引誠
1951—砒素系化合物の探究と生物化学的研究
日獣会誌 4(12), 418—419

千葉喜一郎・鈴木兵一
1948—緬羊の寄生虫性腰麻痺の臨床的観察とアンチモンコロイドによる治療並びに予防試験
綜合医学 5(2), 29—35

東京帝大農学部獣医学科学生調査班
1943—緬羊腰麻痺調査報告
応獣誌 16(3), 177—191

富山県農林部畜産課
1955—めん・山羊脳脊髄糸状虫病予防試験
家畜衛統 (昭 30), 9—12

朝鮮緬羊協会
1942 a —緬羊の腰麻痺 現代獣 37(6), 325
1942 b —緬羊の腰麻痺に就て 朝獣畜誌 10 (4),

浦野由衛
1949 a —緬羊と山羊の腰麻痺に対する予防注射試験
畜研究 3(6). 276—280
1949 b —緬(山)羊の脳脊髄糸状虫症予防法
獣畜新報 17, 85
獣畜新報 19, 120

脇本正義
1952—アンチモン剤注射による山羊腰麻痺の予防と治療 日獣会誌 5(3), 85—86

渡辺昇
1957—ネオスチナールとスパトニンによる緬山羊腰麻痺の予防治療試験 畜研究 11(4), 541—542

渡辺昇蔵
1942—緬羊の腰麻痺に関する研究(4) 腰麻痺並びに対照羊に於ける寄生虫の寄生状況の所見に就て
獣調報 19, 99—111

山田喜平
1956—羊の腰麻痺の研究 I. 臨床所見(会)
日獣誌 18, 76—77
1957 a —緬・山羊腰麻痺の治験補遺
獣畜新報 201, 20—23
1957 b —羊の腰麻痺の研究 II. 病理解剖所見(会)
日獣誌 19,

山田次男
1951—山羊・緬羊腰麻痺症防遏策と前駆症状
獣畜新報 66, 453

山極三郎
1940 a —緬羊腰麻痺病に関する研究 其の1 臨床血液学的所見に就て(予報)
実験医誌 24(1), 111
1940 b —腰麻痺新説 応獣誌 13(3), 151—157
1941—緬羊腰麻痺病に於ける脳脊髄の病理解剖学的並びに組織学的所見に就て
実験医誌 25(5), 575

山極三郎・荘保忠三郎
1944—緬羊セタリア症(腰麻痺病)の病理組織学に就て 日獣誌 6(6), 422

山極三郎・荘保忠三郎・岩村兼明・二宮道成・山手裕二
1943—緬羊腰麻痺病に於ける脳・脊髄の病理解剖学的並びに組織学的研究
実験医誌 27(5), 495—496

山極三郎・荘保忠三郎・岩村兼明・山手裕二
1943 a —緬羊腰麻痺病に於ける脳脊髄の病理解剖学的並びに組織学的研究(3) 脳に於ける初竈発生機序 日獣誌 5(4), 425
1943 b —緬羊腰麻痺病に於ける脳脊髄の病理解剖学的並びに組織学的研究(4) 脊髄に於ける病竈発生機序 日獣誌 5(4), 425

山口誠夫

1955—緬・山羊腰麻痺症の治療と V.B$_1$ に就いて
獣畜新報　151, 69

山本脩太郎

1948—腰麻痺の原因と治療法
産研究　2(9), 483—484

安田純夫

1950—理屈を抜きにしたアンチモンコロイドの使い方
獣畜新報　30, 3—5

米村寿男

1952 a—フィラリア駆除のためのアンチモン剤としての「ダビオール」並びにアンチモン剤使用上の一考察　医獣界　28, 13

1952 b—所謂骨軟症は腰麻痺の原因となり得るか
日獣会誌　5(10), 329

米村寿男・飯塚三喜・余語祥子

1951—腰麻痺の治療に関する研究 III. アンチモン剤の血中濃度と脳脊髄内濃度との関係(会)
日獣誌　13(5, 6), 267

吉利用弘・小野寺強・岩田武・広辺精一

1954—緬・山羊脳脊髄糸状虫症の予防試験成績——特に糸状虫症適応薬剤 3 種の効用に就いて——
獣畜新報　136, 34—38

b. 馬

安藤鉄一

1951—馬の後軀麻痺について
獣畜新報　77, 14—15

1953—馬の寄生性後軀麻痺の研究
獣畜新報　123, 1103—1104

稲川幸智

1948—北海道に於ける寄生性脳軟化馬の 1 例
日獣誌　10(1, 2), 61—66

石井進・須川章夫

1944—昭和 18 年度東北地方に流行的発生を見たる馬の腰痿(仮称)に就て(1 報)
家衛試報　1(6), 229

板垣四郎・谷口守男・河田有三

1946 a—幼駒の後軀麻痺症(馬の脳脊髄糸状虫症)の研究(第 1 報)馬糸状虫 *Setaria equina* (Abildgarrd, 1789) の中間宿主の決定及びその体内に於ける仔虫の発育に関する研究(一)
綜合獣医　3(5), 79—81

1946 b—幼駒の後軀麻痺症(馬の脳脊髄糸状虫症)の研究(第 1 報)馬糸状虫 *Setaria equina* (Abildgarrd, 1789) の中間宿主の決定及びその体内に於ける仔虫の発育に関する研究(二)
綜合獣医　3(7), 119—129

1947 a—幼駒の後軀麻痺症(馬の脳脊髄糸状虫症)の研究(第 2 報) 馬糸状虫 *Setaria digitata* v. Linstow, 1906 の新中間宿主の決定及びその体内に於ける仔虫の発育に関する研究
綜合獣医　4(4), 73—80

1747 b—所謂幼駒の後軀麻痺症(馬の脳脊髄糸状虫症)の研究(第 3 報)人工感染に依る発病試験に就て(一)　綜合獣医　4(5), 105—113

1948—所謂幼駒の後軀麻痺症(馬の脳脊髄糸状虫症)の研究(第 3 報)人工感染に依る発病試験に就て(二)　綜合獣医　5(1), 1—11

菊池賢次郎・千葉喜一郎

1946—寄生性後軀麻痺症の観察　特に臨床所見及び治療試験　綜合獣医　3(1), 1—8

久米清治

1957—糸状虫の話 ——馬の腰痿予防のために——(パンフレット)　日本中央競馬会

栗田武男

1951—馬の腰麻痺症の治験　獣畜新報　75, 11—12

宮本佐市

1951—自然発生例を基礎とした脳脊髄糸状虫症の研究
日獣会誌　4(8), 261—263

長畑寿賀雄

1944 a—馬の後軀麻痺症治療試験に就て
綜合獣医　1(5), 226

1944 b—幼駒の後軀麻痺と緬羊の腰麻痺
綜合獣医　1(6), 248—251

1946—馬後軀麻痺症の病原体 MCROFILARIA に関する 2, 3 の実験　日獣誌　8(5, 6), 167—182

野村歩・岩科一治

1956—馬の後軀麻痺症に関する研究 1. 鹿児島県下に於ける調査について 2. 病理組織学的所見(会)
日獣誌　18, 85

小国秀男・野村歩

1944—幼駒の流行性腰痿に就て
家畜衛生　1(6), 215—228

1947—幼駒の流行性腰痿症(腰麻痺)に就て
日獣誌　10(3, 4), 93—108

小国秀男・木全春生・細谷英夫

1957—馬の腰痿について(会)　日獣誌　19,

柴内大典・高橋覚・泉沢正名・菅原俊一郎

1949—Antimoncolloid を以てする馬脳脊髄糸状虫症の予防　畜獣月報　13, 18

田中利男・鷲終三・荘保忠三郎・山極三郎

1945—馬のセタリア症に就いて (神経病理組織学的研究)　日獣誌　7(3, 4), 117—130

館沢円之助・小倉喜佐次郎

1656—馬の腰痿の研究 I. 臨床所見(会)
日獣誌　18, 75—76

橘勝一

1948—壮馬の寄生腰麻痺症と吐酒石に依る治験
畜獣月報　1, 4

馬の腰痿調査会
1956—馬の腰痿調査研究報告(I)　日本中央競馬会　1—24
1957—馬の腰痿調査研究報告(II)　日本中央競馬会　1—47
1948—馬の脳脊髄糸状虫症に対する Antimocolloid の予防効果　日獣誌　10(3, 4), 128

幼駒の後躯麻痺研究委員会
1948—馬の脳脊髄糸状虫症　畜産獣医出版協会　1—59

c. 牛

宮本佐市
1951—自然発生例を基礎とした脳脊髄糸状虫症の研究　日獣会誌　4(8), 261—263

新美大四郎・林田重幸・河野猪三郎・山内忠平
1954 a —牛の脳脊髄糸状虫症(腰麻痺)の実例報告(会)　日獣誌　16, 99—100
1954 b —牛に於ける Setaria による腰麻痺の発生例　家畜保健報　2, 13

酒井一二
1953—牛の脳脊髄 Setaria 症(所謂腰麻痺)に就て　獣畜新報　122, 10—13

関根宝吉
1952—牛の脳脊髄糸状虫症について　獣畜新報　79, 70—71

O. 瀬 晴 虫 症

a. 馬

有馬七五郎
1935—瀬晴虫について　応獣誌　8(4), 276—279

出口平吉・高田孝治
1912—馬の眼球内「フィラリア」症に就て　陸獣団報　30, 19—24

今村嘉礼武
1951—瀬晴虫摘出部位と角膜白濁消失法　獣畜新報　54, 10—11

板垣四郎
1929—馬の瀬晴虫　応獣誌　2(9),

一ノ瀬幸三・板垣四郎
1943—馬の前眼房水に寄生する幼糸状虫(瀬晴虫)の本態　日獣誌　5(4), 420—421

一ノ瀬幸三・山口孝行・板垣四郎
1945—瀬晴虫 *Filaria Oculi* の本態に就いて　綜合獣医　2(5), 69—72

岩瀬三郎
1951—瀬晴虫について　獣畜新報　56, 20—21

河村恭雄
1943—馬瀬晴虫症の臨床学的所見並びに虫体に関する観察　応獣誌　16(6), 323—332

菊地正助
1943—瀬晴虫の各種薬液に対する抵抗力　日獣誌　5(4), 420

沓間繁
1955—瀬晴虫に対するアンチモン剤の治験　獣畜新報　151, 75—76

水島政
1941—馬の眼に現れたる糸状虫の簡易除去法　応獣誌　14(7), 468

永田勉
1952—瀬晴虫の摘出について　日獣会誌　5(12), 405—406

佐藤達
1951—瀬晴虫と腰麻痺　獣畜新報　57, 19—20

瀬戸口高男
1951—瀬晴虫摘出談　獣畜新報　61, 20

鈴木茂
1950—瀬晴虫の摘出に切角膜法　獣畜新報　35, 13

竹内方義
1930—瀬晴虫の臨床観察　応獣誌　3(7), 517—521
1934—瀬晴虫の臨床観察補遺　応獣誌　7(1), 13—14

多部田兼弘
1950 a —瀬晴虫のアンチモンによる治験　獣畜新報　35, 16
1950 b —眼房内注射による瀬虫晴の治療法　獣畜新報　45, 17—18

田辺好也
1953—アンチモンコロイドによる瀬晴虫症の治験例　日獣会誌　6(2), 59—60

横山順一
1949—瀬晴虫摘出の一新法　日獣会誌　2(3), 22—23
1946—馬瀬晴虫の簡易摘出法　畜獣月報　15, 50

湯川忠一
1923—瀬晴虫症に対する蘆薈丁幾の応用に就て　陸獣団報　165, 44—52

b. 牛

板垣四郎・谷口守男
1948—牛の瀬晴虫に就て　日獣誌　10(3, 4), 129

栗田武男・坂本昌一
1954—牛の瀬晴虫症の治験例　日獣会誌　7(2), 72—73

谷口守男
1951—牛の瀬晴虫について　東獣畜報　2, 47—48

c. 緬・山羊

国府田悌・沢山鑑一郎
1950—緬羊濶清虫に対するアンチモン剤治験
獣畜新報　44, 11—12

大森康吉
1956—山羊の眼フィラリア幼虫摘出手術について
獣畜新報　195, 25

P.　皮膚糸状虫症（非糸状虫説によるものを含む）

a.　馬（夏癬）

堀川牧顕
1940—夏癬と化膿性疾患の併発例
応獣誌　13(12), 861—863

細谷英夫・玉井吉郎・鮭川誠治
1956—ワヒ病及び夏癬流行地から採集した虫内並びに糠蚊の体内に認められたミクロフィラリアについて
東獣畜報　6, 7—13

石原忠雄
1956—夏癬の原因と発病機序について
畜友　3(7), 5—7

石原忠雄・緒方一喜
1655—夏癬に関する研究第5報，青森県上北郡地方に於ける吸血昆虫特に蚋，並びに蚋に関する二，三の研究
水曜会　4(2), 11—12

石原忠雄・押田等・長岡春義
1956—夏痺に関する研究 V. 福島県双葉郡に於ける実態調査(会)
日獣誌　18, 65—66
水曜会　5(2), 9—10

石原忠雄・上野計
1955 a—夏癬に関する研究——夏癬はアレルギー性皮膚炎で夏癬体質は遺伝すると考えられる
日獣会誌　8(8), 366—371
1955 b—夏癬に関する研究　第7報　防虫法による夏癬の予防試験　水曜会　4(10), 68—69
1955 c—夏癬に関する研究　第3報　発病素因の遺伝学的考察(会)
日獣誌　17, 49—47
水曜会　4(1), 4—5
水曜会　4(8), 54—55
1956 a—夏癬に関する研究　(7) 夏癬の実態調査成績(会)
寄生虫誌　5(2), 252
1956 b—夏癬に関する研究　IV. 予防・治療学的にみた本病の原因並びに発病機序(会)
日獣誌　18, 66
1956 c—夏癬の原因とその発病機序について(会)
日獣誌　18, 126—129
水曜会　5(8), 1—2

石原忠雄・上野計・尾形藤治
1955 a—夏癬に関する研究　第1報 *Onchocerca cervicalis* のミクロフィラリアの寄生率並びに分布
水曜会　3(12), 109—110
1955 b—夏癬に関する研究　第1報 *Onchocerca cervicalis* (RAILLIET & HENRY, 1910) Microfilaria の分布について(会)　寄生虫誌　4(2), 135

石原忠雄・上野計・押田等・長岡春義
1956—夏癬に関する研究　第8報　抗アレルギー剤を中心とした予防治療試験　水曜会　5(1), 3

市岡朝祐
1954—牛の皮膚糸状虫症(わひ病)と馬の皮膚糸状虫症(夏癬)の病原虫に関する新知見紹介
北獣　33, 4

市岡朝祐・守田貞龍・森田義雄
1956—夏癬の治療試験と発生原因の考察(会)
日獣誌　18, 65

市岡朝祐・中林虎一・阿部正夫・野田義郎
1951 a—馬の夏癬に関する臨床病理学的研究(上)
獣畜新報　67, 483—487
1951 b—馬の夏癬に関する臨床病理学的研究(下)
獣畜新報　69, 561—566

角橋三郎
1956—き甲瘻を論じて夏癬に及ぶ
獣畜新報　181, 427—428

角橋三郎・宮本喜夫
1950—北海道における夏癬について
日獣協誌　3(6), 178

北岡茂男・矢島朝彦・上野計・石原忠雄
1955—夏癬に関する研究　第2報　ヌカカについて
水曜会　4(1), 3

近藤忠四郎・上島六彌太
1928—馬の夏癬の病原に関する研究予報
中獣誌　41(11), 981—986

小西辰雄
1955—北海道の夏癬馬に対する B_6 の試用
北獣　45, 7

久池井忠男・和田市造
1942—仮性皮疽又は鼻疽結節と誤られ易き Filaria 仔虫による皮膚寄生性結節
陸獣団報　393, 402

真子九一
1932—夏癬に対するスチオールの実験的効果に就いて
現代獣　26(11), 821—826

中村真一
1955—わが国における馬の夏癬の研究動向
畜研究　9(8), 778—782
1956—臨床面から見た北海道の馬の夏癬(会)
日獣誌　18(附), 115—119

Nakamura, R., A. Matsuhashi & K. Sakata
1957—Studies on "Kasen" of horses in Hokkaido V. Preliminary experiments concerning the effects of antiallergic drug applied to horses affected with the disease
Jap. J. Vet. Res., 5(3), 97—111

中村寛一・松橋皓・山下次郎・佐藤博・原田太・中島康順

1955 a —北海道における馬の夏癬の研究 II. 1954年の研究成績　日獣会誌　8(6), 266—268

1955 b —Studies on "Kasen" of horses in Hokkaido II. Results obtained in 1954　Jap. J. Vet. Res., 3(2), 73—81

Nakamura, R., A. Matsuhashi, N. Yamashita, & T. Yamamoto

1956—Studies on "Kasen" of horses in Hokkaido III. Resarch on the actual state of the disease.　Jap. J. Vet. Res., 4(3), 81—88

中村寛一・其田三夫・佐藤博・戸尾棋明彦・山下次郎・管別，江別農協家畜診療所

1954—北海道に於ける馬の夏癬の本態とその治療予防に関する研究 I. 昭和28年度研究成績　太平　91, 2—3

Nakamura, R., M. Sonoda, K. Too, H. Sato, J. Yamashita, H. Abe, T. Takamiya, T. Kurosaki, & R. Shibata

1954—Studies on "Kasen" of horses in Hokkaido I. Results obtained in 1953.　Jap. J. Vet. Res., 2(3), 109

中村寛一・其田三夫・戸尾棋明彦・佐藤博・山下次郎・阿部仁・高宮寿男・黒崎達朗・芝田六郎

1955—北海道における馬の夏癬の研究 I.　日獣会誌　8(1), 14—17

小国秀男

1936—馬の夏癬に就いて　応獣誌　9(5), 235—240

佐々木昇・宮田敬二

1951—馬の皮膚「ミクロフィラリア」症に関する研究(予報)(会)　日獣誌　13(5, 6), 348—349

佐々木昇・佐野敬二

1953—馬の皮膚「ミクロフィラリア」症に関する研究(第1報)　日獣会誌　6(5), 162—166

1954 a —馬の皮膚ミクロフィラリア症に関する研究 I. 患馬の臨床, 血液並びに皮膚の病理組織所見について　家衛試報　28, 261—272

1954 b —馬の皮膚ミクロフィラリア症に関する研究 II. 皮膚組織内 m.f. 検出法の一考案並びに形態と定期出現性について　家衛試報　28, 273—284

1956—馬の夏癬に対する頸部糸状虫並びにその仔虫の意義について(会)　日獣誌　18, 119—122

佐々木昇・佐藤政雄

1954—馬の皮膚「ミクロフィラリア」症に関する研究 III. 馬の皮膚 m.f. の季節的消長並びに皮膚に於ける分布について(会)　日獣誌　15, 162—163

佐々木昇・佐藤政雄・佐野敬二

1954 a —馬の皮膚ミクロフィラリア症に関する研究 III. 皮膚内 m.f. の季節的消長と皮膚における分布並びに *Onchocerca cervicalis* の寄生との関係　日獣会誌　7(7), 314—317　家衛試報　30, 125—137

1954 b —馬の皮膚ミクロフィラリア症に関する研究 第4報(その一)ピペラヂン誘導体(スパトニン)の本症に対する最少有効量を求めて　水曜会　3(8). 65—66

1957—馬の皮膚ミクロフィラリア症に関する研究 IV. ピペラジン誘導体(スパトニン)の本症に対する治療効果について　家衛試報　32, 235—251

佐藤孝慈・林滋生・田中寛

1954—牛の皮膚糸状虫症(ワヒ)の病原虫としての *Onchocerca gutturosa* Neumann, 1910と馬の皮膚糸状虫症(夏癬)の病原虫として *Onchocerca cervicalis* Railliet et Henry, 1910に関する研究　寄生虫誌　2(3, 4), 199—206

佐藤孝慈・林滋生・田中寛・佐々学・佐々木昇

1954—馬の皮膚 Onchocerca 症について, 特に馬夏癬の病原糸状虫に関する研究　東獣畜報　3, 28—30

佐藤孝慈・田中寛・林滋生・佐々学・林原必正・佐々木昇

1954—馬の夏癬及び牛のワヒ病の病原糸状虫に関する研究(会)　日獣誌　15, 163—164

谷口守男

1954—馬の夏癬について(会)　日獣誌　15, 37—38　寄生虫誌　3(1), 128　ベテマガ　22, 85

1956—夏癬(会)　日獣誌　18, 122—126

谷口守男・板垣四郎

1954—馬の夏癬に関する研究　東獣畜報　3, 34—41

谷口守男・数野勇造・太田襄二・阿部昭二

1954—アンチモン剤に関する実験, アンチモン剤による夏癬馬の治療治験 I 報　日獣会誌　7(3), 119—120

谷口守男・太田襄二・阿部昭二・白戸末之進・斎藤一友

1955—アンチモン剤による夏癬馬の治療試験(第2報)　日獣会誌　8(5), 229—232

谷口守男・押田等・吾妻五朗・鴫原京一

1954—スパトニンによる夏癬の治療試験　獣畜新報　132, 330—332

谷口守男・米花由次

1953—Supatoninによる夏癬及び「コセ」の治療効果に就て　獣畜新報　114, 631—635

上野計・石原忠雄

1956 a —夏癬に関する研究 第10報 夏癬馬皮膚の病理学的所見　水曜会　5(6), 36

1956 b —夏癬に関する研究. 第11報 吸血昆虫の抽出液(凍結乾燥)による皮内反応の病理組織学的所見　水曜会　5(6), 36—37

1957 a —夏癬に関する研究 (2) 夏癬馬皮膚の病理学

的所見と原因学的考察　　家衛試報 32, 201
1957 b —夏癬に関する研究 (3) 吸血昆虫類の抽出物(凍結乾燥)による皮内反応の病理学的所見　家衛試報 32, 217

上野計・石原忠雄・北岡茂男・矢島朝彦
1955 a —夏癬に関する研究 第3報 小平地方に於ける *O. cervicalis* の中間宿主としてのヌカカについて　水曜会 4(1), 3—4
1955 b —夏癬に関する研究 第2報 小平地方に於けるヌカカ (Culicoides) の種類と消長並びに寄生線虫について(会)　日獣誌 17, 72

上野計・北岡茂男・石原忠雄・矢島朝彦
1956—東京都下小平町に於けるヌカカの種類季節的消長及びその寄生線虫類について　衛動 7(1), 19—26

Yamashita, J., Y. Kitamura, & R. Nakamura
1957—Studies on "Kasen" of horses in Hokkaido IV. Researches on the punkies in Hokkaido with descrption of a new species.　Jap. J. Vet. Res., 5(3), 89—97

b.　牛 (わひ又こせ)

広江巌
1955—わひ症に対するサルセリンの治験例　獣畜新報 169, 1166—1167

堀準衛郎
1957—わひ症に対するサルセリンの治験例　獣畜新報 198, 38

細谷英夫・玉井吉郎・鮭川誠治
1956—ワヒ病及び夏癬流行地から採集した虫内並びに糠蚊の体内に認められたミクロフィラリアについて　東獣畜報 6, 7—13

市岡朝祐
1954—牛の皮膚糸状虫症(わひ病)と馬の皮膚糸状虫症(夏癬)の病原虫に関する新知見紹介　北獣 33, 4

河野猪三郎・新美大四郎
1954—牛のコセ又はワヒ病に関する研究 I. 日本の牛に分布する一般 Filaria の調査　鹿児島農報 3, 138—150

河野猪三郎
1956—牛のコセ又はワヒ病に関する研究 III. 薬物による治療試験　鹿児島農報 5, 49—53

真島礼三郎・迫悟・江口博三
1958—牛ワヒ病の治験　日獣会誌 11(2), 87—88

新美大四郎
1953—糸状虫症の病理学的研究, 特に牛のコセ病の原因　総研生農 (28), 160
1954—薬物による腰麻痺予防試験並びにコセ病の原因学的研究(会)　日獣誌 15, 218—220

新美大四郎・河野猪三郎
1952—鹿児島県下の牛のコセ病の原因に関する研究 I. (会)　日獣誌 14(6), 352—353
1953—鹿児島県の牛のコセ病の原因学的研究　獣畜新報 116, 768—772
1954 a —鹿児島県の牛のコセ病の原因学的研究(会)　日獣誌 15, 36—37
1954 b —牛のコセ又はワヒ病に関する研究 II. 殊に原因及び病理について　鹿児島農報 3, 151—162
1954 c —鹿児島の牛のコセ病の原因学的研究(会)　日獣誌 16, 100—101
1955 a —鹿児島県の牛のコセ病の原因学的研究 IV. (会)　日獣誌 17, 46
1955 b —鹿児島県の牛のコセ病の原因学的研究 V. 薬物による治療試験(会)　日獣誌 17, 98
1956—牛のコセ又ワヒ病の原因について(会)　日獣誌 18, 132—135

小国秀男
1927 a —畜牛の象皮病様疾患「わひ」又「こせ」病に就て(第1回報告)　日獣医誌 6(2), 175—190
1927 b —畜牛の「わひ」又「こせ」病に就て　中獣会誌 40(7),
1928—畜牛の象皮病様疾患「わひ」又「こせ」病に就て(第2回報告)　日獣会誌 7(3), 219—242
1929 a —わひ又こせ病の原因療法　大日本獣医学会刊
1929 b —畜牛象皮病様疾患「わひ」又「こせ」病の研究(第1回報告)　中獣誌 42(8), 633—690
1929 c —「わひ」又「こせ」病の原因及び療法　応獣誌 2(9), 706—712
応獣誌 2(11), 871—875

佐藤孝滋・林慈生・佐々学
1954—家畜皮膚糸状虫の研究 II. ワヒ病の病原糸状虫の疫学的研究(会)　日獣誌 16, 101

佐藤孝慈・林滋生・田中寛
1954—牛の皮膚糸状虫症(ワヒ)の病原虫としての *Onchocerca gutturosa* Neumann, 1910 と馬の皮膚糸状虫症 (夏癬) の病原虫とての *Onchocerca cervicalis* Railliet et Henry, 1910 に関する研究　寄生虫誌 23, 4, 199—206

佐藤孝慈・林滋生・田中寛・佐々学・新美大四郎
1954—牛の皮膚 Onchocerca 症について, 特に牛のワヒ病の病原糸状虫に関する研究　東獣畜報 3, 31—33

佐藤孝慈・林原必正
1954—スパトニンによるワヒ病の治療成績(追記) (会)　寄生虫誌 2(3, 4), 206

佐藤孝慈・林原必正・林滋生
1954—家畜皮膚糸状虫の研究 III. ワヒ病の治療試験について(会)　日獣誌 16, 101—102

佐藤孝慈・田中寛・林滋生・佐々学・林原必正・佐々木昇

1954—馬の夏癬及び牛のワヒ病の病原糸状虫に関する
研究(会)　日獣誌　15，163—164

佐藤達

1952—スチナールの使用に就て
獣畜新報　99，1029

谷口守男・米花由次

1953—Supatonin による夏癬及び「コセ」の治療効果
に就いて　獣畜新報　114，631—635

Q. その他

細谷英夫

1953—家畜の脳脊髄糸状虫症の予防及び治療の研究
総研生農　(28)，158

板垣四郎

1937—フィラリア症の比較　獣医界　1(2)，9
獣医界　1(3)，5
獣医界　2(3)，1

1938—内臓寄生線虫と皮膚疾患
中獣誌(創刊50周年記念号)，137

1947—家畜糸状虫に就て——綜説——
大日本獣医学会東京帝
国大学農学部畜産学科

1949—糸状虫と家畜衛生　東獣畜報　1，7—15

1952—最近わが国の糸状虫研究
東獣畜報(フィラリア特輯号)，1—3

1953—糸状虫虫の生物学的研究
総研生農　(28)，157

1954—糸状虫の研究を顧みて
麻布獣研報　1，1—10

板垣四郎・谷口守男

1956—家畜糸状虫症の比較生物学的研究
総研医薬　(31)，50—51

川路清高

1955—糸状虫の実験的研究
総研医薬　(29)，523

森下薫

1955—糸状虫免疫に関する研究
総研医薬　(29)，523

牟田親男

1936—フィラリア・パピローザ摘出例
応獣誌　9(6)，374—376

中条仲栄

1934—皮角腫及び去勢創に移行せるヒラリア
応獣誌　7，671—672

日本獣医師会臨床部幹事会

1950—ミクロフィラリアを中心とした第5回臨床部会
幹事会　日獣会誌　3(10)，319—322

新美大四郎

1955—家畜のフィラリア症に関する最近の研究
畜友　2(6)，8—11

大越伸

1951—家畜 Filaria 症の治療及び予防法に関する研究
学月　6，127

大越伸・斎藤潔・小津茂弘・北野訓敏・佐々木真弓

1952—家畜 Filaria 症の治療及び予防法に関する実験
的研究　学月　10，456

谷口守男

1953—糸状虫の発育に関する研究
総研生農　(28)，158

淺見敬三所藏

第三部 項目別索引

I. 人糸状虫

A. *Wuchereria bancrofti*

1. 綜説

藤井信雄 (1938), Galliard, H. (1943), 林滋生 (1951b, 1955a, 1955b), 池田圭助 (1941), 蠣原勇 (1921), 神田虎治 (1907), 川上漸 (1922), 木原卓三郎 (1954a, 1954b), 北村精一 (1954a)., 北村精一・片峰大助 (1953, 1953a, 1954a, 1954b), 小泉丹 (1927), 前田末男 (1951), 前畠良秀 (1941a, 1941b), 松下禎二・帖佐彦四郎・竹内伊三・吉村良雄・不破格(1914), 三好正造・森下薫(1951), 長花操 (1949), 佐々学(1953b), 佐々学・林滋生 (1653b), 竹内伊三・吉村良雄 (1914), 鶴見三三 (1941), 吉永福太郎 (1914)

2. 分布, 統計, 疫学

阿部康男 (1953a, 1953b, 1954a, 1954b, 1955), 阿部康男・山下博・若松道範 (1953), 阿部康男・山下博・前原試 (1953), 阿部康男・山下博 (1954), 阿部康男・米沢藤士・指宿英造 (1956), 荒川忠良・油谷友三・森川義金・金子保夫・宮本睦夫・河内憲一・宮川三男・中瀬勝・山口富雄 (1955), 荒川忠良・油谷友三・森川義金・金子保夫・宮川三男・山口富雄 (1955), 阿世知節夫・亀甲大(1953), 藤井静英(1915, 1922), 二神義清・堀口勇蔵・西本勝之輔・一ノ瀬健吾・片峰大助(1940), 不破格(1914), 花城清剛・城間盛吉・永山修・上原直三(1954), 花城清剛・城間盛吉・上原直三・永山修(1954), 八田千元・横井正幸・梅本元彦・猪口清一郎・松田靖 (1952), 林滋生 (1954, 1955a), 林滋生・佐々学(1953), 林滋生・佐々学・田中寛・石井省吾(1954), 林滋生・佐藤孝慈・田中寛(1957), 比嘉賀善 (1915), 平田嗣純 (1939a, 1939b), 堀口勇蔵・一ノ瀬健吾 (1941), 指宿英造 (1956b, 1955, 1956), 一ノ瀬健吾 (1943), 一ノ瀬健吾・片峰大助 (1949), 伊集院武文(1956a, 1956b), 今薗竜吉(1928), 井上昇・森武 (1935), 石田堅三郎 (1937), 石井信太郎 (1936), 壁島坂造 (1915), 金原庄治郎 (1917), 金子保夫・伊川裕・山本勤也・石本悦夫・武田克之・宮本睦夫・村口郁夫・多田弘・佐々豊・山口富雄(1956), 笠松二三夫 (1954), 片峰大助・吉田卯太郎 (1952), 片峰大助・山崎豊彦・吉田卯太郎(1952, 1953), 片峰大助・田村祐治・藤巻博教・山崎豊彦・有里実行 (1954), 川上漸(1919), 川村麟也(1923), 北川正惇・山岸良治 (1932), 北原経太(1953, 1954c), 北原経太・土井彰 (1953), 北畠栄一道・水谷昇・横内幸造(1954), 北畠栄太郎(1954, 1955), 北原栄太郎・高松功(1954, 1957), 北村精一(1954b), 北村精一・片峰大助(1951, 1955), 北村精一・片峰大助・田村祐治・吉田卯太郎・森口義春・有里実行・大原良清・藤巻博教(1952, 1953), 北村精一・片峰大助・大原良清・有里実行・上田穂(1953), 黄登雲(1943), 小林長美(1933), 国吉貞英(1953), 町野碩夫 (1955b), 前田道明 (1947), 増田陸郎(1954). 松岡功 (1937), 峯直次郎 (1911), 光富慎吾・兵働貞夫・森博愛・岡崎通・尾上薫・有川武郎令(1951), 望月代次・笠原精一(1913), 森下薫(1954, 1955b), 森下薫・中村敏夫・西村猛・尾崎権一郎(1953), 森下薫・中村敏夫・西村猛・森下智・坪坂勉(1956), 森下薫・中村敏夫・西村猛・南風原助泰 (1956), 森下哲夫 (1956), 長花操(1944, 1954, 1955), 長花操・貴島亨・宮田典男・宮下秀隆・中塩一(1949), 長花操・山元典雄・橋口兼英・石上英昭・簡富雄・児玉一幸(1949), 長花操・山下博(1951), 長花操・宮田典男・貴島亨・中塩一(1954), 長花操・山元典雄・石神兼英・児玉一幸(1954), 長花操・貴島亨・外山寛樹・宮田典男・児玉一幸, 中塩一・桑畑紀也・村岡ゆきえ(1954), 長花操・山下博・石神兼英・堀栄太郎・貴島亨・桑畑紀也・村岡ゆきえ (1954), 長花操・外山寛樹 (1954a, 1954b), 長花操・山下博・宮田典男・中塩一・児玉一幸・外山寛樹・坂本明雄(1955), 長花操・山下博・外山寛樹・児玉一幸・貴島亨・堀栄太郎・幸泉光彌(1955), 長花操・外山寛樹・西田弘・浅木快造・上平用(1955), 大浜信賢(1939, 1940, 1941b, 1943a, 1943b), 岡部浩洋 (1955b), 岡部浩洋・松瀬幹也 (1954), 岡元健一郎・永吉浩(1947, 1948a), 岡村一郎 (1954), 岡村一郎・三浦守・松下文雄・菅原謙次 (1955), 大森清一 (1934b, 1935), 大島正治 (1953a, 1953b, 1954a, 1954b, 1955d), 大城幸雄(1937), 尾辻義人 (1955b, 1955d), 西郷親盛 (1937, 1940d), 佐々学・林滋生 (1952, 1953a), 佐々学 (1954), 佐々学・田中寛・佐藤孝慈・林滋生・石井省吾・小峰績・向後鉄太郎(1953), 佐々学(1954), 佐々学・林滋生, 田中寛(1954). 佐々学・林滋生, 田中寛(1952), 佐々学・佐藤孝慈・加納六郎(1955), 佐藤八郎 (1654a, 1954b, 1955a, 1955c), 佐藤八郎・米沢藤士・有馬俊典(1950), 佐藤八郎・橋本修治・福島英雄・黒肱敏郎・貴島亨・米沢藤士・植村六郎・片平勝郎・米田実光(1950), 佐藤八郎・北原経太・米沢藤士・田畑晋作(1952), 佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・花城清喬・政真哉(1954), 佐藤八郎, 沢藤士, 福島英雄, 田畑晋作(1954), 佐藤八郎・米沢藤士・尾辻義人・花城清喬 (1955), 佐藤八郎・福島英雄・政真哉 (1955), 佐藤八郎・植村芳郎・福島英雄・政真哉・指宿英造 (1955), 佐藤八郎・米沢藤士・植村芳郎・福島英雄・政真哉・要真一朗・橋本久・小倉広丸・佐多明・上妻昭夫・高森治生・田代正盛(1955), 代藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人・花城清喬・奥野馨・上堤辰男・要真一朗(1956b), 佐藤八郎・米沢藤士・植村芳郎・上村光夫・要真一朗・指宿英造(1956), 佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人・花城清喬・奥野馨・上堤辰男・要真一朗・永井一成・浜田已則(1957), 佐藤孝慈・林滋生(1956), 里見三男(1914), 重松俊・尾形隆明・田中襄二・三原温・長崎光夫(1954), 城間盛吉(1956), 菅間文六(1955), 竹之内辰四郎(1925), 田中寛・渡辺昇・加納六郎・金子清俊 (1954), 田中一雄・谷野伝 (1939), 田中一雄 (1937), 田中重雄 (1937), 戸村隆敏 (1925), 坪坂勉

・竹田亮祐・織田邦夫(1954)，坪坂勉・竹田亮祐(1954)，植木弟三郎(1914)，植村芳郎・新門宰・橋雄久(1955)，若松道範(1953)，和辻春次・山根大学(1894)，山口富雄・金子保夫(1955)，山代義雄・増田陸郎(1955a)，山代義雄・増田陸郎(1955b)，横川定(1939c)，横川定・小林英一・湯本義秀・小坂清石・盧万徳・横川宗雄(1939)，米沢藤士・福島英雄・田畑晋作(1954)，吉村良雄(1912a, 1912b)，吉永福太郎・帖佐彦四郎(1911a)，吉永福太郎(1912b, 1912c, 1913a)，吉野高善・仲里朝貞(1940)

3. 分類，形態

阿部信一(1935)，林滋生(1945)，肥田七郎(1904)，木村伝(1920a)，小林英一(1939, 1940a)，三宅速・望月代次(1910, 1913, 1914a)，長花操・外山寛樹(1954b)，奥島愛次郎(1942)，志賀樹太郎・高月三郎(1907)，土本重(1947)

4. 生理，生態，定期出現性

吾河史郎(1918)，福田千代太(1944)，平田嗣純(1939a, 1939c)，指宿英造(1957a)，片峰大助・田村祐治(1952, 1954, 1955)，片峰大助・山崎豊彦(1935)，木村伝(1920b)，仲地紀晃(1929)，大保不二夫(1953, 1954)，岡元健一郎・松山昌(1952)，尾辻義人(1954, 1955a, 1955c, 1955e, 1956a, 1956b, 1957)，尾辻義人・松山国隆(1954)，西郷親盛(1940a, 1940c)，佐藤八郎(1954a)，末広泰祐(1952, 1953)，菅沼清次郎(1919, 1920, 1921a, 1912b)，杉野耕平(1933)，竹下尚治・奥田瑞積(1922)，武内成事，原ロ一億(1918)，田宮貞仁(1940)，田宮貞亮(1918)，田村祐治・片峰大助(1953)，田村祐治(1953, 1954a, 1954b, 1955)，谷口長雄(1904, 1905)，山田基・山本達(1916)，Yamada, S. & Komori, K. (1926)，横川定(1939a)，米沢藤士・柚木一雄・尾辻義人・松山国隆・貴島亨(1953)，吉村良雄(1914)

5. 発育史，中間宿主

阿部信一(1936b, 1937)，阿部康男(1955)，阿部康男・堀栄太郎(1955)，林滋生(1954)，石井信太郎(1932)，北畠栄一道・水谷昇・横内幸造(1954)，小林英一(1938)，(1940b, 1941)，望月代次(1911, 1914a)，長花操(1951a, 1951b, 1951c)，長花操・石神兼英・岩重良子(1954)，長花操・中塩一・貴島亨村・村岡ゆきえ(1954)，長花操・貴島亨・外山寛樹・宮田典男・児玉一幸・中塩一・桑畑紀也・村岡ゆきえ(1954)，長花操・山下博・石神兼英・堀栄太郎・貴島亨・桑畑紀也・村岡ゆきえ(1954)，長花操・山下博・宮田典男・中塩一・児玉一幸・外山寛樹・坂本明雄(1955)，長花操・山下博・外山寛樹・児玉一幸・貴島亨・堀栄太郎・幸泉光彌(1955)，長花操・外山寛樹(1955)，奥島愛次郎(1943)，大森南三郎(1953a, 1953b, 1954a, 1954b, 1954c, 1955a, 1955b, 1956a, 1956b, 1957)，大島正治・大森南三郎・永友勇夫(1954)，大森南三郎・大島正治・大森南三郎・永友勇夫(1955)，大島正治(1955b, 1956)，外山寛樹(1955, 1956)，Yamada, S. (1927)，山下博(1953a, 1953b)

6. 感染，免疫

阿部信一(1938)，平田嗣純(1639a)，一ノ瀬健吾(1942)，地田圭助(1935, 1936)，片峰大助・吉田卯太郎(1952)，片峰大助・有里実行(1954)，片峰大助・田辺紀夫・藤巻博教(1955)，北村精一・片峰大助(1953)，森下薫(1955a)，永吉浩(1952)，中村敏夫(1954)，岡部浩洋(1955a, 1956)，岡部浩洋・山口富雄・山下博(1953, 1954)，岡部浩洋・松瀬幹也(1954, 1956, 1957)，岡部浩洋(1955a)，岡部浩洋・松瀬幹也・山崎達雄(1957)，田辺紀夫・有里実行・片峰大助(1953)，田辺紀夫(1957)，Yamado, S. & Komori, K. (1926)，横川定(1938a, 1938b, 1939a, 1939c)，横川定・小林英一・吉野高善(1939)，吉永福太郎・帖佐彦四郎(1911)

7. 病理，症候

秋山一雄(1939)，秋山錬造(1901)，秋山静一(1934)，天野晴正・児玉伸二(1955)，青木圭三・坂井章(1952)，有里実行(1954)，有馬陽一・桝屋富一(1956)，浅田徹雄(1931)，厚見領一(1940)，帖佐彦四郎(1912)，江原猪知郎(1927)，江本侃一・坂本公孝(1953)，藤林繁・桝屋富一(1956)，藤井静英(1915)，藤井静英・比嘉賀善(1916)，深井東天(1936)，福元務(1955, 1956)，福元務・春田豊作・津崎文雄・中野一(1956)，福本務・桝屋富一(1955)，福島英雄(1954, 1955)，藤崎俊蔵(1928)，二神義清，堀口勇蔵(1940)，春田豊作(1656)，春田豊作，桝屋富一(1955a, 1955b, 1956)，波多野克巳(1941)，林郁彦(1907, 1919a, 1919b, 1925)，林田和治・山本一夫(1954)，平野(1932)，平田嗣純(1940)，樋渡良博(1954)，本多忠夫(1900)，堀尾伝・安田利顕・辻一郎(1944)，指宿英造(1955a, 1956a, 1957b)，一ノ瀬健吾(1938, 1943, 1944)，一ノ瀬健吾・赤松秀中・山善敏(1944)，井尻辰之助(1914)，池田圭助(1929)，今薗竜吉(1928)，入沢達吉(1918)，石橋卯吉(1932)，石田堅三郎(1943)，石黒春秋(1905)，石井省吾(1954)，石井泰蔵・中塩一(1954)，石渡忠太郎(1933, 1935, 1940)，岩永義雄・宮原道也(1936)，門田光二郎・喜屋武朝章・桝屋富一(1956)，門田光二郎・桝屋富一(1956)，片峰大助(1952b, 1952c, 1952d, 1954)，片峰大助・山崎豊彦・吉田卯太郎(1952, 1953)，片峰大助・藤巻博教・伊集院武文(1954)，片峰大助・有里実行(1955a, 1955b)，川路清高(1953, 1955)，川路清高・岡元健一郎(1954)，川路清高・橋口俊照・八反丸哲夫・松本光幸・松本諒(1955)，川路清高・橋口俊照・八反丸哲夫(1955)，河北靖夫(1953, 1954, 1955)，河北靖夫・松原高賢・山本重光・橋本薫明・平井俊明・野津原敏雄・清田浩・渡辺作吾・野田正臣・山瀬秀夫・由富章一(1956)，川村六郎(1914)，萱田静海・山根真平(1951)，木村哲二(1919)，北河清(1942)，北川正惇・渡辺繁彌(1935)，北川正惇・大森南三郎(1935, 1936)，北川正惇・渡辺繁彌(1936)，北村包彦(1939a, 1939b, 1940a, 1940b)，北村精一・片峰大助(1956)，北村精一・田村祐治(1954)，小林長美(1935)，小玉博(1938)，児玉伸二・甲斐裕文(1955)，小島浦三郎(不明)，駒屋銀治(1928a, 1928b, 1929)，

駒屋銀治・井上昇(1935)，近藤洪(1930)，河内憲一・成田克之(1955)，河野隆(1938)，河野豊蔵(1899)，久米久之 (1928，1929，1930a，1930b)，慶大外科教室(1940)，町野碩夫(1953a)，町野碩夫・大保不二夫(1953)，前田末男 (1953，1953c)，前島良秀 (1941c，1941d，1941e，1942)，増田圭喜 (1953)，桝屋富一・鮫島実俊・肥後正典(1954)，桝屋富一・鮫島実俊・喜屋武朝章・福元務・春田豊作・門田光二郎・津崎文雄・大園勝美・肥後正典(1955)，桝屋富一・鮫島実俊・福元務春田豊作・肥後正典・津崎文雄・大園勝美 (1954 a，1954b，1954c，1954d)，桝屋富一・鮫島実俊・福元務・春田豊作(1954)，桝屋富一・春田豊作・柴田正行・上村達郎(1955)，桝屋富一・福元務(1955)，桝屋富一・鮫島実俊・肥後正典(1955)，桝屋富一・喜屋武朝竜・門田光二郎(1955)，桝屋富一・門田光二郎・有馬陽一(1956)，桝屋富一・鮫島実俊・福島務・春田豊作・門田光二郎・津崎文雄・有馬陽一・藤村繁・中野一・喜屋武朝章(1956)，松見一男(1940)，松尾弘(1932a，1932b，1932c，1932d)，松岡功(1937)，松下禎二・吉永福太郎・帖佐彦四郎(1911)，松下禎二(1913)，松谷義清(1914)，松浦元舒(1918)，南進・山本一夫(1936)，皆見省吾・江原猪知郎(1928)，三村六郎(1936)，三宅速(1909)，望月代次(1912，1914 b)，望月代次・井上三郎(1912)，森武美 (1915)，森口義春 (1953，1954，1955)，盛彌寿男(1934)，森安勇(1955)，宗菊次郎・中野巌(1941)，村上次一郎(1914)，村田貢(1930)，長沢透(1928)，永吉浩 (1948 a，1951 a)，中島佐 (1934)，中村家政・市村平(1953)，中村和雄(1936，1938)，中野巌(1939)，中野一・桝屋富一・川崎兼陽(1956)，中野俊二(1917)，中尾知足(1936)，中曾根敬吉・高田全(1952)，並木定吉(1955)，中沢威夫(1930)，楢原憲章・天野晴正・児玉伸二(1953)，楢原憲章(1953)，楢原憲章・中村家政(1953)，楢原憲章・児玉伸二・申斐祐文(1955)，根井直(1937)，二宮敬治(1943)，二宮茂彌(1943，1945)，西本勝之輔(1940)，仲地紀晃(1929)，大橋二郎(1956)岡田実栄・浜野洪範(1936)，岡元健一郎・永吉浩(1948 b)，岡元健一郎(1953a，1953b，1955)，岡元健一郎・亀甲大・川路清高・松本光幸(1954)，岡村一郎(1951)，岡村一郎・梅本元彦・村上和充(1953)，岡村一郎・村上和充(1955)，岡村一郎・村上和充・梅本元彦(1954)，奥島愛次郎(1914)，大井実(1943)，大森清一 (1934a)，大森南三郎(1938)，大城満助(1931)，西郷親盛(1939)，斎藤巌二(1942)，斎藤健二・須藤長章(1938)，鮫島実俊・肥後正典 (1955)，笹川正男 (1919)，佐藤八郎(1954 b)，佐藤八郎・米沢藤士・植村芳郎・福島茂雄・政真哉・要真一朗・橋本久・小倉宏丸・佐多明・上妻昭夫・高森治生・田代正盛(1955)，佐藤八郎・米沢藤士・尾辻義人・花城清高(1955)，佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人・花城清高・奥野馨・上堤辰男・要慎一朗・永井一成・浜田已則(1957)，佐藤万次郎(1919)，沢田弘夫(1934)，瀬戸山宏邦(1939)，志田圭三・福田正次(1955)，志賀亮，徳永愿(1921)，清圭圭三(1937，1941)，清水圭三・今林孫三郎(1939)，下村雪雄 ・渡辺直昭・嶺本肇・江良栄一 (1957)，首藤(1936)，菅沼清次郎 (1919a)，鈴木勝久(1943)，鈴木正孝 (1929)，鈴木滋 (1934)，高橋明 (1912)，高木繁(1934)，高橋信吉(1936)，高橋信吉 ・吉川喜久雄(1937)，玉木康允(1930)，田村祐治・片峰大助(1956)，田中英香 (1921)，田沢多吉 (1950)，田代布治左衞門(1936)，寺田廉 (1919)，所輝夫 (1939)，徳田安之助(1954)，徳田安之助・足立一郎(1955)，登倉登(1921)，遠山昇(1930)，津崎文雄(1955，1956a，1956b，1957a，1957b，1957c)，筒井喜三・広瀬香 (1937)，上田三郎・大池義勝・高師敏・滝一郎(1955)，梅本元彦(1952，1953)，植村芳郎・新門宰・橋本久(1955)，渡部智倶人(1951，1952)，渡辺清(1929)，渡辺達 (1906)，山之内棟(1930)，山崎豊彦(1953，1954，1956)，矢内原啓太郎(1935)，吉村欽二(1941)，吉永福太郎(1912a，1912d)

8.　診断，治療

青木竜身・剣崎直祐(1953)，青木成喜(1955)，青柳安城(1928)，馬場貞次(1912)，江本侃一・坂本公孝(1953)，藤巻博教(1955a，1955b，1956a，1956b)，福田千代太(1944)，古川正道(1911)，原英道(1940)，花圃美知雄 (1934)，長谷川恒夫 (1943)，橋爪休吉・井上景介(1943)，林滋生(1954)，林滋生・小峰績・石井省吾・佐々学(1952 a，1952 b)，平田嗣紙(1936，1939 b)，北条円了(1937)，星子未知男(1950)，一ノ瀬健吾(1942，1944)，井尻辰之助 (1929，1943)，池田圭助 (1935，1936)，今永一(1929)，井上昇(1933，1934，1935a，1935 b，1935c)，石渡忠太郎(1934)，岩動隆一(1935)，伊藤隼三(1915)，伊藤斯郎(1933)，金沢信太郎(1935)，神田虎治(1917)，片峰大助 (1952d)，片峰大助・田村祐治・森口義春(1952a)，片峰大助・田村祐治・北村精一・森口義春(1952)，片峰大助・藤巻博教(1955)，北川正惇(1934)，北川正惇・大森周三郎 (1935)北原経太 (1954 a，1954b)，北村包彦・高田之(1930)，北村包彦(1934，1939c)，北村精一(1951，1954c)，北村精一・片峰大助(1951，1952，1953b)，北村精一・片峰大助・田村祐治・藤巻博教(1955)，駒屋銀治・一ノ瀬忠行・神代元彦(1927)，駒屋銀治(1934)，小峰績・石井省吾・林滋生・佐藤季慈・佐々学(1952，1953)，近藤哲造・熊田富貴子(1955)，町野碩夫(1955a)，前田末男(1953a，1953b，1953d)，曲田勝一 (1914)，松本皓・小林尚(1955)，松本操(1935)，松岡功・松下良吉(1929)，馬詰嘉吉 (1943)，皆見省吾・佐藤喬 (1929)，宮川米次(1921，1953)，宮川米次・北村包彦・森上哲夫・一ノ瀬健吾・岩田芳郎・清水重夫・松本新・都築傑(1943)，宮川米次・北村包彦・森下哲夫・一ノ瀬健吾・岩田芳郎・清水重夫・松本新(1943)，溝上定男(1913)，永吉浩(1948b，1948c 1949a，1949b，1951b)，中尾知足(1933)，難波文夫(1937)，楢原憲章(1931，1935)，西山伊織・王城文男・宮地殷三(1935)，新沢新(1943)，野口喜久彌(1935)，野木一雄・富家英子・坂本欽次郎(1951)，大浜信賢 (1941a)，岡田一郎・山田博・津田隆男(1941)，岡田侃三(1942)，岡元健一郎・亀甲大・河世知節夫(1952)，岡元健一郎(1953，1954)，岡元健一郎・松岡昌(1953)，扇谷正彦・河西やう子・高畠稔雄(1953)，大沢(1927)，尾辻義人・松山国隆(1953)，尾

辻義人・伊地知秀治(1954)，尾辻義人(1956b)，小沢凱夫・長谷川恒夫(1942)，斎藤弘作(1939)，斎藤貞一(1930)，佐々学 (1952, 1953a)，佐々学・林滋生(1952)，笹岡芳名(1914)，佐藤八郎(1953, 1954, 1955)，佐藤八郎・米沢藤士・橋本修治・福島英雄・片平勝郎・尾辻義人 (1952)，佐藤八郎・米沢藤士・尾辻義人・貴島亨(1953)，佐藤八郎・米沢藤士・橋本修治・福島英雄・片平勝郎・黒肱敏郎・尾辻義人(1953)，佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人(1953, 1954, 1955, 1956)，佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人・松山国隆・貴島亨(1953)，佐藤八郎・米沢藤士・柚木一雄・尾辻義人・松山国隆・貴島亨(1953)，佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人・松山国隆(1953)，佐藤八郎・米沢藤士・尾辻義人・貴島亨・伊地知季治(1954)，佐藤八郎・米沢藤士(1954)，佐藤八郎・米沢藤士・尾辻義人(1954)，佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人・花城清喬・奥野馨・上堤辰男・要慎一朗(1956)，米沢藤士・福島英雄・指宿英造(1956)，佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人・花城清喬・奥野馨・要慎一朗・上堤辰男(1956)，佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・尾辻義人・指宿英造(1957)，佐藤八郎・米沢藤士・福島英雄・西田豊作(1957)，菅原重彦(1954)，菅原清次郎(1916)，立川清(1930)，高木繁 (1934b)，高橋五郎(1937)，高橋信吉(1936)，高橋信吉・池田圭助(1936)，高山与四郎 (1942)，高尾克巳 (1911)，武田光鷹(1939, 1940)，武内成事(1917, 1931)，田村一・渡辺謙一(1929)，田中一雄(1933)，徳富光鷹(1941)，虎島敏治(1939)，坪井賢次(1941)，鶴見三三・武田光鷹(1940)，和田平武 (1930)，山口保年 (1933)，山村孝(1955)，山之内秀三(1933)，横川定・小林英一・吉野高善(1939)，米沢藤士(1955)，米沢藤士・柚木一雄・尾辻義人・松山国隆貴島亨(1953)，米山雅雄(1953)，前大底親(1933)

9. 予防，撲滅

帖佐彦四郎(1912, 1913)，松岡功(1929)，松下禎二・吉永福太郎・帖佐彦四郎(1911)，永友勇夫(1955)，大島正治・大森南三郎・永友勇夫(1955)，西郷親盛(1940b)，吉永福太郎(1913b)

B. *Wuchereria malayi*

1. 綜説

林滋生(1951b, 1955a, 1955b)，佐々学 (1953b)，佐々学・加納六郎(1948)，佐々学・林滋生 (1953b)，鶴見三三(1941)

2. 分布，統計・疫学

阿部信一(1936a)，文仁柱(1921)，林滋生(1954, 1955a)，林滋生・佐々学(1953)，林滋生・佐々学・加納六郎・佐藤孝慈(1951)，林滋生・佐藤孝慈・田中寛(1957)，門場健次(1942a, 1942b, 1942c, 1942d, 1943, 1944)，長花操・外山寛樹(11954b)，佐々学・林滋生・佐藤孝慈・小峰績・石井省吾(1951)，佐々学・林滋生・佐藤孝慈・加納六郎・小峰績・石井省吾(1951)，Sasa, M., Hayashi, S., Kano, R., Sato, K., Komine, I. & Ishii, S. (1952)，佐々学・林滋生 (1952, 1953a)，佐々学(1954)，佐々学・林滋生・田中寛(1954)，妹尾崧(1943, 1951a, 1951b)，吉永福太郎・帖佐彦四郎(1911a)

3. 分類，形態

林滋生(1954)，林滋生・佐々学・加納六郎・佐藤孝慈(1951)，長花操・外山寛樹 (1954b)，佐々学・林滋生・保藤孝慈・小峰績・石井省吾 (1951)，Sasa M., Hayashi, S., Kano, R., Sato, K., Komine, I. & Ishii, S. (1952)，Senoo, T. & D. R. Lincicome (1951a)，土本重(1947)

4. 発育史，中間宿主

林滋生 (1951a, 1953, 1954)，林滋生・佐々学・加納六郎・佐藤孝慈(1951)，Sasa, M., Hayashi, S., Kano, R., Sato, K., Komine, I. & Ishii, S. (1952)

5. 病理，症候

文仁柱(1921)，林滋生・佐々学・加納六郎・佐藤孝慈(1951)，尹日善(1927)，伊藤正義(1930)，片峰大助・北村精一・田村祐治(1953)，北村精一・片峰大助・田村祐治(1952, 1953, 1953a, 1953b)，呉世南(1930)，佐々学・林滋生・佐藤孝慈・小峰績・石井省吾(1951)，佐々学・林滋生・佐藤孝慈・加納六郎・小峰績・石井省吾(1951)，Sasa, M., Hayashi, S., Kano, R., Sato, K., Komine, I., & Ishii, S. (1952)

6. 診断，治療

生林滋・佐々学・加納六郎・佐藤孝慈(1951)，林滋生・小峰績・石井省吾・佐々学 (1952a, 1952b)，林滋生(1954)，佐々学・林滋生(1952)，佐々学・林滋生・佐藤孝慈・小峰績・石井省吾 (1951)，佐々学 (1952, 1953 a)，Sasa, M., Hayashi, S., Kano, R., Sato, K., Komine, I. & Ishii, S. (1952)，妹尾崧・坪井正人・呉利錫(1943)

7. 予防，撲滅

佐々学(1953a)，佐々学・林滋生・鈴木猛・三浦昭子・上野庸治・田中英文(1957)

II. 家 畜 糸 状 虫

A. *Dirofilaria immitis*

1. 綜説

板垣四郎(1939b)，久米清治 (1951a, 1952a)

2. 分布，統計，疫学

宮本佐市・内田長平(1935)，永田作弘(1954)，一色於菟四郎(1939)，片峰大助・藤巻博教・釘田芳文・瀬井義澄 (1955)，宮本佐市・内田長平 (1935)，永田作弘(1954)，大石勇・小林茂雄・久米清治(1958)，岡部浩洋・松瀬幹也・下村実・田中隆文(1957)

3. 分類，形態

井上太郎 (1937a)，森下哲夫・加藤一夫(1957)，翁嘉器 (1942)，佐藤孝慈 (1957)，谷口守男・板垣四郎(1944)

4.　生理，生態，定期出現

細谷英夫・玉井吉郎・高根沢幸雄・立山高則(1957)，井上太郎(1935, 1936b, 1937c, 1937e)，板垣四郎・米久清治(1938)，片峰大助・藤巻博教・釘田芳文・瀬井義澄(1955)，川上漸(1919)，川上漸・長沢透(1926)，北川正淳(1924)，Kosuge(1924)，久保道夫(1938・1940)，久保道夫・牧野正・清水太郎・山田肇(1939)，久米清治(1956)，久米清治・古桑大一・板垣四郎(1942)，前畑良秀(1942b, 1942e)，村田一(1938, 1939a, 1939b, 1940a, 1940b)，大石勇・小林茂雄・久米清治(1958)，大石勇・久米清治 (1957a, 1957b)，柴内大典・橋本軽・堀見利正(1953, 1954)，竹内方義(1931, 1953)，照井促(1926)，若杉幹太郎・林滋生・佐々学・Yamanouchi (1927, 1928)

5.　発育史・中間宿主

本間新一(1939, 1941a)，井上太郎(1936a, 1936c, 1937b, 1937c, 1637d)，板垣四郎・久米清治(1938, 1943)，久米清治(1949, 1953a)，久米清水・板垣四郎(1943, 1947, 1948b, 1948c, 1949a)，久米清治・洪光輝・板垣四郎(1943, 1944, 1944b)，久米清治・大石勇・中沢浩三(1954a)，翁嘉器(1941, 1943)，谷口守男・久米清治・洪光輝・板垣四郎(1944)

6.　感染，免疫

阿久沢実・小山二三人・小票菊夫(1958)，千葉胤孝(1950)，原茂良(1938)，本間新一(1941c)，井上太郎(1938, 1939a, 1939d)，板垣四郎・久米清治(1938)，板垣四郎・谷口守男(1948)，片峰大助・江良栄一(1957)，久米清治(1950d, 1951c)，久米清治・板垣四郎(1948a)，久米清治・洪光輝・板垣四郎(1945b)，久米清治・山口孝行・板垣四郎(1943)，村田一(1940c)，永田正弘・山田一彦(1958)，妹尾崧・坪井正人・呉利錫(1943)，田辺紀夫(1957)

7.　病理，症候

安達幸次郎(1950a, 1950b)，秋山静一・西川清勝(1944)，本田郁代(1921)，本間新一(1641c)，細川修治・内野文彌・神徳甫(1955)，細谷英夫(1956)，飯田隆一(1924)，石原肇(1953)，泉大(1955)，川上漸・北川正淳(1922, 1916)，功刀照夫(1956)，前畑良秀(1942a, 1942c, 1942d)，三村六郎(1935)，武藤義治(1952)，長倉義夫(1935)，長沢秀(1928)，中島三夫・谷口守男・佐々木原進(1956)，西川清勝(1941, 1942a, 1942b, 1942c, 1943)，小倉鉀太郎・青柳浪三(1900)，大橋元徳(1938)，斎藤悦朗(1930)，坂本勇(1936)，真迎寺生(1940)，菅沼保治・石原勝也(1955, 1956)，高見敬夫(1936)，米倉忠夫(1951, 1955a, 1955b)，矢野中(1926)

8.　診断，治療

安達五野(1934)，安達幸次郎(1956a, 1956b)，阿久沢実・小山二三人・小票菊夫(1958)，青木竜身・剣崎直裕(1953)，Balch, R. K., Fonseca, J., William, G., Rice, B., & Leach, F. (1957)，後藤寿作・星川登(1954)，原晴(1932, 1934, 1938, 1939)，長谷川恒夫(1942)，一ノ瀬幸三(1934)，池田昌憲(1954)，今田忠信・青山弘・山崎博・伊藤一二三(1955)，板垣四郎(1928, 1939a)，板垣四郎・牧野六郎(1927)，板垣四郎・久米清治(1938, 1939a, 1939b)，久米清治(1950a, 1950b, 1950e, 1950f, 1950g, 1951b, 1952b, 1952c, 1953b, 1953c, 1954a, 1954b, 1957, 1958)，久米清治・浅見久夫(1949)，久米清治・大石勇(1949, 1951, 1952a, 1952b, 1952c, 1952d, 1953, 1954, 1956, 1957)，久米清治・大石勇・中沢浩三(1954b)，黒川和雄(1957)，黒川和雄・原賀英幸・森脇弘・吉崎重悦・関本祥見(1954a, 1954b)，黒川和雄・磯田政恵・後藤慶隆(1957)，黒川和雄・磯田政恵・後藤慶隆・大平佐門(1956)，黒川和雄・森脇弘・大平佐門・後藤慶隆(1956)，黒川和雄・大平佐門・後藤慶隆(1957)，黒川和雄・大平佐門・後藤慶隆・山下光介・吉崎重悦(1955)，黒川和雄・大平佐門・後藤慶隆・山下光介(1957)，黒川和雄・大平佐門・原賀英幸・吉崎重悦・関本祥見(1954a, 1954b, 1955a, 1955b)，黒川和雄・大平佐門・原賀英幸・森脇弘・吉崎重悦(1954a, 1954b)，黒川和雄・土屋好文・一木彦三(1957)，峰英重(1953)，宮井佳夫・堀正洋(1952)，森健樹・森建吉(1951, 1952)，長倉義夫 1956)，永田正弘・西村専治郎・清水亮佑・山田一彦(1957)，永田正弘・山田一彦(1958)，中村敏夫・田島功(1955)，野田亮二・野田周作(1951, 1952, 1953)，野田亮二・岡武哲(1952)，大越伸・谷口守男(1948)，小国秀男・細谷英夫・呉守一・玉井吉郎・熊谷裕二・山田政治(1957)，大石勇・久米清治(1954, 1956a, 1956b, 1957c)，大石勇・中沢浩三・久米清治(1954, 1955, 1956)，坂本勇(1939)，瀬崎貴三・佐藤久元(1951)，清水重矢(1943)，真迎寺生(1940)，菅原貞一郎(1952)，鈴木光之進(1953)，田熊清一郎(1929)，高岡秀次(1957)，田中操・清水重矢・東十一郎(1942)，谷口守男・数野勇造(1954)，谷口守男・佐藤敬(1952)，土野清(1552)，和田馨(1927)，若杉幹太郎(1957)，若杉幹太郎・林滋生・佐々学(1956)，米倉忠夫(1951, 1955a, 1955b)

9.　予防，撲滅

本間新一(1941c)，石川一(1932)，板垣四郎・久米清治(1939a, 1939b, 1950c, 1950f, 1952b, 1953b, 1954a)，久米清治・板垣四郎(1942, 1949b)，久米清治・洪光輝・板垣四郎(1954a)，久米清治・大石勇・久保道夫(1951)

I. *Setaria digitata*

1.　分布

秋山定勝・塩入恒雄・川野照典(1952)，石原忠雄・尾形藤治(1952, 1953a, 1953b)，河村了(1941, 1916)，河野猪三郎(1957)，小山満弘・楠治実・一色於菟四郎・冨村保・岡武哲・山本博之(1954)，山田勝一・水木伍郎(1913)

2.　分類，形態

佐藤孝慈・林滋生・飯田鈴吉(1953)，谷口守男(1953)

3. 生理，生態

樋渡良博（1953，1354a，1954b），小国秀男・大野敦生（1951），大久保不二夫・樋渡良博・田島大五郎・佐藤朝一（1955），尾辻義人（1957），尾崎利次（1951），米沢藤士（1952，1953a，1953b），大久保不二夫（1953）

4. 発育史，中間宿主

板垣四郎・谷口守男（1954），北岡茂男・石原忠男・矢島朝彦・尾形藤治（1952），町田時男・古越百（1952），谷口守男（1954）

5. 感染，免疫

福島英雄・野中俊明（1957），河野猪三郎（1957），新美大四郎（1956），新美大四郎・河野猪三郎（1957），岡部浩洋（1954），岡部浩洋・松瀬幹也・小野典雄・福山静男・杉野栄（1957），小野典雄（1957）

6. 病理，症候

板垣四郎・谷口守男（1954），中島三夫・谷口守男・佐々木原進（1956），鈴木兵一（1951），谷口守男・岩瀬準中島三夫（1956），上野計・石原忠男・市川収・尾形藤治（1954a，1954b），山田勝一・水木伍郎（1913）

7. 治療

石原忠雄・上野計・尾形藤治（1952），石原忠雄・橋口裕治（1952），石原忠雄・上野計・尾形藤治（1953），小国秀男・大熊俊一・藤井節三（1948，1949）

N. 脳 髄 糸 状 虫 症

a. 緬，山羊

1. 綜説

荘保忠三郎（1952），Innes，J.R.M.・板垣四郎（1930），新美大四郎・板垣四郎（1944），荘保忠三郎（1951a，1951b，1952a，1953）

2. 分布，統計，疫学

秋山定勝（1952），橋爪敬三郎（1940），林滋生・佐藤孝慈・佐々学（1953），荘保忠三郎・Pillai，C. P.（1952），松崎格（1956），宮本佐市（1951），長畑寿賀雄（1944），新美大四郎・板垣四郎（1938，1940，1941，1942，1943），農林省畜産局衛生課（1950），農林省畜産試験場（1941c），荘保忠三郎・Innes，J.R.M.（1952a，1952b），東京帝大農学部獣医学科学生調査班（1943），渡辺昇蔵（1943）

3. 分類，形態

林滋生・佐藤孝慈・佐々学（1953）

4. 中間宿主

秋山定勝（1954），町田時男・古越百（1951，1953）

5. 免疫

石原忠男・市川収・尾形藤治（1453），石原忠雄・市川収・上野計・米村寿男・尾形藤治（1954），石原忠雄・尾形藤治・市川収（1952），石原忠雄・米村寿男・市川収・上野計・尾形藤治（1954，1956），岡部浩洋（1952a，1952d），岡部浩洋・松瀬幹也（1656）

6. 病理，病因，症候

江本修（1918，1922，1924，1930），荘保忠三郎・Pillai，C. P.（1952），石井進・渡辺昇蔵（1942），石井進，矢島朝彦・石原忠雄・須川章夫・橋口祐治（1952，1953a，1953b），伊藤鶴馬（1921），川島秀雄・石井富士雄（1942），木村哲二，新美大四郎（1939，1940，1941），森香中（1951，1952），新美大四郎・板垣四郎（1940，1941，1942，1943），新美大四郎・越智勇一・中村稕治・赤沢笹雄・長畑寿賀雄・福所金松・宮入一雄（1942），農林省畜産試験場（1941a，1941b），大久保義夫・米村寿男（1942），坂巻海三郎（1938），佐藤達（1951），塩川正（1955），荘保忠三郎（1951c，1954a，1955，1956），荘保忠三郎・Innes，J.R.M.（1952a，1952b），田中稔夫（1957），Shoho，C.，& Tanaka，T.（1955），高島一雄（1950，1951c），朝鮮緬羊協会（1942，1942b），山田喜平（1956，1957b），山田次男（1951），山極三郎（1940a，1940b，1941），山極三郎・荘保忠三郎（1944），山極三郎・岩村兼明・二宮道成・山手裕二（1943），山極三郎・荘保忠三郎・岩村兼明・山手裕二（1943a，1943b），安田純夫（1952b，）

7. 診断，診療

秋山定勝（1952），安藤鉄一（1950），青木丈一（1944，1945），細谷英夫・神谷芳枝・谷口守男・佐藤孝慈・石関忠一・菅原直（1952a，1952b），古野春秋（1952），五十嵐三五郎・五十嵐幸男（1948），今井治郎・黒川和雄・栗原信夫・勝木辰男・神宮寿夫，加藤房男（1952），Inns，J.R.M.・石原忠雄（1956a，1956b），石原忠雄・尾形藤治・川田史郎・二宮正明・三木茂（1954），石原忠雄・尾形藤治・矢島朝彦・上野計・北岡茂男・角田清（1952），上野計・尾形藤治・橋口祐治（1953a，1953b），岩村一一（1651），蒲地五四郎（1955），鹿屋乳山羊愛好会（1951），少堀進（1948），小杉光雄（1951），小山和雄（1948），久米清治（1949b，1949c），松井修（1951），峰英重（1953），村上大蔵・宮崎格（1948），中村良一（1950b），中村良一・栗原美佐雄（1952 a，1952 b），中村良一・津村正喜・加藤昭男（1951），新美大四郎・板垣四郎（1942，1943），二宮正明・町田時男・岩沢英雄・三木茂（1955a，1955b），大越伸（1949，1951），大越伸・谷口守男（1948），斎藤新作（1952），佐藤七三郎（1950），佐藤達（1951），瀬島昇（1948），塩川正（1947a，1947b，1948，1952），塩川正・大井良平・碓永文良・関口信雄（1957），塩川正・六波羅悟・浦野由衛（1955），荘保忠三郎・韮沢哲太郎・井上忠良・韮沢勉・久保善三郎（1952a，1952b），荘保忠三郎・韮沢哲太郎・井上忠良・韮沢勉・久保善三郎・佐藤栄治・田中利男（1954）高島一雄（1951a，1951b），田中稔夫（1957），谷口駒介（1939），鉄本昭吾・細谷英夫・神谷芳枝（1953），千葉一郎・斎藤新作・吉田増一・綿引誠（1951），千葉喜一郎・鈴木兵一（1948），脇本正義（1652），渡辺昇（1957），山田喜平（1957a），山田誠夫（1955），山本脩太郎（1948），安田純夫（1950，1952a），米村寿男・飯塚三喜・余語祥子（1951）

8. 予防

五十嵐幸男（1942），今井治郎・黒川和雄・栗原信夫・

勝木辰男・神宮寿夫・加藤房男(1952), Innes, J.R.M. ・石原忠雄(1953), 石原忠雄・尾形藤治・上野計・二宮正明・川田史郎・三木茂(1954a, 1954c, 1955), 石原忠雄・尾形藤治・矢島朝彦・上野計・北岡茂男・角田清(1952, 1953), 石原忠雄・上野計・林和夫・堀井源・三橋一男(1957), 石原忠雄・上野計・尾形藤治・橋口祐治(1953c), 板垣四郎・細谷英夫・谷口守男・根本吉徳・木村功・木村元吉・韮沢勉・井上忠良・玉井吉郎・山田政治・平川則満(1957), 板垣四郎・細谷英夫・谷口守男・根本吉徳・高橋芳衛・青田貞美・山田政治・玉井吉郎(1955), 板垣四郎・小国秀男・大熊俊一(1948), 伊藤鶴馬(1921), 鹿屋乳山羊愛好会(1951), 木村浩治・大角博・浦島磐夫・林和夫・宮腰栗治・朝妻実・中村美登・早川降一・浦山啓長・与沢松作・石原忠雄(1956), 小松広(1943), 久米清治(1949a, 1949b, 1949c), 桑原志都夫・細谷英夫(1949), 峰英重(1948), 峰英重・和田市造(1948), 村上大蔵・宮崎格(1948), 中村良一(1950a, 1950b), 中村良一・栗原美佐雄(1952a, 1952b), 新美大四郎(1954), 新美大四郎, 板垣四郎(1942, 1943), 二宮正明・川田史郎・堀家守彦・町田時男・三木茂・石原忠雄(1955a, 1955b), 二宮正明・川田史郎・松川誠夫・北島千里・三木茂・東原太郎(1957), 二宮正明・町田時男・岩沢英雄・三木茂(1955a, 1955b), 大越伸(1951), 岡部浩洋(1952b, 1952c, 1954), 岡部浩洋・石橋敬男(1953), 岡部浩洋・松瀬幹也(1956), 斎藤修・鎌田政範(1941), 斎藤修・須沢新一・鎌田政範(1943), 斎藤新作(1952, 1953), 佐藤達(1951), 篠原寿一・羽生田良・宮沢文治・広瀬優(1956), 塩川正(1947a, 1948, 1952), 塩川正・大井良平・碓永文良・関口信雄(1957), 塩川正・六波羅悟・浦野由衛(1955), 荘保忠三郎・韮沢哲太郎・井上忠良・韮沢勉・久保善三郎(1952a, 1952b), 荘保忠三郎・韮沢哲太郎・井上忠良・韮沢勉・久保善三郎・佐藤栄治・田中利夫(1954), 千葉喜一郎・鈴木兵一(1948), 富山県農林部畜産課(1955), 浦野由衛(1949a, 1949b), 脇本正義(1952), 渡辺昇(1957), 安田純夫(1952a), 吉利用弘・小野寺強・岩田武・広辺精一(1954)

b. 馬

1. 分布

石井進・須川章夫(1944), 長畑寿賀雄(1944b)

2. 中間宿主

板垣四郎・谷口守男・河田有三(1946a, 1946b, 1947, a)

3. 病理, 病因, 症候

安藤鉄一(1951, 1953), 稲川幸智(1948), 石川進(1944) 板垣四郎・谷口守男・河田有三(1947b, 1948), 菊地賢次郎・千葉喜一郎(1946), 宮本佐市(1951), 長畑寿賀雄(1944b, 1946), 野村歩・岩科一治(1956), 小国秀男・野村歩(1944, 1947), 小国秀男・木全春生・細谷英夫(1957), 田中利男・嵩終三・荘保忠三郎・山極三郎(1945), 舘沢円之助・小倉喜佐次郎(1956), 馬の腰痿調査会(1956, 1957)

4. 診療

安藤鉄一(1951, 1953), 菊地賢次郎・千葉喜一郎(1946), 栗田武男(1951), 宮本佐市(1951), 長畑寿賀雄(1944a), 小国秀男・野村歩(1944, 1947), 橘勝一(1948)

5. 予防

久米清治(1957), 柴内大典・高橋覚・泉沢正名・菅原俊一郎(1949), 安田純夫・柴内大典・田部幸雄・高橋覚・泉沢正名・菅原俊一郎(1948), 幼駒の後軀麻痺研究委員会(1948)

P. 皮膚糸状虫症

a. 馬(夏瘡)

1. 綜説

中林良一(1955)

2. 分布, 統計, 疫学

石原忠雄・押田等・長岡春義(1956), 石原忠雄・上野計(1956a), 石原忠雄・上野計・尾形藤治(1955a), 角橋三郎・宮本喜夫(1950)

3. 発育史・中間宿主

細谷英夫・玉井吉郎・鮭川誠治(1956), 石原忠雄・緒方一喜(1955), 北岡茂男・矢島朝彦・上野計・石原忠雄(1955), 上野計・北岡茂男・石原忠雄・矢島朝彦(1955a, 1955b), 上野計・北岡茂男・石原忠雄・矢島朝彦(1956), Yamashita, J., Kitamura, Nakamura, R. (1957)

4. 病理, 病因, 症候

堀川収嗣(1940), 石原忠雄(1956), 石原忠雄・上野計(1955a, 1955c, 1656b, 1956c), 石原忠雄・上野計・尾形藤治(1955 b), 市岡朝祐(1954), 市岡朝祐・守田貞竜・森田義雄(1956), 市岡朝祐・中村虎一・阿部正夫・野田義郎(1951a, 1951b), 角橋三郎(1956), 近藤忠四郎・上島六彌太(1928), 久池井忠男・和田市造(1942), 中村良一(1956), 中村良一・松橋皓・山下次郎・佐藤博・原田太・中島康順(1955a, 1955b), Nakamura, R., Matsuhashi, A., Yamashita, N., Yamamoto, T. (1956), Nakamura, R., Sonoda, M., Too, K., Sato, H., Yamashita, J., Abe, H., Takamiya, T. Kurosaki, T. & Shibata, R. (1954), 中村良一・其田三夫・戸尾祺明彦・佐藤博・山下次男・阿部仁・高宮寿男・黒崎達朗・芝田六郎(1955), 小国秀男(1936), 佐々木昇・宮田敬二(1951), 佐々木昇・佐野敬二(1953, 1954a, 1956), 佐々木昇・佐藤政雄(1954), 佐々木昇・佐藤政雄・佐野敬二(1954 a), 佐藤孝慈・林滋生(1954) 佐藤孝慈・林滋生・田中寛・佐々学・佐々木昇(1954), 佐藤孝慈・田中寛・林滋生・佐々学・林原必正・佐々木昇(1954), 谷口守男(1954, 1956), 谷口守男・板垣四郎(1954), 上野計・石原忠雄(1956a, 1956b, 1957a, 1957b)

5. 診断，診療

石原忠雄・上野計・押田等・長岡春義(1956)，市岡朝祐・守田貞竜・森田義雄(1956)，小西辰雄(1955)，真子九一(1932)，中村良一(1956)，Nakamura, R., Matsuhashi, A., Sakata, K.(1957)，中村良一松・橋晧，山下次郎・佐藤博・原田太・中島康順(1955a, 1955b), Nakamura, R., Matsuhashi, M., Yamashita, J., Yamamoto, T.(1956)，中村良一・其田三夫・佐藤博・戸尾祺明彦・山下次郎・音別江別農協家畜診所療(1954)，Nakamura, R., Sonoda, M., Too, K., Sato, H., Yamashita, J., Abe, H., Takamiya, T., Kurosaki, T. & Shibata, R.(1954)，中村良一・其田三夫・戸尾祺明彦・佐藤博・山下次男・阿部仁・高宮寿男・黒崎達朗・芝田六郎(1955)，佐々木昇・佐野敬二(1954b)，佐々木昇・佐藤政雄・佐野敬二(1954b, 1957)，谷口守男(1954, 1956)，谷口守男・板垣四郎(1954)，谷口守男・数野勇造・太田襄二・阿部昭二(1954)，谷口守男・太田襄二・阿部昭二・白戸末之進・斎藤一友(1955)，谷口守男・押田等・吾妻五朗・鴫原京一(1554)，谷口守男・米花由次(1953)

6. 予防

石原忠雄・上野計(1955b)，石原忠雄・上野計・押田等・長岡春義(1956)，中村良一・松橋晧・山下次郎・佐藤博・原田太・中島康順(1955b)，中村良一・其田三夫・佐藤博・戸尾祺明彦・山下次郎・音別・江別農協家畜診療所(1954)，中村良一・其田三夫・戸尾祺明彦・佐藤博・山下次郎・阿部仁・高宮寿男・黒崎達朗・芝田六郎(1955)

b. 牛（わひ又こせ）

1. 疫学

佐藤孝慈・林滋生・佐々学(1954)

2. 中間宿主

細谷英夫・玉井吉郎・鮭川誠治(1956)

3. 病理，病因

市岡朝祐(1954)，河野猪三郎・新美大四郎(1954)，新美大四郎(1953, 1954)，新美大四郎・河野猪三郎(1952, 1953, 1954a, 1954b, 1954c 1951, 1955b, 1956)，小国秀雄(1927a, 1927b, 1928, 1929b, 1929c)，佐藤孝慈・林滋生・佐々学(1954)，佐藤孝慈・林滋生・田中寛(1954)，佐藤孝慈・林滋生・田中寛・佐々学・新美大四郎(1654)，佐藤孝慈・田中寛・林滋生・佐々学・林原必正・佐々木昇(1954)

4. 診断，治療

広江巌(1955)，堀準義郎(1957)，河野猪三郎(1956)，真嶋礼三郎・迫悟・江口博三(1958)，小国秀男(1929a, 1929c)，佐藤孝慈・林原必正(1954)，佐藤孝慈・林原必正・林滋生(1954)，佐藤達(1952)，谷口守男・米花由次(1953)

5. 予防

新美大四郎(1954)

III. 諸種動物寄生糸状虫

CARDIONEMA
ten Yamaguti, 1941　山口左仲　1941d（分類）
DIPLOTRIAENA
bargusinica Skrjabin, 1917
山口左仲　1935a（形態）
manipoli Chu, 1931　山口左仲　1935b（形態）
monticolae Yamaguti, 1935
山口左仲　1935c（分類）
nipponensis Yamaguti, 1941
山口左仲　1941i（分類）

DIROFILARIA
ursi Yamaguti, 1941　山口左仲　1941a（分類）
EUFILARIA
lari Yamaguti, 1935　山口左仲　1935d（分類）
HAEMATOSPICULUM
accipitris Yamaguti, 1941　山口左仲　1941e（分類）
sp. (from *Otus bakkamoena semitorques*)
山口左仲　1941f（分類，形態）
sp. (from *Lanius cristatus lucionensis*)
山口左仲　1941g（分類，形態）
ICOSIELLA
kobayashi Yamaguti, 1941　山口左仲　1941c（分類）
LITOMOSOIDES
carinii (Travassos, 1919)　佐々学・林滋生 1955（感染），若杉幹太郎 1955（感染），若杉幹太郎・林滋生・田中寛 1955（感染）
PSEUDOLITOMOSA
musasabi Yamaguti, 1941　山口左仲　1941b（分類）
SERRATOSPICULUM
tendo (Nitzsch, 1857)　山口左仲　1941h（形態）
SPIROFILARIA
podicipitis Yamaguti, 1935
山口左仲　1935e（分類）

不明のフイラリア　林滋生・佐藤孝慈・若杉幹太郎 1956（形態，分類），加納六郎 1950（形態），中川善松 1914（形態）

寄生虫学雑誌
(Japanese Journal of Parasitology)
Vol. 8 Suppl. 1959

昭和34年3月25日 印刷
昭和34年4月1日 発行

編集兼発行　日本寄生虫学会
印刷人向　喜久雄
印刷所　一ツ橋印刷株式会社

学会事務所　東京都品川区上大崎長者丸
国立予防衛生研究所内
電話白金(44) 2181-2186
内線 69, 70
(編集)(会計)
振替口座 東京 1451